

宮古島市スポーツ推進計画



平成27年7月
宮古島市
宮古島市教育委員会

はじめに



スポーツは、子どもから大人まで、言葉や生活習慣の違いを超えて、誰もが参加できるものです。身体を動かすことは、爽快感を呼び起こし、体力の向上や健康の維持増進をもたらすとともに、年齢や立場を超えた地域の交流の機会を創り出すなど地域の活性化ももたらしてくれます。

宮古島市においては、昭和63年に「スポーツアイランド構想」を掲げ、国際的規模のイベントである全日本トライアスロン宮古島大会、スポーツキャンプ、各種スポーツ大会の誘致などを行い、スポーツを活用した人材育成と交流促進を基本に地域活性化に取り組んできました。

国においては、平成23年にスポーツ基本法が施行され、平成24年にスポーツ基本計画が策定されました。また、2020年のオリンピック・パラリンピックの東京への招致が決定するなど、近年、スポーツを取り巻く環境整備は着々と進んでいます。

このような中、スポーツ基本法の規定に基づき、本市の実情に即したスポーツ推進を図るための総合的な計画として「宮古島市スポーツ推進計画」を策定しました。

本計画では、本市の特徴を活かし、スポーツがもたらす効果を最大限に発揮させ、市民、スポーツ関係団体、行政などが連携・協働してスポーツを楽しめる「スポーツアイランド宮古島」を目指します。

より多くの市民の皆様が、様々なスポーツに親しむことにより、人も地域も共に健康で元気なまちづくりにつながると考えています。計画の推進にあたっては、市民をはじめ、各関連組織等のご理解・ご協力をお願いするとともに、市民が誇れるスポーツアイランドを目指し、計画の推進に取り組めます。

結びに、本計画の策定にあたり熱心にご審議いただきました宮古島市スポーツ推進審議会委員をはじめ、パブリックコメントに貴重なご意見を頂いた市民の方々、関係各位に心からお礼申し上げます。

平成27年7月

宮古島市長 下地 敏彦

この度、本市におけるスポーツ推進を図るための総合的な計画である「宮古島市スポーツ推進計画」が策定されたことを市民の皆様にご報告いたします。そして、本計画の施策実現に向けて邁進していくことを強く決意している処であります。



宮古島市は、スポーツを活用した人材育成と交流促進を基本とする地域活性化戦略として、昭和63年に「スポーツアイランド構想」を掲げ、競技スポーツの振興と市民の健康増進を図ってまいりました。それらは着実に成果をあげており、平成25年3月に策定された「第1次宮古島市総合計画 後期計画」の中では、さらなるスポーツ振興のための、新たな取り組みを展開することが求められています。

教育委員会においては平成24年6月に、本市の教育振興の施策に関する基本的な計画を定めた「宮古島市教育ビジョン」を制定し、「市民の誰もが気軽にスポーツを楽しむ環境づくり」「体育施設の効率的な管理」「各競技団体やスポーツクラブ等の地域における市民スポーツの推進」等を大きな目標に掲げて、スポーツアイランドの確立を目指した教育行政に取り組んでいるところであります。

宮古島市スポーツ推進計画は、前述の上位計画の施策を実現するために、その具体策として策定されたものです。計画は大きな5つの基本方針から成っていますが、なかでも特に、幼児期を含めた子ども達のスポーツ活動と、人材育成やスポーツ医科学の活用等も視野に入れた競技スポーツの充実に重きを置いた計画となっております。

そのほか、高齢者や障がいをもつ方々のスポーツの推進や、スポーツイベントやキャンプの誘致などのスポーツツーリズムの受け入れ施設の整備、総合型地域スポーツクラブの設立運営支援など、様々な分野にわたる内容が盛り込まれた計画となっております。また、既存の体育施設の有効活用については、平成26年3月に策定した「宮古島市スポーツマネジメントプラン」で定めており、併せて推進してまいります。

今後は、本計画を踏まえて、スポーツ振興および市民の皆様々の健康増進、ひいては宮古圏域の活性化に貢献出来るよう、国や県の計画と連携し、整合性をとりながら施策を講じてまいりたいと考えております。

結びに、本計画の策定にあたりご尽力頂いた、宮古島市スポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、パブリックコメントに貴重なご意見を頂いた市民の方々や、関係各位に心より感謝申し上げます、私の挨拶と致します。

平成27年7月

宮古島市教育委員会 教育長 宮國 博

目次

1章 計画の基本的な考え方	1
1. 計画策定の背景	1
2. 計画の目的	2
3. 計画の位置づけ	3
4. 計画の期間	3
2章 スポーツに関する現状と課題	4
1. 成人のスポーツ	4
2. 子どものスポーツ	6
3. 高齢者のスポーツ	8
4. 障がい者のスポーツ	10
5. 指導者・支援者	12
6. スポーツ競技団体	14
7. 総合型地域スポーツクラブ	16
8. スポーツ施設	18
9. スポーツイベント	22
3章 スポーツ推進の方向性	24
1. 目指す将来像	24
2. スポーツ推進の基本方針	25
4章 施策	26
1. 子どものスポーツ活動の推進	26
2. 生涯スポーツの推進	30
3. 競技スポーツの充実	34
4. スポーツを活用した地域活性化	37
5. 住民が参画・運営するスポーツ環境の整備	41

5章 計画の推進に向けて	45
1. PDCA サイクルによる進行管理.....	45
2. 進行管理体制の設置.....	45
3. 各進行管理体制による PDCA の流れ.....	46
資料編	47
1. 用語集.....	47
2. 計画策定の経緯.....	51
3. 計画策定の体制.....	52
4. 市民のスポーツに関する意識調査.....	53
5. スポーツ指導者への意向調査.....	108
6. スポーツ関連団体等への意向調査.....	114

「※」が付いている用語については、「資料編 1. 用語集」で説明していますので参照してください。

1章 計画の基本的な考え方

1. 計画策定の背景

国や沖縄県のスポーツ政策の動向

国においては、昭和36年に制定されたスポーツ振興法を50年振りに全面改正し、平成23年に「スポーツ基本法^{*1}」を公布するとともに、平成24年には「スポーツ基本計画^{*2}」を策定されました。

スポーツ基本法においては、国及び地方公共団体はスポーツに関する施策を策定し実施する責務があることが定められており、地方公共団体においては、スポーツ基本法の定める基本理念にのっとり、スポーツに関する施策について、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特徴に応じた施策を策定し、実施する責務があると定められています。

スポーツ基本法第10条では、スポーツ基本計画を参しゃくして、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（地方スポーツ推進計画）を定めることが求められており、沖縄県では平成25年3月に「沖縄県スポーツ推進計画」を策定し、県、市町村、スポーツに関わるすべて人や団体が一体となって取り組むべき方向性を示しています。

宮古島市のスポーツ政策と社会環境の変化

本市では、スポーツを活用した人材育成と交流促進を基本とする地域活性化戦略として「スポーツアイランド構想」を掲げ、全日本トライアスロン宮古島大会をはじめとするスポーツイベントの開催やプロ野球球団のキャンプ誘致など数多くの取り組みを展開し、交流人口の増加による地域経済への波及効果などスポーツ振興および宮古島圏域の活性化に貢献してきました。

しかし、昭和63年に策定されたスポーツアイランド構想は、策定から20年以上が経過し、近年、人口減少や少子高齢化、世帯人員の減少、情報化の進展、地域コミュニティの希薄化、プロ野球キャンプの撤退などの社会情勢が大きく変化しています。

また、子どもの体力低下、多様なライフスタイルに対応するスポーツ環境に関する課題、プロスポーツや障がい者スポーツの発展など、スポーツを巡る状況も大きく変化しており、宮古島市のスポーツ振興の新たな展開を図る必要がでてきました。

スポーツアイランド構想

スポーツを基軸とした活動を活発にして宮古の健全な人づくりと宮古内外の交流を促進し、もって、宮古の活性と平和で民主的な地域づくりを推進するものとし、こうしたスポーツを活用した人材育成と交流促進を基本とする活性化戦略。

2. 計画の目的

宮古島市においても、スポーツの果たす社会的な価値、文化的な価値を確認したうえで、国や沖縄県のスポーツ関連部署と連携を図り、宮古島市を取り巻く社会環境の変化や地域の課題に対応するために、新たなスポーツ推進の基本計画「宮古島市スポーツ推進計画」を策定します。

また、宮古島市では、スポーツ推進と関連する事業や取り組みが示されている複数の個別計画があり、これらの事業や取り組みを関連付け連携させながら、スポーツを中心とした施策体系を構築し、本市におけるスポーツ推進を総合的かつ計画的に図ることも本計画を策定する意義です。

本計画においては、本市の特徴である地理的・自然的条件とスポーツ資源を有効に活かし、「スポーツアイランドの推進（スポーツを活用した人材育成と交流促進を基本とした地域活性化の実現）」と「生涯スポーツの充実（市民それぞれの体力や年齢、目的に応じて気軽にスポーツに親しむことができる環境の実現）」、「競技スポーツの充実」を目指します。

スポーツが果たす役割と対象とするスポーツ

スポーツは、世界共通の人類の文化であり、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自立心その他精神の涵（かん）養等のために個人または集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっています。

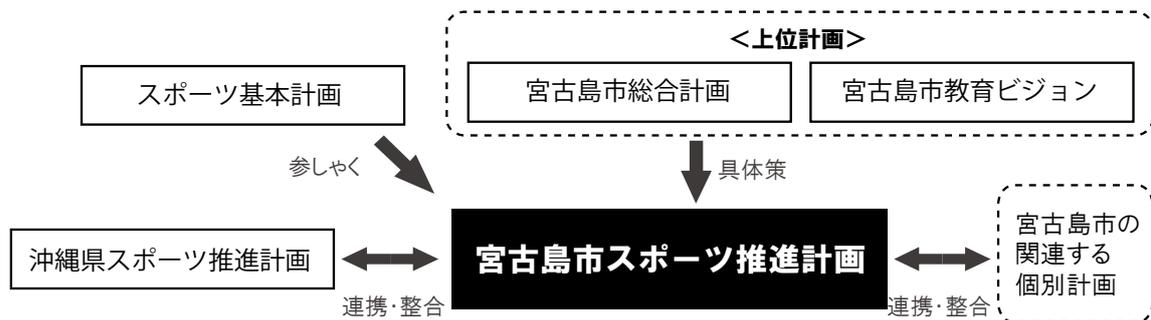
本計画では、「スポーツ」を幅広く捉え、競技性の高いスポーツだけでなく、ウォーキングや体操、ストレッチなど体を動かす活動や、介護予防のためのトレーニング、スポーツとして行われるレクリエーションも含めて計画の対象とします。

また、自らが体を動かして行う「する」スポーツだけでなく、他社の競技を観戦する「みる」スポーツや、監督・コーチ等の指導者、スポーツ大会の審判やスタッフ等として参画する「支える」スポーツ等も、スポーツ活動の対象とします。本計画では、「スポーツ」という概念や活動を広く定義づけ、住民のスポーツ・運動や健康づくりを推進していきます。

3. 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条に基づき、スポーツ基本法の理念に則り、「スポーツ基本計画」を参しやくするとともに、「沖縄県スポーツ推進計画」との整合性に留意して策定するものです。

また、本計画は、本市の最上位計画である「宮古島市総合計画」におけるスポーツ分野の部門別計画として具体的な取り組みの方向性を示し、各種関連計画との連携・整合を図りつつ、スポーツ関連施策の総合的な推進を図るための計画として位置付けます。



4. 計画の期間

本計画の期間は策定から概ね8年間（平成27年度～平成34年度）とします。

本計画においては、8年間を通した目指す将来像、基本方針を定め、今後5年間に計画的に取り組む施策を定めることとします。ただし、社会情勢の変化や上位・関連計画の見直しが行われた際には、それらと整合性を図り、本計画の適宜見直しを行います。

H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
宮古島市スポーツ推進計画 (H27～34)							
(国)スポーツ基本計画(H24～33)							
沖縄県スポーツ推進計画(H25～33)							
第1次宮古島市総合計画		第2次宮古島市総合計画(H29～38)					
後期計画(5年)		前期計画(H29～33)					

2章 スポーツに関する現状と課題

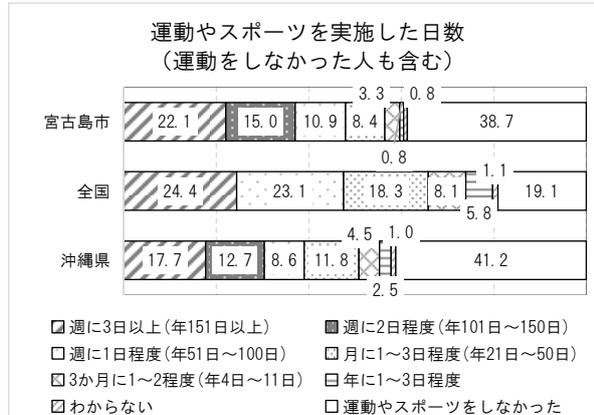
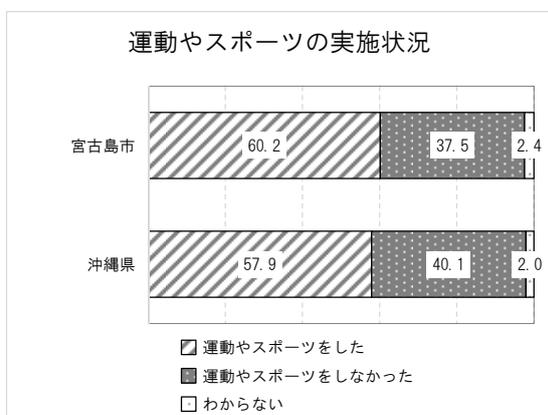
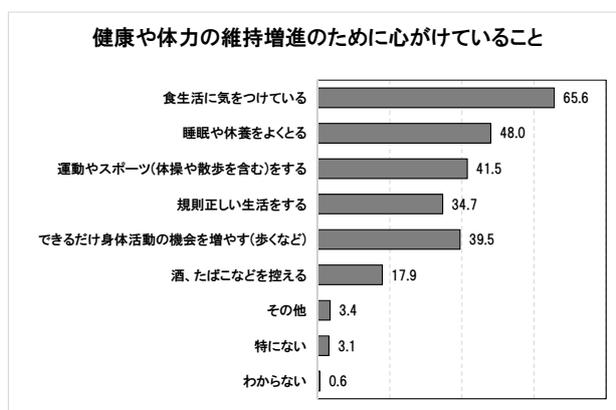
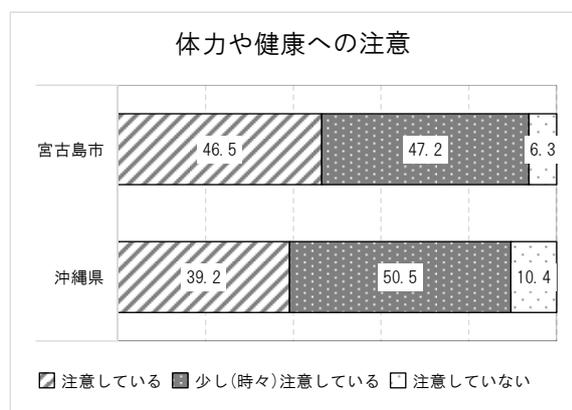
1. 成人のスポーツ

健康に対する意識が高く、運動・スポーツを実施している人が多い

宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」（平成27年1月調査）（以下、宮古島市市民意識調査）及び沖縄県「県民の体力・スポーツに関する意識調査報告書」（平成24年調査）（以下、沖縄県県民意識調査）、文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」（平成24年度調査）（以下、文部科学省世論調査）によると、体力や健康への注意をしている人の割合は、沖縄県より本市の方が高く、健康や体力への注意をしている人の約4割の方が、健康や体力の維持増進のために心がけていることとして、「運動やスポーツをしている」と回答しています。

運動・スポーツの実施状況を見ると、沖縄県より本市の方が、運動・スポーツを実施している答えた人の割合が高く、また、週に1日以上運動・スポーツを実施した人の割合は、全国や沖縄県よりも本市の割合が、かなり高くなっています。

本市が運動・スポーツを実施している人の割合が高い要因として、近年の健康志向の高まりによる地域のサークル・クラブの増加、多くのスポーツイベントの開催など、スポーツに触れる機会が増えていることが考えられます。

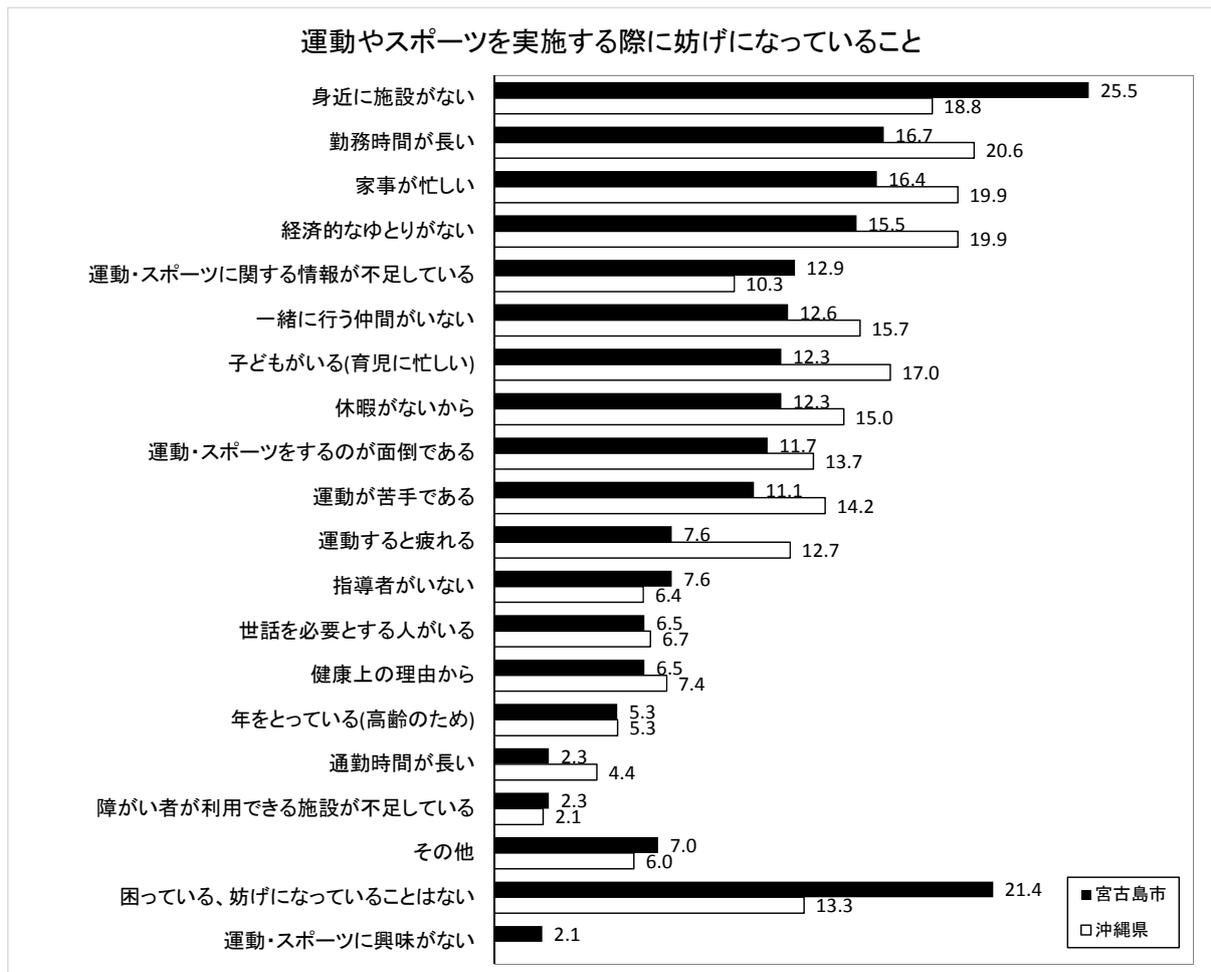


資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」
 沖縄県「県民の体力・スポーツに関する意識調査報告書」
 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」

施設や勤務時間などが運動・スポーツをする際の妨げになっている

「宮古島市市民意識調査」によれば、運動・スポーツを実施する際に妨げになっていることでは、「身近に施設がない」と答えた人の割合が最も高く、次いで「勤務時間が長い」となっています。

沖縄県と比較すると、本市では「身近に施設がない」、「運動・スポーツに関する情報が不足している」、「指導者がいない」と答えた人の割合が高くなっています。一方で、「困っている、妨げになっていることはない」と答えた人は約2割おり、沖縄県と比較すると割合が高く、スポーツを行う環境として満足している人が多いと言えます。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」
 沖縄県「県民の体力・スポーツに関する意識調査報告書」

<課題>

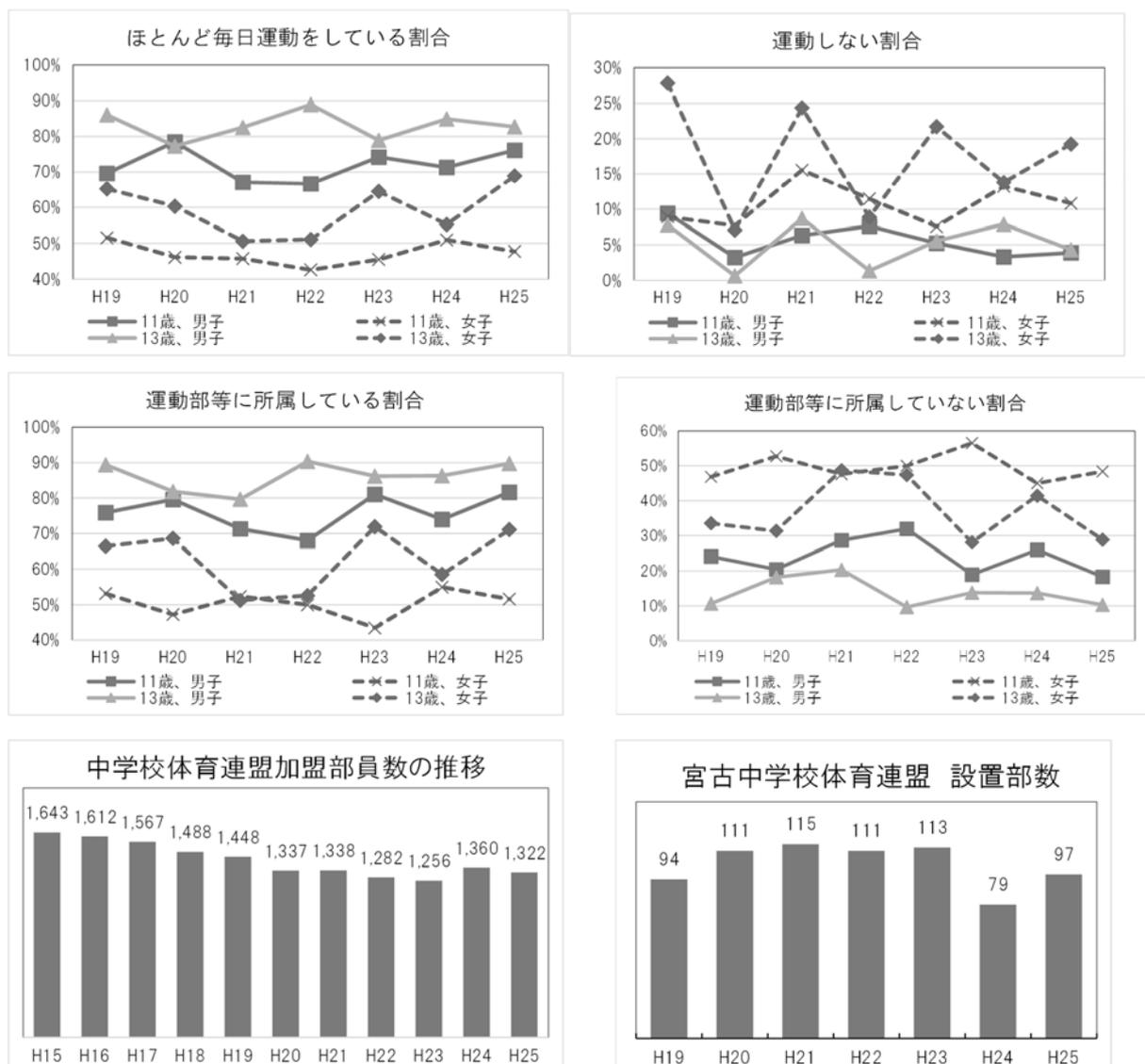
- ① 多様なライフステージ^{※3}に合わせて、短い時間でも参加できるような運動・スポーツ機会の創出が必要です。
- ② 市内の利用可能なスポーツ施設や運動・スポーツに関するイベント等の情報を発信し、市民に広く周知をすることが必要です。

2. 子どものスポーツ

学校での運動・スポーツの機会が減少している

「運動・スポーツ実施日数」及び「運動部等の所属状況」を見ると、男子（11歳、13歳）は「ほとんど毎日運動している」、「運動部に所属している」と答えた人の割合高くなっています。一方、女子（11歳、13歳）は、「運動をしない」、「運動部等に所属していない」と答えた人の割合が高くなっています。

中学校体育連盟加盟部員数及び設置部数を見ると、部員数が減少傾向にあり、部員数の減少により、運動部が減少し、学校でのスポーツ機会の減少につながっていると考えられます。また、今後、運動しない子どもの割合が高くなると、全国的にも問題となっている運動をしている子どもとの間で体力差が生じる「体力・運動能力の二極化」が進む可能性が高くなります。



資料：宮古島市「体力・運動能力、運動習慣等調査(全国体力テスト)^{**4)}

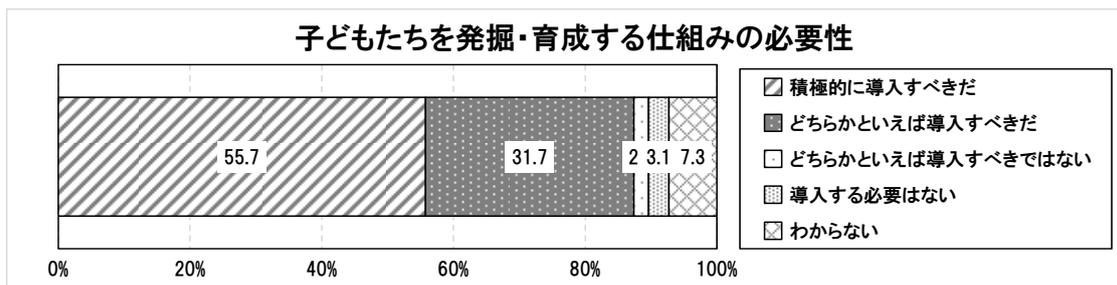
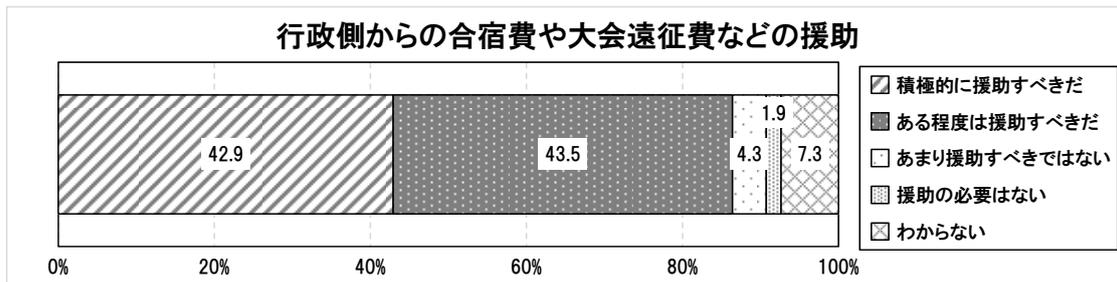
宮古島市「中学校体育連盟への調査」

遠征費等の負担低減や子どもたちを育成する仕組みが求められている

本市の子どもたちの中には、全国大会へ出場するなど、本市のジュニアアスリートや競技団体が活躍しています。

しかし、優れた競技者ほど、合宿や大会遠征等で市外へ出向く機会が多くなり、競技者や保護者、指導者等の遠征費等が大きな負担となっており、これらの負担が負えない場合、スポーツを継続することを断念する子どももいます。

「宮古島市市民意向調査」によると、「行政側から合宿費などの援助を行うべきだ」、「子どもたちを発掘・育成する仕組みが必要である」と答えた人の割合は8割以上となっており、子どもたちのスポーツ環境や競技力の向上への支援が求められています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

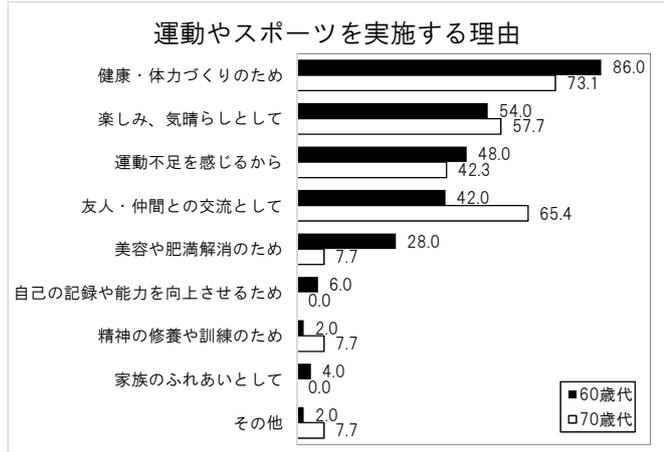
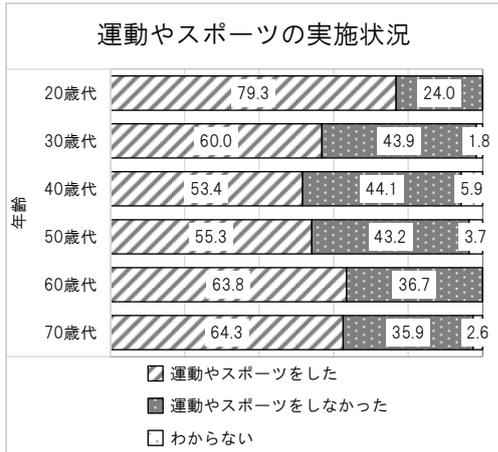
<課題>

- ① 幼児や小学校低学年の時から、学校や地域の中で様々な運動やスポーツ競技に触れられる機会を増やし、運動をしない子どもを減らすことが必要です。
- ② 学校のみでなく、地域全体で、指導者やチーム、スポーツ施設などの環境を整え、子どもが継続的にスポーツできる環境を整えることが必要です。
- ③ 子どもたちが高いレベルの試合やトレーニングを気兼ねなく行えるように、合宿費や大会遠征費などを支援する仕組みが必要です。

3. 高齢者のスポーツ

運動・スポーツを通して、健康づくりや仲間と交流を楽しんでいる

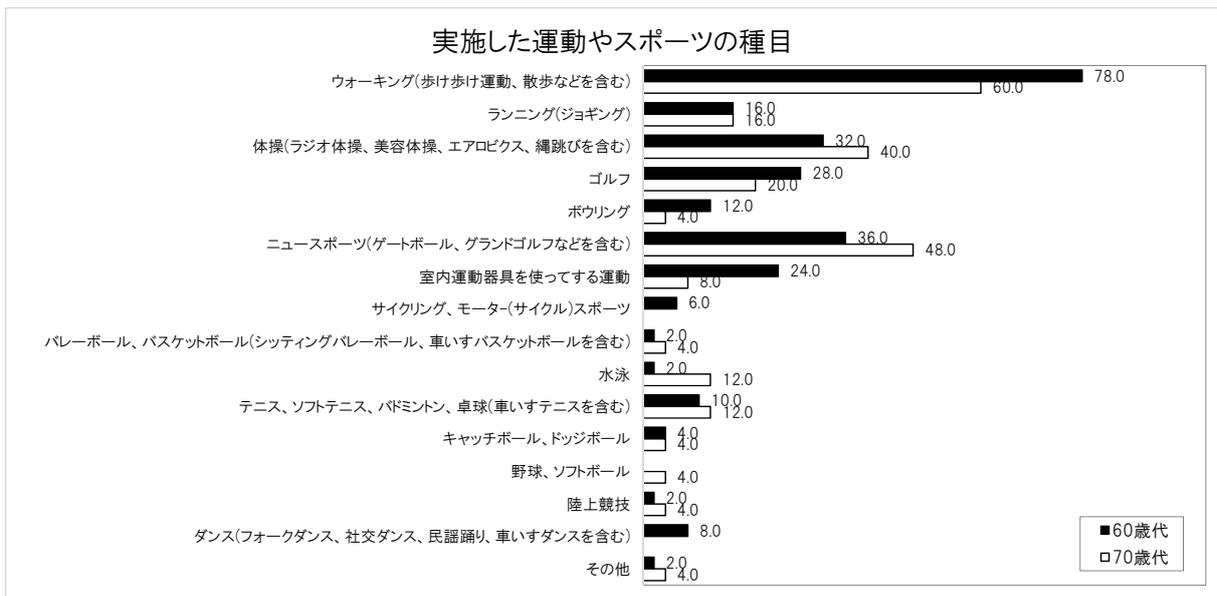
「宮古島市市民意識調査」の運動やスポーツの実施状況を年齢別に見ると、60歳代以上の高齢者の運動やスポーツ実施したと答えた人の割合が高く、また、運動やスポーツを実施する理由としては、「健康・体力づくり」や「友人・仲間との交流」と答えた人の割合が高くなっています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

高齢者を中心にニュースポーツ※⁵が盛んに行われている

60歳代以上の高齢者の方が実施した運動・スポーツの種目では、「ウォーキング」が最も多く、次いでグラウンドゴルフやゲートボール、ラージボールなどの「ニュースポーツ」を行っている割合が高く、本市では高齢者を中心にニュースポーツが盛んに行われています。

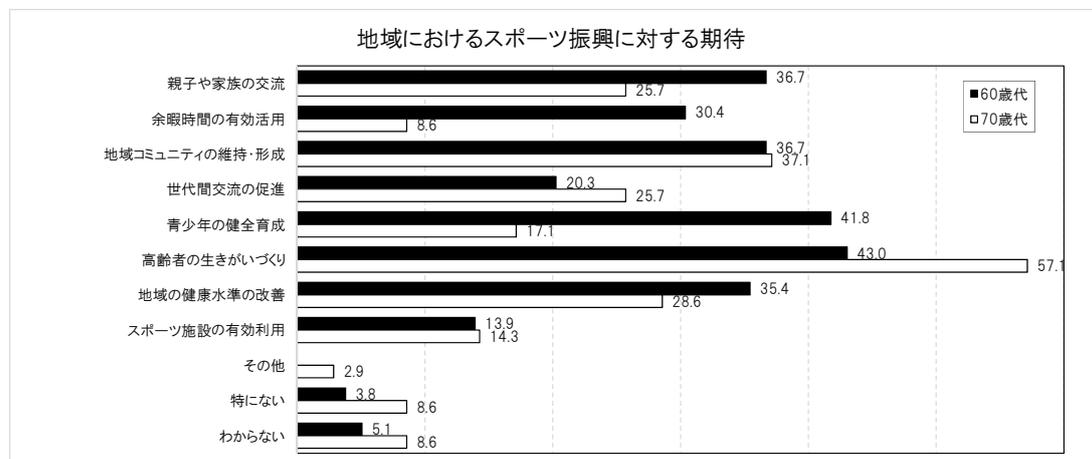
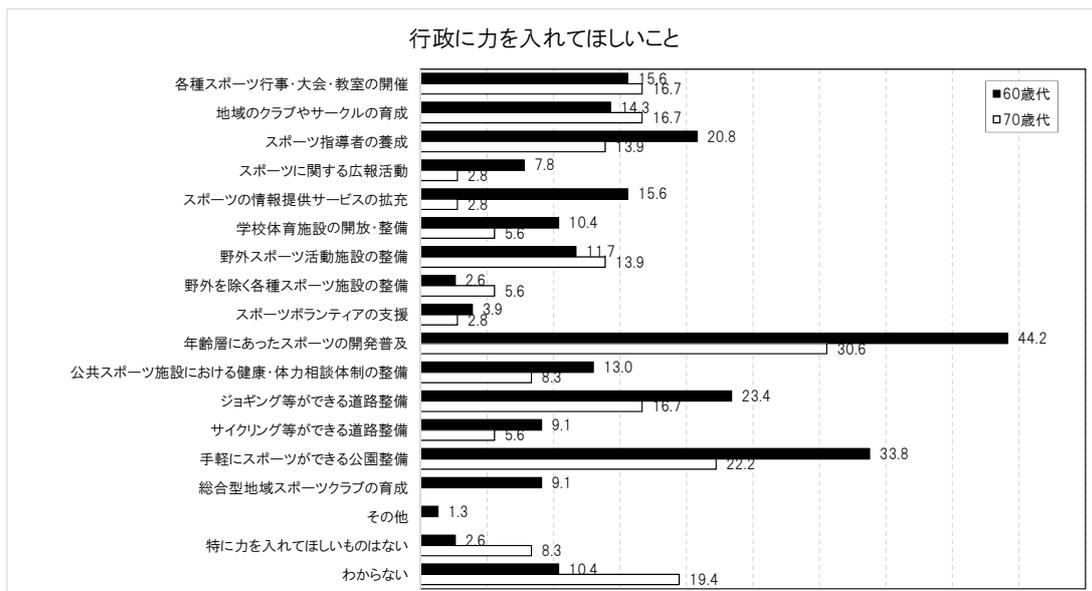


資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

年齢層にあったスポーツ開発や生きがいがづくりが望まれている

「宮古島市市民意識調査」によれば、60歳以上の高齢者が行政に力を入れてほしいこととしては、「年齢層にあったスポーツ開発普及」と答えた人の割合が最も高く、次いで「手軽にスポーツができる公園整備」となっています。

60歳以上の高齢者が地域におけるスポーツ振興に対する期待としては、「高齢者の生きがいがづくり」と答えた人の割合が最も高く、次いで「地域コミュニティの維持・形成」となっています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

<課題>

- ① 高齢者が特に興味がある「健康づくり」に関する情報発信を強化する必要があります。
- ② 軽スポーツやニュースポーツ等の普及のために、指導者の育成や大会等の誘致を検討する必要があります。
- ③ 高齢者の運動・スポーツの促進のために、高齢者の体力に合わせたスポーツ競技やスポーツプログラムを導入・開発する必要があります。

4. 障がい者のスポーツ

障がい者のスポーツ機会が増え、トップクラスの競技者が誕生している

本市における障がい者手帳の交付件数は年々増加傾向にあり、障がい者が社会とのつながりをつくる上で、運動・スポーツに触れて外に出ていくことに、重要な価値があります。

障がい者スポーツとして、本市では車いすバスケットボールやサウンドテーブルテニスなどが盛んに行われています。また、障がい者がスポーツに触れる機会が増えたことで、本市から県内トップクラスの競技者（陸上競技）が生まれています。

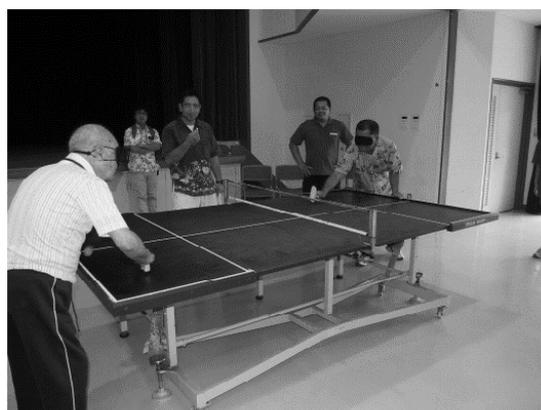
障がい別手帳所有者の推移

	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
身体障害者手帳所持者	2,046	2,234	2,268	2,279	2,298
療育手帳所持者	332	352	369	380	379
精神障害者保健福祉手帳所持者	329	305	302	356	356

資料：「第1次宮古島市総合計画 後期計画」



【車イスバスケット】



【サウンドテーブルテニス】

障がい者が安心してスポーツを実施できる環境が整備されていない

市内の公共スポーツ施設では、バリアフリー^{※6}化が進んでおらず、車いすで利用できる公共スポーツ施設が少ないため、競技ができる施設が限られています。また、車いすバスケットボールなどは、市民の認知度が低く、競技者も少ないため、市内で試合をすることができず、沖縄本島まで試合に出向かなければならないことがあり、競技者の金銭的な負担が大きくなっています。

また、市内には障がい者へ指導ができる指導者や支援者が不足していることから、市内で適切な指導を受けられないため、有望な競技者は沖縄本島へ活動拠点を移しています。

<課題>

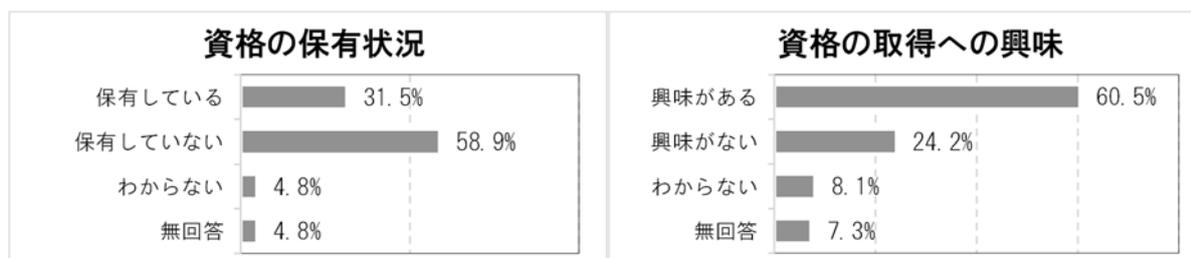
- ① 障がい者が社会とのつながりをつくり、生き生きとした暮らしを実現するために、気軽に運動やスポーツが行える機会を創出することが必要です。
- ② 市内の公共スポーツ施設は、市民誰もが利用することを想定して、段差をなしたバリアフリーやユニバーサルデザイン^{※7}の考え方で整備を行うことが必要です。
- ③ 障がい者スポーツの普及促進及び地域活性化を図るため、障がい者が参加できるスポーツイベントの開催を検討する必要があります。
- ④ 障がい者スポーツの普及促進及び地域活性化を図るため、障がい者のトップアスリート^{※8}がトレーニングできる環境（指導者、支援者）を整備する必要があります。



5. 指導者・支援者

資格を保有している人は3割程度だが、資格取得に興味のある人は多い

「指導者へのアンケート調査」を見ると、市内では資格を有している指導者は約3割、指導者に関する資格の取得に興味のある指導者は約6割います。



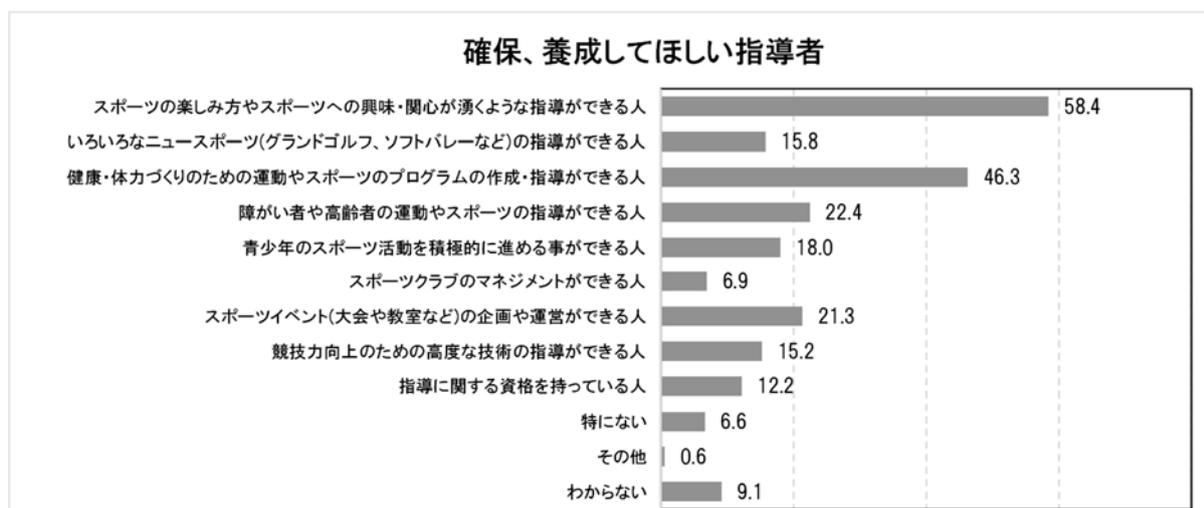
<保有している資格>

全国小学生バレーボール指導者講習会／公認スポーツ指導者／日本バレーボール指導員／日本体育協会バレーボール指導員／スポーツリーダー／スターターコーチ／スポーツ少年団 公認スポーツリーダー／JAB (日本バスケットボール協会)公認E-1 コーチライセンス／ミニバスケ指導資格E-1／JBC公認D級指導者／保健体育教員免許状／C級指導員者ライセンス／日本サッカー協会指導者ライセンス公認C級／公認キッズリーダー／日本体育協会公認コーチ／ウェーブストレッチ、インストラクター、ストレッチポールインストラクター／D級コーチライセンス／段位（剣道、柔道、空手）／講道館柔道A指導員

資料：宮古島市「指導者アンケート調査」

「スポーツの楽しみ方」や「健康や体力づくり」を指導していただける人材が求められている

「宮古島市市民意識調査」を見ると、確保、養成してほしい指導者として「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心が湧くような指導ができる人」と答えた人の割合が最も高く、次いで「健康や体力づくりのための運動やスポーツのプログラムの作成ができる人」となっています。市民は「スポーツの楽しみ方」や「健康や体力づくり」を指導してくれる人材を求めています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

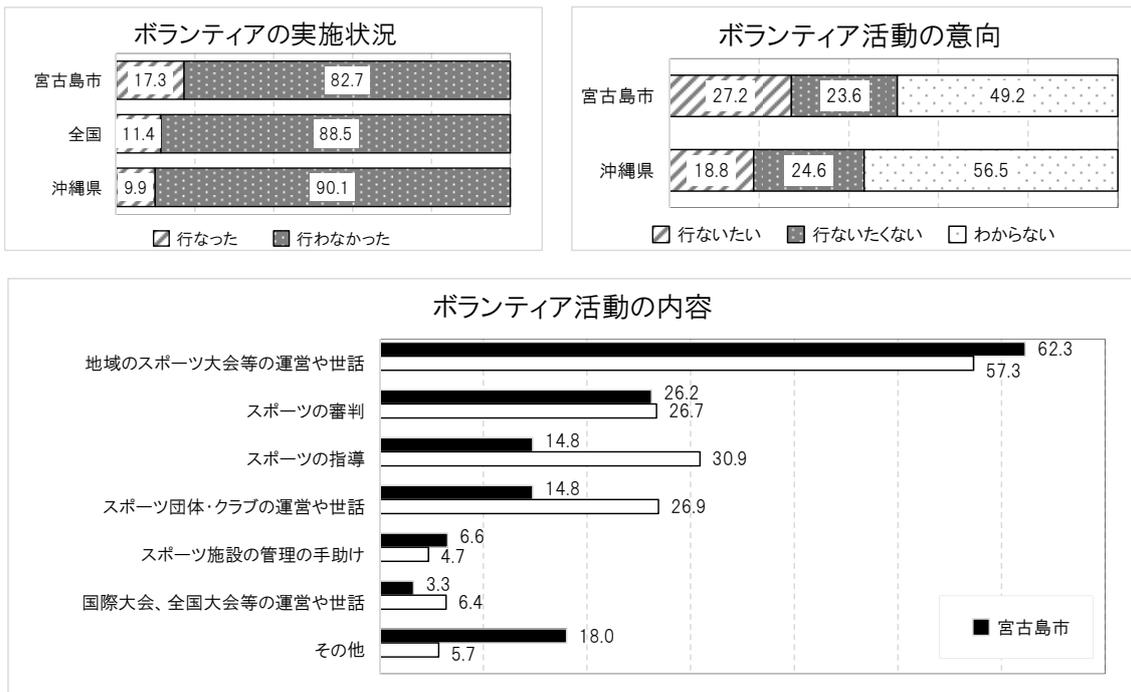
競技力の向上のためには、指導者が重要

本市で競技力が向上した競技として、「陸上競技」、「ウエイトリフティング」、「ボクシング」などが挙げられるが、これらの競技力が向上した要因は、優秀な指導者による指導が大きいと言われています。一方、優秀な指導者がいなくなると、指導力が低下し、競技者数の減少、競技力が低下してしまった競技もあります。

スポーツに関するボランティアへの参加意向が高い

本市では、国や沖縄県と比較すると、ボランティアに参加している人や市民のスポーツボランティア^{※9}への参加意識がある人が多く、スポーツを支える人材が豊富にいると言えます。

ボランティア活動の内容を、沖縄県と比較すると「地域のスポーツ大会等の運営や世話」と答えた人の割合が高く、逆に、「スポーツ指導」、「スポーツ施設の管理の手助け」と回答した人の割合は低くなっています。「地域のスポーツ大会等の運営や世話」と答えた人の割合が高い要因として、地域のスポーツ大会等は、各競技団体のメンバーで運営をサポートしているためであると考えられます。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

<課題>

- ① 質の高い指導を提供し、競技力の向上を図るために、指導者講習会や資格取得のできる講習会の開催を支援し、多くの優秀な指導者を継続的に確保・育成する必要があります。
- ② 市民のスポーツ意識の向上ために、「スポーツの楽しみ方」や「健康や体力づくり」の指導ができる人の確保・育成することが必要です。
- ③ 意欲のあるスポーツボランティアを活用するために、ボランティアへの情報発信やボランティアの参加受け付けがスムーズにできるような整備を行う必要があります。

6. スポーツ競技団体

競技力の向上を目指し、449の競技団体がそれぞれ活動している

本市には、449の競技団体があり、地域の底辺拡大と競技力の向上を目指し、それぞれの競技団体に強化合宿等の活動をしています。また、近年、競技種目の多様化により、サークルやクラブなどの競技団体が増えてきており、市民が様々なスポーツに触れる機会が増えてい

＜スポーツ関連団体の登録団体・登録者数＞

	小学校		中学校・高校		社会人	
	団体数	登録者数	団体数	登録者数	団体数	登録者数
宮古野球連盟	12 団体	370 人	16 団体	229 人	80 団体	1,200 人
宮古バスケットボール協会	—	—	32 団体	480 人	17 団体	250 人
宮古サッカー協会	7 団体	403 人	8 団体	169 人	20 団体	260 人
宮古バレーボール協会	—	—	18 団体	180 人	20 団体	400 人
宮古島市陸上競技協会	—	—	—	—	—	547 人
宮古バドミントン協会	5 団体	24 人	14 団体	200 人	10 団体	300 人
宮古ミニバスケットボール連盟	27 団体	460 人	—	—	—	—
宮古水泳協会	10 団体	120 人	2 団体	11 人	6 団体	119 人
宮古ソフトテニス連盟	2 団体	20 人	3 団体	35 人	1 団体	150 人
宮古テニス協会	—	—	4 団体	90 人	5 団体	50 人
宮古島市ハンドボール協会	—	—	3 団体	47 人	8 団体	91 人
沖縄県角力協会宮古支部	—	50 人	—	20 人	—	50 人
宮古卓球連盟	—	20 人	—	40 人	—	30 人
沖縄県柔道連盟宮古支部	—	32 人	—	37 人	—	18 人
宮古ボウリングクラブ	—	—	—	3 人	—	60 人
宮古郡剣道連盟	—	—	—	—	—	56 人
宮古ゴルフ連盟	—	約3人	—	約3人	—	約50人
宮古ラグビーフットボール協会	1 団体	10 人	1 団体	13 人	1 団体	22 人
宮古地区小学校体育連盟	21 団体	約700人	—	—	—	—
宮古中学校体育連盟	—	—	85 団体	1,322 人	—	—
宮古地区高等学校体育連盟	—	—	10 団体	約500人	—	—
合計	85 団体	2,212 人	196 団体	3,379 人	168 団体	3,753 人

資料：宮古島市「スポーツ関連団体調査」(平成 25 年調査)

競技団体内の小学校・中学校・高校のつながりが強い

本市の大会等のイベントでは、各競技団体の関係者が、イベント運営のサポートを行っています。各競技団体では、特に小学校・中学校・高校のつながりが強く、中学生や高校生が大会等の運営サポートを行っています。

また、市内の小・中・高校が合同練習や合同合宿を行っており、競技力の向上につながっています。

<課題>

- ① 競技者の底辺拡大のために、スポーツ教室など競技団体の活動への支援を行う必要があります。
- ② 競技力の向上やスポーツ意識の向上のために、各競技団体と協力して、トップアスリートを招いた講習会や講演会等の実施を検討することが必要です。
- ③ 競技力の向上のため、市外からスポーツ合宿等で訪れたチームとの交流を促進させる必要があります。
- ④ 競技力の向上のために、競技団体内のつながりを活かした合同練習や合同合宿を促進する必要があります。



7. 総合型地域スポーツクラブ※10

総合型地域スポーツクラブは市民のスポーツ機会の提供やスポーツ施設の維持管理に貢献している

市内に4つの総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）が設立され、市民にスポーツ機会を提供し、市民のスポーツ意識の向上、健康増進に寄与してきました。また、総合型クラブは、市内の公共スポーツ施設を利用する前後には、簡単な施設の整備等を行っており、スポーツ施設の維持管理にも貢献しています。

しかし、現在、「多世代」、「多種目」、「多志向」、という総合型クラブの特徴を有し、総合型クラブとして活動しているのは下地総合スポーツクラブのみです。

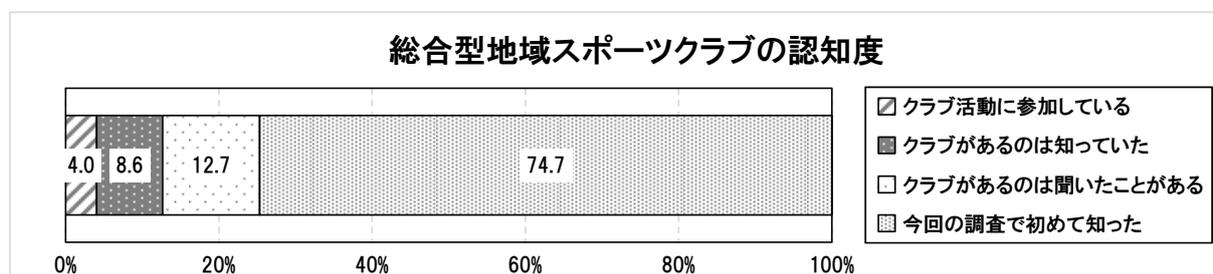
総合型クラブ名	会員数	種目
総合型ひららスポーツクラブ	80名	ラージボール
上野スポーツクラブ	(休止中)	なし
城辺スポーツクラブ	(設立準備中)	陸上競技（長距離、短距離の記録会）
下地総合スポーツクラブ	130名	多種目（ヨガ、太鼓など）

資料：宮古島市「関連団体等へのヒアリング調査」（平成27年1月調査）

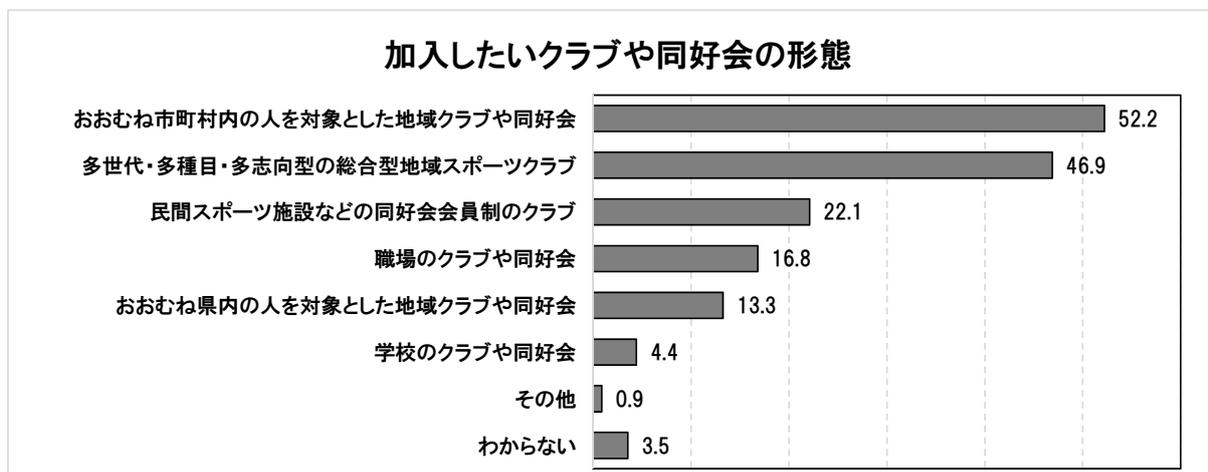
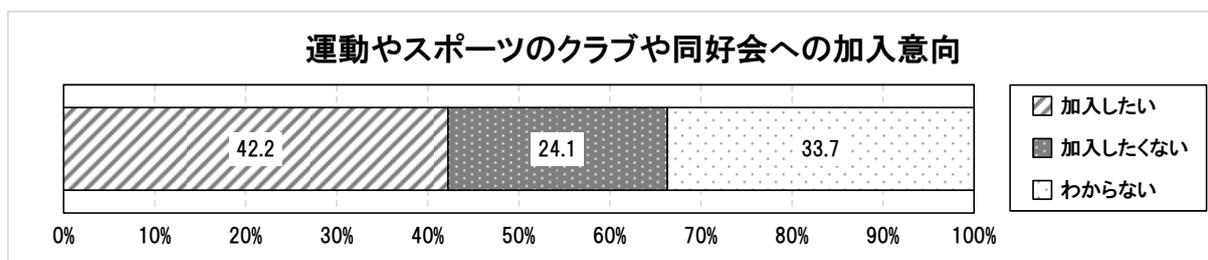
総合型クラブの認知度は低いですが、加入したい人は多い

「宮古島市意識調査」によれば、総合型クラブを認知していると答えた人の割合は、3割未満と少なく、総合型クラブに参加していると答えた人の割合は、1割未満となっています。

また、市民への情報発信不足などにより、会員数が減少している総合型クラブもあります。一方で、運動やスポーツのクラブや同好会へ参加したいと答えた人の割合は、約4割となっており、その内、「総合型クラブ」に加入したいと答えた人は約半数となっており、潜在的に総合型クラブに所属したいと考えている人が多くいます。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

自立的に総合型クラブを運営するための財源や人材が不足している

市内の総合型クラブは、規模が小さく、財源も補助金に頼っている状況であり、補助金がないと活動ができなくなる可能性があります。また、常勤のクラブマネージャー^{*11}や有資格指導者、プログラムの作成・指導ができる人が不足しており、適切な運営、活動ができていない総合型クラブもあります。

<課題>

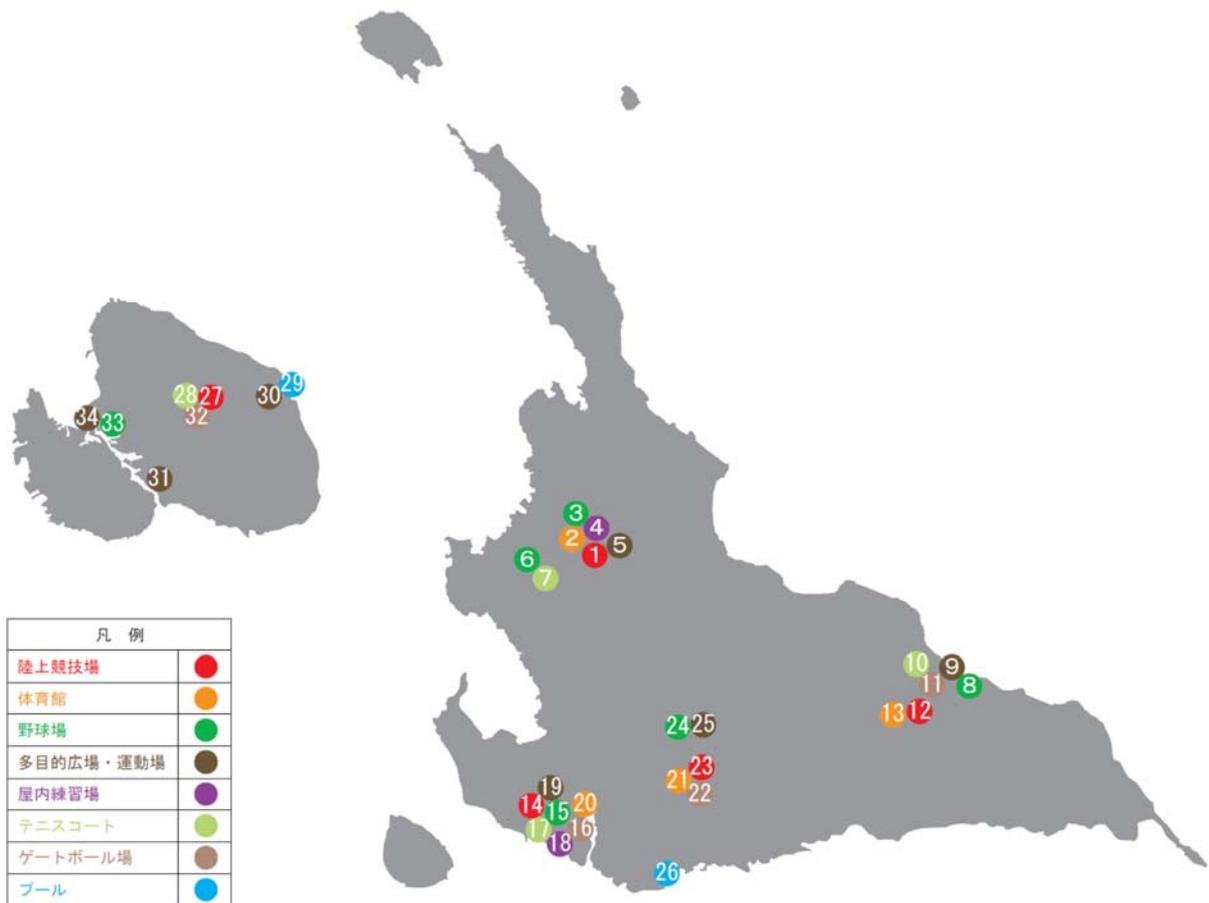
- ① 地域の誰もがスポーツに気軽に参加できるようにするために、特定の競技者やスポーツ種目のみでなく、「多世代」、「多種目」、「多志向」の総合型クラブを目指す必要があります。
- ② 総合型クラブの会員の増やし、地域のスポーツ機会の創出につなげるために、総合型クラブの活動等を広く情報発信する必要があります。
- ③ 地域住民により自主的・主体的に運営される総合型クラブを目指し、クラブマネージャーなどの資格等の取得及び総合型クラブの法人取得を支援する必要があります。
- ④ スポーツ施設の適切な維持管理と総合型クラブの施設利用料の軽減につなげるため、総合型クラブと連携したスポーツ施設の管理を検討する必要があります。

8. スポーツ施設

類似施設が多く、老朽化が進んでいる。また、維持管理の費用と人材が不足している

施設面においては、陸上競技場や体育館、野球場等の施設が合併前の旧市町村ごとに整備され比較的恵まれた環境にあります。

その一方で、類似施設が多く、施設によって利用状況が大きく異なっています。また、施設の老朽化が進み、スポーツ施設の機能を保つために必要な施設の修繕コストや維持管理に係る人材が不足しています。



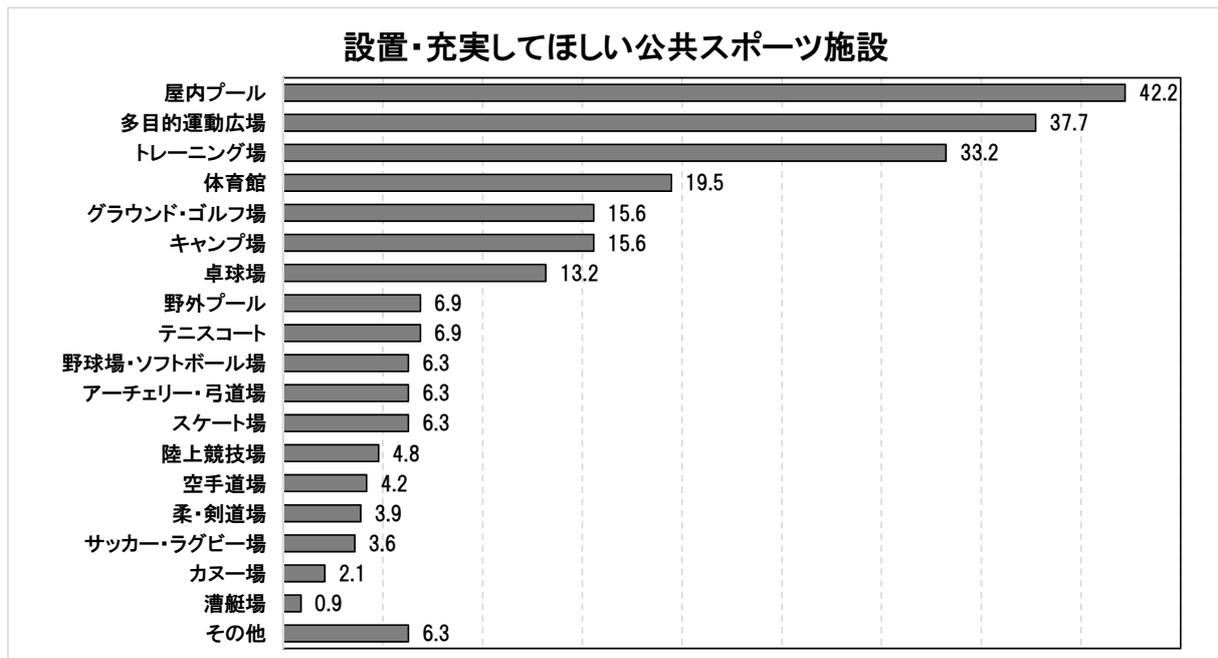
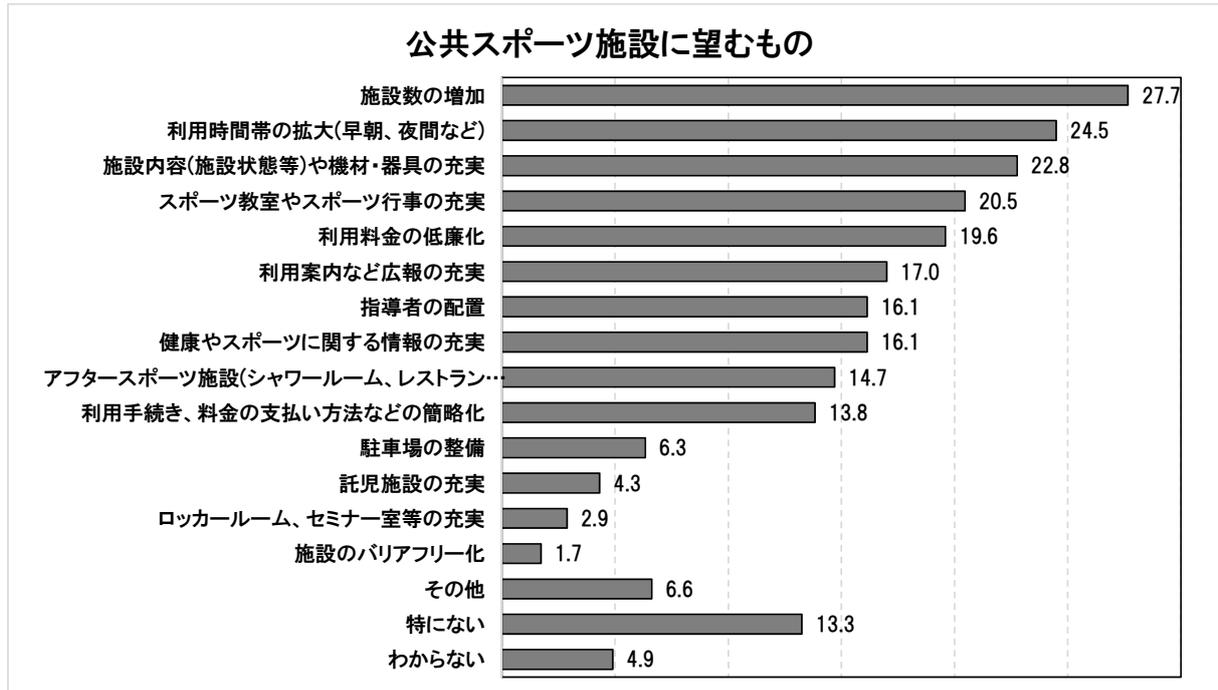
1. 宮古島市陸上競技場	14. 下地陸上競技場	26. リフレッシュパークプール (うえのドイツ村のプール)
2. 宮古島市総合体育館	15. 下地運動公園野球場	28. 伊良部テニスコート
3. 宮古島市民球場	16. 下地運動公園ゲートボール場	27. 伊良部カントリーパーク(陸上競技場)
4. 多目的屋内運動場	17. 下地運動公園テニスコート	29. 佐良浜スポーツセンター屋外プール
5. 多目的前福運動場	18. 下地運動公園屋内テニスコート	30. 佐良浜スポーツセンター多目的広場
6. 市営球場(カママ嶺)	19. 下地運動公園芝生広場	31. 伊良部運動公園
7. カママ嶺テニスコート	20. 下地勤労者体育センター(体育館)	32. 伊良部老人福祉センター (ゲートボール場)
8. 城辺運動公園野球場	21. 上野体育館	33. 伊良部勤労者体育センター(野球場)
9. 城辺運動公園多目的広場	22. 上野ゲートボール場	34. 平成の森公園
10. 城辺運動公園テニスコート	23. 上野陸上競技場	
11. 城辺運動公園ゲートボール場	24. 大嶽城址公園野球場	
12. 城辺陸上競技場	25. 大嶽城址公園多目的広場	
13. 城辺トレーニングセンター		

スポーツ施設数の増加や利用時間帯の拡大が望まれている

「宮古島市市民意識調査」によれば、公共スポーツ施設に望むものとして「施設数の増加」と答えた人の割合が最も高く、次いで「利用時間帯の拡大」、「施設内容や機材・器具の充実」となっています。

設置・充実してほしい公共スポーツ施設では、「屋内プール」と答えた人の割合が最も高く、次いで「多目的広場」、「トレーニング場」となっています。

利用時間帯の拡大については、現在、休館日になっている月曜日・祝日に施設が利用できるようにしてほしいとの意見が多くあります。

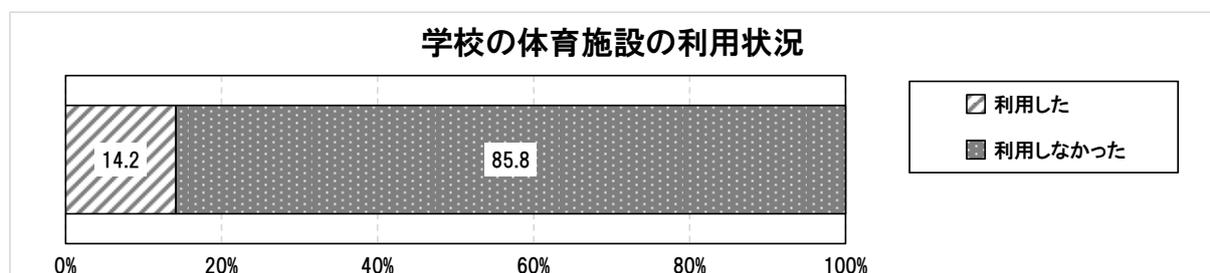


資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

多くの学校体育施設が一般開放されているが利用している人は少ない

多くの市内学校体育施設は、一般開放されています。

しかし、「宮古島市市民意識調査」を見ると、学校の体育施設を利用した人の割合は、1割程度と少ない状況です。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

<一般開放されている学校体育施設一覧>

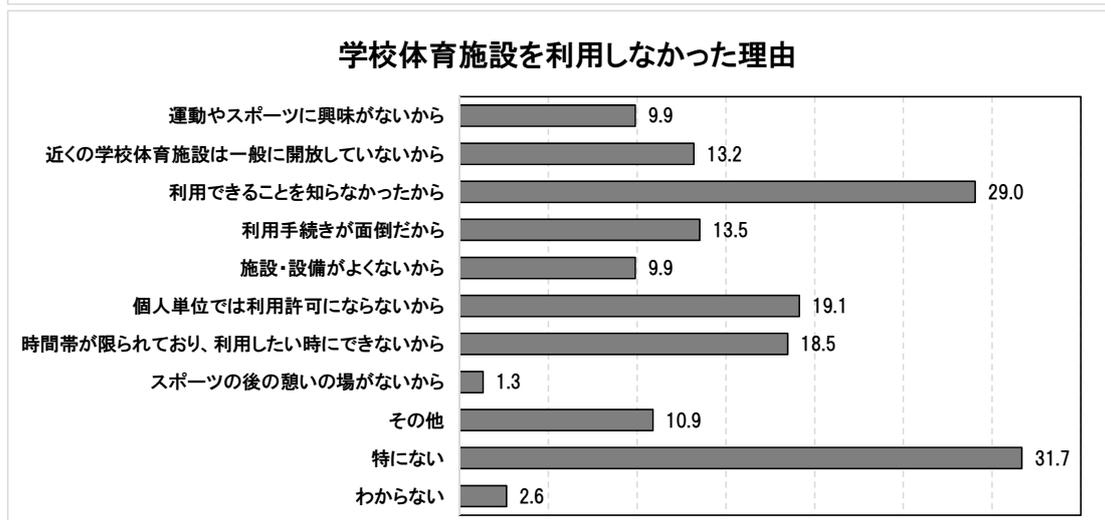
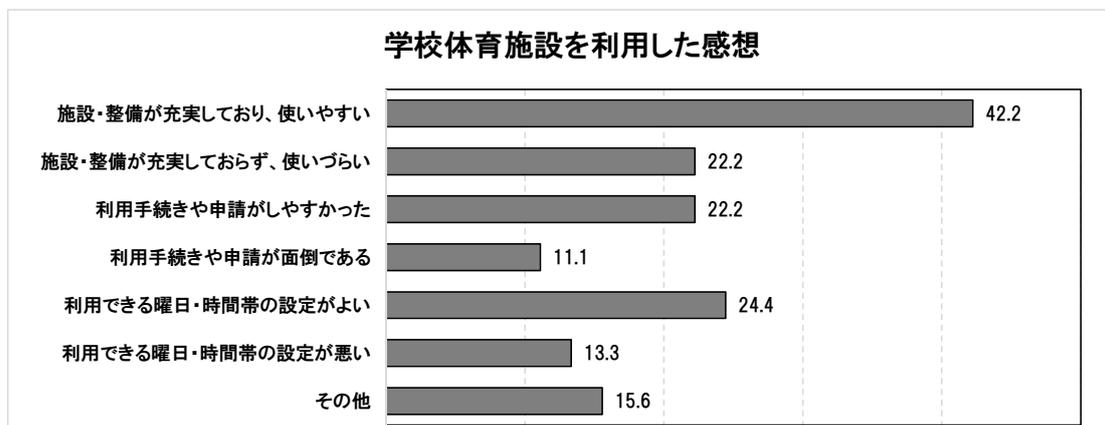
学校名	利用施設	一般開放曜日	開放時間
狩俣小学校	体育館	申し出があり学校の教育活動に支障がない曜日	18:00～22:00
西辺小学校	体育館	月・火・水・木・金	20:00～22:00
北小学校	体育館	月・火・水・木・金	18:00～22:00
久松小学校	体育館	月～金	19:00～22:00
鏡原小学校	体育館	①月・水・金、②木	①20:00～22:00、②19:30～21:30
砂川小学校	体育館	①火・金、②木	①20:00～23:00、②19:00～22:00
城辺小学校	体育館	火・木	20:00～22:00
上野小学校	体育館	土	19:00～21:00
下地小学校	体育館	火・木	20:00～22:00
佐良浜小学校	体育館	月・火・木・金・土	19:30～21:00
	グラウンド	土・日・祝祭日	8:00～18:00
伊良部小学校	体育館	①月・水・金、②土・日・祝日	①19:00～21:00、②施設利用申込みのあった時間帯
平良第一小学校	体育館	月～土	19:30～22:00
宮原小学校	体育館	①月～金毎日、②土・日・祝日	①17:00～21:30、②9:00～21:30
南小学校	体育館	①月・水、②火・金、③土	①20:00～21:30、②20:00～22:00、③19:30～21:00
東小学校	体育館	月～土	20:00～22:00
	グラウンド	土・日・祝日	9:00～17:00
	テニスコート	月～土	16:30～18:00
池間小中学校	体育館	申請があった場合に開放している	申請する時間帯で授業や部活動に支障が無い時間帯
狩俣中学校	体育館	火・木	20:00～22:00
	グラウンド	土・日・祝日等 申請のあった日	8:00～18:00
西辺中学校	体育館	①月・火・水・木、②土・日・祝日	①19:30～20:00、②7:30～17:00
平良中学校	体育館	毎日	20:00～22:00
	武道場	月・水・金	20:00～22:00
久松中学校	体育館	毎日	19:30～22:00
鏡原中学校	体育館	①月～金、②土・日	①20:00～22:00、②8:00～18:00
	テニスコート	土・日	8:00～18:00
	運動場	土・日	8:00～18:00
砂川中学校	体育館	月～金	20:00～22:00
	グラウンド	土・日・祝日	9:00～17:00
西城中学校	体育館	毎週木曜日	20:00～22:00
	グラウンド	不定期(陸上大会、駅伝大会)※学区体協主催	8:00～18:00
城辺中学校	体育館	①月～金、②土・日・祝日	①19:00～22:00、②10:00～22:00(部活との調整あり)
上野中学校	体育館	バレー:月・木、バスケット:火・水	19:00～20:00
下地中学校	体育館	火・水・金	20:00～22:00
佐良浜中学校	体育館	月～金	19:00～21:30
	グラウンド	土・日・祝日	8:30～17:00

資料：宮古島市「各学校への調査」(平成27年1月調査)

学校体育施設を利用できることを知らない人が多い

学校体育施設を使用しなかった理由として、「利用できることを知らなかった」と回答した割合が高く、市内の学校体育施設を利用できることを知らない市民が多くいます。

一方で、学校体育施設の利用した人の感想では、「施設が充実しており、使いやすい」と回答した割合が最も高く、次いで「利用できる曜日・時間の設定がよい」となっており、学校体育施設を利用した人の多くは、利用した学校体育施設に満足しています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

<課題>

- ① スポーツ施設環境を改善・維持していくため、既存スポーツ施設を有効活用し、必要な機能の整備や修繕を行う必要があります。
- ② 競技団体や総合型クラブと協力して、スポーツ施設を適切に維持管理及び運営するために、必要な知識を有した人材の確保・育成を行う必要があります。
- ③ 市民や競技者の利用を増やし、施設使用率の向上のため、施設利用時間帯の見直しの検討及び利用者・収支推計を行う必要があります。
- ④ スポーツ施設や学校体育施設は、市民により利用しやすくするために、学校体育施設の情報発信や施設利用予約の仕組みを整備する必要があります。
- ⑤ 既存のスポーツ施設を有効活用するために、施設の機能やコスト、人材育成など、スポーツ施設に関するヒト、モノ、カネ、情報等を総合的にマネジメントすることが必要です。

9. スポーツイベント

知名度のあるイベントが開催され、市外から参加者が訪れている。また、イベントにボランティアとして参加する市民が多い

本市は、全日本トライアスロン宮古島大会、宮古島 100km ワイドーマラソン、島内マラソン大会などの様々なスポーツイベントが開催されており、温暖な気候を有していることから年間を通してスポーツに関われる環境があります。

また、市内の充実したスポーツ施設を活かし、プロ・社会人・大学等の各種（特に野球や陸上競技）スポーツキャンプ・合宿が行われています。

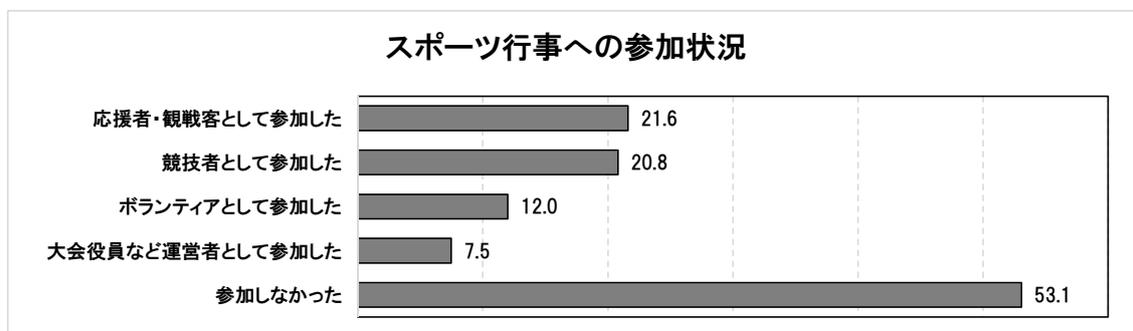
市民のスポーツイベントへの参加状況では、「応援者・観戦客として参加した」と答えた人の割合が最も高く、次いで「競技者として参加した」、「ボランティアとして参加した」となっています。

「応援者・観戦客として参加した」や「ボランティアとして参加した」の割合が高い要因として、全国的に認知度があるイベントに、市民が関われる基盤ができているためであると考えられます。

＜宮古島市の主なスポーツイベントと参加者数＞

		平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
1 月	宮古島 100km ワイドーマラソン	728 人	1,146 人	1,628 人
2 月	ロマン海道伊良部島マラソン	921 人	829 人	1,016 人
4 月	全日本トライアスロン 宮古島大会	1,470 人	1,470 人	1,531 人
6 月	ビーチバレー宮古島大会	96 組	105 組	342 人
	ツール・ド・宮古島	中止	394 人	638 人
7 月	サニツ浜カーニバル	1,039 人	1,256 人	1,056 人
8 月	宮古体育大会	2,647 人	2,616 人	2,025 人
10 月	エコアイランド宮古島マラソン	1,034 人	1,403 人	1,605 人
11 月	「南部忠平杯」グラウンドゴルフ宮古島大会*	386 人	417 人	367 人

* 平成 27 年以降の開催予定なし。

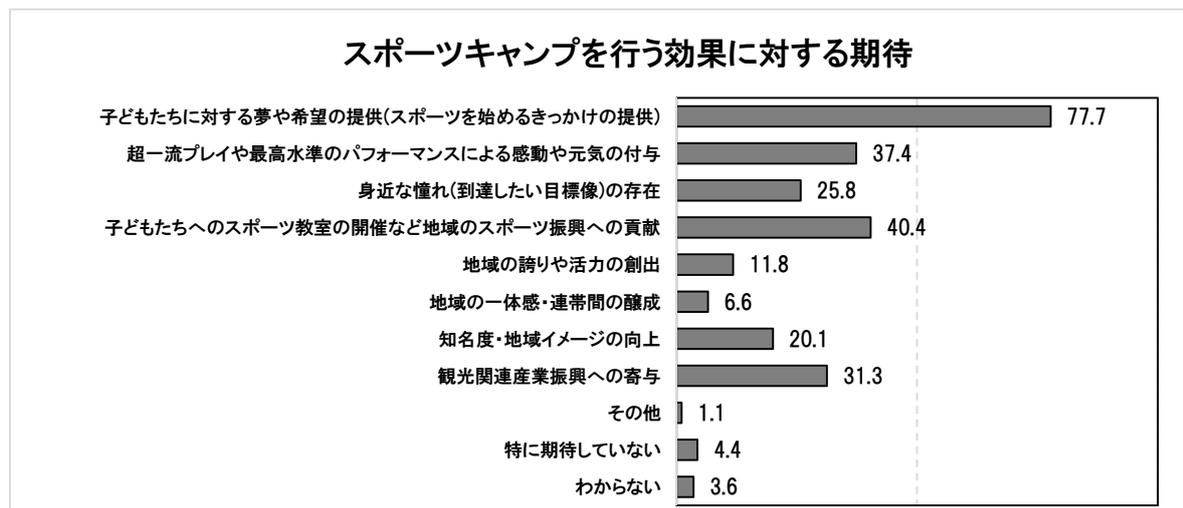


資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

子どもたちのスポーツ意識の向上や地域活性化が期待されている

「宮古島市市民意識調査」によれば、スポーツイベントなどが行われることでの効果に対する期待は、「子どもたちに対する夢や希望の提供」と答えた人が最も多く、次いで「子どもたちへのスポーツ教室の開催など地域のスポーツ振興への貢献」となっています。

市民は、スポーツイベントによる効果として、トップアスリートとの交流や指導などで、市内の子どものスポーツ意識の向上や地域活性化へつながることが期待されています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

スポーツイベントやキャンプなど受入体制が不十分

現在、大規模なスポーツイベント（トライアスロンやワイドーマラソンなど）は、行政内に実行委員会や窓口を設置して、行政職員が対応していますが、運営スタッフや当日スタッフが不足している状況です。また、スポーツキャンプや合宿を行いたい競技団体やアスリートとの調整を行う窓口はなく、現在は施設管理者（主に市民スポーツ課）が対応しており、訪問した競技者の細かな要望に対応することが困難な状況です。

市内には、競技者向けの上級コーチ及びアスレティックトレーナー^{※12}や障がい者スポーツなどの指導者が不足しており、競技者が適切な指導を受けられない状況です。

<課題>

- ① 本市全体でイベントを盛り上げるために、多くの市民にイベントの運営・支援の協力を得ることが必要です。
- ② スポーツを通じた交流を促進し、子どものスポーツ意識の向上や地域活性化へつなげるために、スポーツイベントをより充実し、イベント参加者の増加を図ることが必要です。
- ③ スポーツイベントを開催するときは、プロチームやトップアスリートと地域住民とできるだけ交流するような仕組みつくる必要があります。
- ④ 本市をスポーツ合宿やキャンプで訪問するプロチームやトップアスリートの細かな要望に対応し、スムーズにトレーニングが行える体制や施設を整備することが必要です。

3章 スポーツ推進の方向性

1. 目指す将来像

本市のスポーツ振興の戦略として20年以上を掲げ、市民への認知度も高い「スポーツアイランド」を活かし、本市の現状や課題、社会的ニーズ、特徴を踏まえて、宮古島のスポーツ振興として目指すべき将来像を「スポーツアイランド宮古島～スポーツがもたらす多様な価値の創出と活用～」とします。

スポーツアイランド宮古島

～スポーツがもたらす多様な価値の創出と活用～

スポーツは、地域の一体感や活力の醸成、心身の健康の保持増進などに重要な役割を果たすとされており、豊かな心を育むことができます。また、スポーツは、交流人口を拡大させ、地域活性化を図ることができます。

このようにスポーツには多様な価値があります。本計画では、さらに、本市の特徴を活かし、スポーツがもたらす価値を創り出し、活用することで、市民、スポーツ関係団体、行政などが連携・協働してスポーツを楽しめる「スポーツアイランド宮古島」を目指します。



2. スポーツ推進の基本方針

目指すべき将来像の「スポーツアイランド宮古島」の実現に向けて、5つの基本方針を設定します。さらに、本計画の期間中に、特に重点的に取り組むべき基本方針として「方針1 子どものスポーツ活動の推進」と「方針3 競技スポーツの充実」を定めます。

重点 方針1 子どものスポーツ活動の推進 ～やらび(子ども)のスポーツ環境づくり～

生涯を通じての豊かなスポーツライフのために、子どもの時期から十分な体力と運動能力を養うことが重要です。子どものスポーツ機会を向上させるために、子どもがスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができる環境を目指します。

方針2 生涯スポーツの推進 ～スポーツでニコニコがんずう(心身の健康)づくり～

ライフステージに応じて、いつでも、どこでも、だれでも個人の体力や年齢・目的に応じて安全に気軽にスポーツに親しみ、体力の向上と健康保持増進を図ることのできる環境を目指します。

重点 方針3 競技スポーツの充実 ～ずみ・やぐみ(最高・すごい)スポーツづくり～

宮古島市体育協会や連盟などスポーツ関連団体等と協力し、各競技の底辺拡大と競技力を向上させ、全国や県大会レベルで活躍できるアスリートを育成できる環境を目指します。

方針4 スポーツを活用した地域活性化 ～スポーツでかぎすま(きれいで住みよい島)づくり～

年間を通して温暖な気候や豊かな自然環境、充実したスポーツ施設など本市の特性を活かし、スポーツイベントの誘致やトップアスリートと市民の交流等のスポーツを活用した地域活性化ができる環境を目指します。

方針5 住民が参画・運営するスポーツ環境の整備 ～みゃーくびとら(宮古の人)のスポーツ環境づくり～

地域のニーズに合った地域スポーツ活動を促進し、市民が気軽にスポーツに親しむ機会を拡大するために、市民が参画・運営するスポーツ環境を目指します。

4章 施策

1. 子どものスポーツ活動の推進

○本市は、運動しない子どもの割合が、全国平均より高くなっており、今後、子どもの運動・体力の二極化が進む恐れがあります。

○また、中学校の運動部活動の部員数は減少傾向にあり、学校でのスポーツ機会の減少につながる可能性が高くなっています。

○子どものスポーツ活動の推進ために、幼児や小学校低学年の時から、学校や地域の中で様々な運動・スポーツ競技に触れられる機会の創出を図ります。

○また、子どものスポーツ機会を向上させるために、子どもがスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができるように指導ができる人材の育成や、子どもの運動・スポーツ機会を創出するために地域や関連団体等の連携を図ります。

目標指標

目標指標		現状値(平成 26 年)	目標値(平成 34 年)
運動をしない子どもの割合を 全国平均値以下にする	小学生 男子	12.3%	4.3%
	小学生 女子	19.2%	7.6%
	中学生 男子	6.0%	5.1%
	中学生 女子	17.1%	15.9%

施策体系

施策の柱		基本施策
1-1	幼児期からの運動の定着	親子で身体を動かす「遊び」に親しむ機会の提供 子どもが安心して活動できる場所の確保
1-2	学校体育の充実	スポーツ事故の防止教育の推進 全国・広域レベルの大会への参加支援
1-3	子どものスポーツを支える 人材・体制づくり	教員の資質の向上 武道等の伝統文化指導者の確保 幼児期の運動遊びの指導ができる人材の育成
1-4	スポーツ施設の整備・活用	学校体育施設等の安全性の確保とバリアフリー化の促進 運動部活動の公共スポーツ施設(特定施設)利用の促進
1-5	団体・組織との連携・協力	学校体育関連事業との連携 放課後子ども教室との連携 学校と総合型クラブの連携・協力

1-1 幼児期からの運動の定着

幼児期において、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、豊かな人生を送るための基盤づくりとなることから、主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動の定着を図ります。

基本施策	取り組み内容
親子で身体を動かす「遊び」に親しむ機会の提供 【福祉部】	国が策定した「幼児期運動指針 ^{*13} 」に基づき、家庭や地域での運動とともに保育園や幼稚園においても身体を動かす運動遊びに取り組みます。また、親子で楽しめるスポーツを紹介する教室等を開催し、実際に体験してもらうことで、身体を動かす「遊び」に親しむきっかけや楽しむ機会を提供します。 ＜想定事業＞わくわく講座事業／地域組織活動育成事業
子どもが安心して活動できる場所の確保 【福祉部】	安心・安全に幼児が身体を動かす「遊び」ができる場所を提供します。 ＜想定事業＞地域子育て支援センター事業／地域組織活動育成事業

1-2 学校体育の充実

児童生徒の健やかな体を育むために、運動部活動を含む学校での体育活動の充実を図るとともに生涯にわたって健康で安全な生活を自ら営んでいくための知識や態度の育成を図ります。

基本施策	取り組み内容
スポーツ事故の防止教育の推進 【教育部】	学校の体育活動を安心して行うために、教員及び子どもを対象に、スポーツ医科学 ^{*14} を活用したスポーツ事故の防止及びスポーツ障害の予防・早期発見に関する知識の普及や啓発活動を行います。 ＜想定事業＞スポーツ事故防止講習会(教員向け)／スポーツ事故防止勉強会(子ども向け)
全国・広域レベルの大会への参加支援 【教育部】	運動部活動が全国や広域レベルの大会へ参加する場合、児童及び指導者の交通宿泊費などの一部を支援します。 ＜想定事業＞助成金の交付／スポーツ基金の設立

1-3 子どものスポーツを支える人材・体制づくり

体育・保健体育の授業の充実を図るために、子どもの発達段階に応じた教職員の指導力の向上に取り組みます。また、本県の伝統文化である空手道、郷土の踊り等を、教科体育や学校行事等に積極的に取り入れるとともに、外部指導者^{*15}の活用等により、運動部活動の活性化に努め、学校の教育活動全体を通じて、スポーツの楽しさや喜びを獲得しつつ、児童生徒の体力向上への取り組みを推進します。

基本施策	取り組み内容
教員の資質の向上 【教育部】	体育の授業や運動部活動の充実と安全の確保のために、研修会や実技講習会等を充実させ、教員の指導力の向上を図ります。 <想定事業>自発性・自主性を育む体育授業づくりの体育科教師の研修会／部活動の指導者の育成
武道等の伝統文化指導者の確保 【教育部】	外部指導員やサポーター等を活用し、児童・生徒の競技力向上や体育授業の活性化を図ります。本県の伝統文化である空手道、郷土の踊り等を、教科体育や学校行事等に積極的に取り入れるとともに、外部指導者の活用に努めます。 <想定事業>外部指導者の派遣支援／外部講師を招聘した研修会の開催
幼児期の運動遊びの指導ができる人材の育成 【生涯学習部】	子どもの体力向上や運動習慣を根付かせるために、発達に即した幼児期の運動遊びの指導方法を身に付けた保育者等の育成を図ります。 <想定事業>指導者リーダー養成講座

1-4 スポーツ施設の整備・活用

円滑な学校運営と児童生徒の健やかな体を育む安全で快適な施設環境の確保のために、耐震化、バリアフリー化などの学校体育施設の充実を図るとともに維持管理や維持補修に努めます。また、運動部活動などの教育活動の強化のために、公共スポーツ施設（特定施設）の利用促進を図ります。

基本施策	取り組み内容
学校体育施設等の安全性の確保とバリアフリー化の促進 【教育部】	子どもたちが安全にスポーツを楽しむ場を提供するために、スポーツ施設の整備や点検を行うとともに、老朽化した施設の改修を検討します。また、誰もが快適にスポーツに親しめる場を提供するため、社会福祉協議会等による助言を受けながら、バリアフリーやユニバーサルデザインの整備を促進します。 <想定事業>屋内運動場整備／体育施設整備事業／バリアフリー化の促進
運動部活動の公共スポーツ施設(特定施設)利用の促進 【生涯学習部】	中学校、高校の運動部の活動場所として、公共スポーツ施設(特定施設)の利用を促進します。 <想定事業>利用料の減免措置の拡大

1-5 団体・組織との連携・協力

市体育協会などの体育関連団体や放課後子ども教室^{*16}、総合型クラブなどと連携・協力して、地域全体でスポーツ環境や指導環境を充実させ、子どものスポーツ機会の創出を図ります。

基本施策	取り組み内容
学校体育関連事業との連携 【教育部】	県や関連団体等が実施している学校体育・スポーツに関する多様な事業との連携を図ります。 ＜想定事業＞スポーツ連携協議会の設立
放課後子ども教室との連携 【生涯学習部】 【福祉部】	スポーツを遊びとしてとらえ、子どもに体を動かすことに興味を持ってもらうことを目指します。市内の小学生を対象にした放課後子ども教室と連携したスポーツ活動や文化活動などの体験活動や、地域住民との交流活動等を行います。 ＜想定事業＞放課後子ども教室事業／児童館運営事業
学校と総合型クラブの連携・協力 【教育部】 【生涯学習部】	地域で多様な運動やスポーツに取り組めるように、学校と総合型クラブが連携・協力します。 ＜想定事業＞総合型クラブの活用



2. 生涯スポーツの推進

- 体力や健康への注意をしている、運動・スポーツを実施している市民が多く、市民の運動・スポーツに関する意識・興味は高くなっています。
- 一方、既存のスポーツイベントやスポーツ施設が利用しづらいため、運動やスポーツを実施できていない市民もいます。
- いつでも、どこでも、だれでも個人の体力や年齢・目的に応じて安全に気軽にスポーツに親しみ、体力の向上と健康保持増進を図ることのできる生涯スポーツを推進するために、ライフステージに応じて参加できるスポーツプログラムの創出や誰もが利用しやすいスポーツ施設の整備などを図ります。

目標指標

目標指標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 34 年)
成人のスポーツの実施(週 1 日以上)割合	48.0%	65%
市内の公共スポーツ施設の利用者数	150,000 人	200,000 人

施策体系

施策の柱	基本施策
2-1 成人のスポーツ活動の充実	多様なスポーツプログラムの開発・活用 スポーツイベントの活性化 ワークライフバランスの普及・啓発や健康指導の充実
2-2 高齢者の健康と体力維持	高齢者向けのスポーツ大会や健康イベント等の提供 情報交換と健康づくり啓発
2-3 障がい者のスポーツの推進	障がい者スポーツの理解教育の促進
2-4 誰もが利用しやすいスポーツ施設の充実	既存スポーツ施設の充実と有効活用 ウォーキング・ジョギングコースの設定 県営公園の整備 学校体育施設の共同利用の促進 企業等が所有するスポーツ施設の有効活用
2-5 運動・スポーツ活動をサポートする人材・組織の育成・活用	スポーツ指導者の確保・活用 迅速な救命活動を行える人材の確保 健康増進に関する専門性の高い指導者の確保・育成
2-6 ライフステージに合わせた情報発信	対象者に合わせて多様なメディアの活用

2-1 成人のスポーツ活動の充実

仕事や家事・育児の合間に行える短時間の運動や、体力がない人でも始められる負荷の軽い運動などの多様なスポーツプログラムやスポーツイベントを開催することにより、気軽にスポーツに親しむ機会の拡充を図ります。また、スポーツを通じた交流により、スポーツ活動への参加が、張りのある生活に結びつく機会の充実を図ります。

基本施策	取り組み内容
多様なスポーツプログラムの開発・活用 【生活環境部】 【生涯学習部】	仕事や家事が忙しく、スポーツから一度離れてしまった人たちも再びスポーツを始められるよう、手軽にできる負荷の軽いスポーツや初心者向けのプログラムを提供します。 <想定事業> ニュースポーツの提供／夜間・早朝スポーツ教室／体操教室『ここから体操教室』
スポーツイベントの活性化 【観光商工局】	砂地を利用した浜競馬や宮古角力など、新旧おりませたスポーツや誰でも気軽に参加できるレクリエーションなどを取り入れ、市民の健康増進に寄与することを目的としたサニツ浜カーニバルなどの、市民が参加しやすい既存のイベントの活性化を図ります。 <想定事業> 体育振興費
ワークライフバランス ^{*17} の普及・啓発や健康指導の充実 【生活環境部】 【生涯学習部】	働き方の見直し、運動・スポーツの機会創出につなげるために、ワークライフバランスの普及啓発を図ります。 <想定事業> ワークライフバランスのセミナー／生涯学習フェスティバルへのパネル展示

2-2 高齢者の健康と体力維持

高齢者がスポーツ活動を楽しむことで、生きがいのほか、健康の保持増進・体力の維持などにも寄与されることから、高齢者も楽しめるスポーツや健康づくりの普及展開に努めるとともに、関連団体等と連携して、健康づくりに向けた意識の啓発を図ります。

基本施策	取り組み内容
高齢者向けのスポーツ大会や健康イベント等の提供 【生活環境部】 【福祉部】	多くの高齢者が社会参加や仲間づくり、世代間交流、健康づくりにつなげるため、高齢者に体力に合わせたスポーツ大会やイベント等の開催を検討します。 <想定事業> リラスト体操教室／ワイド教室(転倒・骨折予防)
情報交換と健康づくり啓発 【生活環境部】 【福祉部】	老人クラブ連合会等の高齢者関係団体と連携・協力し、運動・スポーツに関する情報交換を行います。 <想定事業> 健康づくり教室の開催

2-3 障がい者のスポーツの推進

障がい者の社会参加や自立に向けたリハビリテーション、体力の維持とともに競技スポーツとして広く市民に理解を促すために、障がい者スポーツ関係団体等との十分な連携を図り、障がい者スポーツの振興を図ります。

基本施策	取り組み内容
障がい者スポーツの理解教育の促進 【福祉部】	障がい者スポーツへの理解を深めるため、職員・スポーツ推進委員等、障がい者スポーツに携わる人たちを対象に障がい者スポーツの理解教育を行います。また、障がい者支援団体等と連携して、障がい者と健常者がともにスポーツに親しめるよう、障がいのある人も、ない人も参加するスポーツ交流会の実施を検討します。 ＜想定事業＞研修、シンポジウム

2-4 誰もが利用しやすいスポーツ施設の充実

市民が地域でスポーツに親しみ、市民の健康増進や交流につなげるために、誰もが安全で気軽に利用しやすいスポーツ環境を整備します。

基本施策	取り組み内容
既存スポーツ施設の充実と有効活用 【生涯学習部】	既存のスポーツ施設の設備や運営を充実させ、いつでもどこでもスポーツに親しめる環境を整えます。 ＜想定事業＞体育施設維持管事業／体育施設管理事業／体育施設整備事業
ウォーキング・ジョギングコースの設定 【生涯学習部】 【建設課】	時間の制約なくウォーキング・ジョギングコースを各地域に設置することを検討します。特に、市内の公園内に安全にウォーキング・ジョギングができるように整備を行います。 ＜想定事業＞ウォーキングコースの整備／公園整備事業
県営公園の整備 【建設課】	宮古島市の優れた自然環境と景観を保全し、地域の人々の日常レクリエーション利用から観光や多彩なイベント・スポーツ利用など幅広い用途に柔軟に対応できる公園づくりに取り組みます。 ＜想定事業＞県との調整／事業主体は沖縄県
学校体育施設の共同利用の促進 【教育部】	身近なスポーツ・交流の場を活用し、市民のスポーツ促進を図るために、市民への学校体育施設の開放を促進します。また、施設利用者のニーズに応じて、用具等の充実を図ります。 ＜想定事業＞学校体育施設の一般開放
企業等が所有するスポーツ施設の有効活用 【生涯学習部】	市民が利用できるスポーツ施設拡充のために、ホテルなどの民間企業等が所有するスポーツ施設を、積極的に市の事業等で活用するための協議・検討を行います。 ＜想定事業＞企業や大学との協定締結／スポーツ施設協定に向けた意見交換

2-5 運動・スポーツ活動をサポートする人材・組織の育成・活用

市民のニーズに応じた指導ができる人材の育成することを目的とし、地域で活動するスポーツ指導者などの育成及び活用を行います。また、市民の健康増進や競技者の安全性の確保のための専門性の高い人材を確保します。

基本施策	取り組み内容
スポーツ指導者の確保・活用 【生涯学習部】	学校体育活動や運動部活動の充実と安全性の確保のために、優秀な教員や指導者の確保・育成に努めます。 <想定事業> 指導者講習会／スポーツリーダー講座
迅速な救命活動を行える人材の確保 【生涯学習部】	競技者の安全性の確保やスポーツ事故防止のために、指導者や施設管理者を対象に講習等を行い、救急救命に関する活動ができる人材の確保・育成を行います。 <想定事業> 救急救命講習会(AED ^{*18} 使用法等)
健康増進に関する専門性の高い指導者の確保・育成 【生涯学習部】 【生活環境部】	健康増進に関する専門性の高い指導者(たとえば、年齢、体力、疾患等に合わせた安全かつ効果的な個々への運動指導ができる健康運動指導士 ^{*19} 等)との連携を図ります。 <想定事業> 健康運動指導士、ヘルスケアトレーナー ^{*20} 等の確保

2-6 ライフステージに合わせた情報発信

市民がスポーツに親しむきっかけとなるスポーツに関する情報を、対象となる多様なライフステージに合わせて、広報やホームページを含め、インターネットの利用ができない人にも、わかりやすく発信していきます。

基本施策	取り組み内容
対象者に合わせて多様なメディアの活用	多様なライフステージを有している市民のニーズに合わせて、スポーツ機会を創出する有益な情報を提供するために、様々なメディアを活用して効率的な情報発信を図ります。 <想定事業> 各関係機関からの情報を発信



3. 競技スポーツの充実

○近年、競技種目の多様化で、市民が様々なスポーツに触れる機会が増加したことにより、ジュニアアスリートや市民競技者から、全国大会へ出場するなど、競技力が向上している競技種目があります。

○一方で、優秀な指導者がいなくなると、競技力の低下につながることや、指導者の不足により競技者が本市でトレーニングができないケースも出てきています。

○競技力を向上のために、全国や県大会レベルで活躍できるアスリート発掘と、そのアスリートを育成する質の高い指導者の継続的な確保・育成を図ります。

○さらに、競技スポーツの底辺拡大やスポーツ指導者の意識の向上のために、トップアスリート等を招いたスポーツ教室や講演会等の実施を検討します。

目標指標

指標目標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 34 年)
市内在住市民の全国大会への出場者数	個人競技 8 名 団体競技 2 団体	個人競技 16 名 団体競技 4 団体
資格を有している指導者の割合	31.5%	60%

施策体系

施策の柱		基本施策	
3-1	競技者の発掘	競技人口の拡大	
		ジュニア選手の発掘	
		トップアスリートとのスポーツ交流の推進	
3-2	競技者の育成・強化	ジュニア選手の強化・育成	
		全国・広域レベルの大会への参加支援	
		専門指導による講習会及び実技指導の推進	
		一流の競技スポーツにふれる機会の充実	
3-3	競技スポーツを支える人材・体制の育成	地域における循環型の指導者育成スタイルの確立	
		競技指導者の育成支援	
		競技力向上推進体制の強化	
		各スポーツ競技団体の支援	
3-4	スポーツ医科学の活用	スポーツ医科学サポートの活用	
		スポーツ医科学を活用したトレーニング設備等の整備	

3-1 競技者の発掘

市体育協会、高体連、中体連等関係機関及び地域と連携し、市民が様々な競技にふれあう機会を提供し、競技人口の拡大につなげ、優れた素質を有するアスリートの発掘を図ります。

基本施策	取り組み内容
競技人口の拡大 【生涯学習部】	競技力の底上げのために、各種競技交流大会等を計画的に開催することで、競技人口拡大の取り組みに努めます。 ＜想定事業＞競技大会の定期開催
ジュニア選手の発掘 【生涯学習部】	市域全体の小学生を対象に競技会等を実施して、有望なジュニアアスリートの発掘を図ります。 ＜想定事業＞競技大会の定期開催
トップアスリートとのスポーツ交流の推進 【観光商工局】	子どもたちにスポーツへの興味やあこがれを抱かせることが、競技への参加につながることから、プロスポーツ等の観戦の機会、さらにプロスポーツ選手やアマチュアのトップアスリートとの交流の機会の充実に努めます。 ＜想定事業＞トップアスリートとの交流会

3-2 競技者の育成・強化

優れた素質を有する競技者は、市体育協会、高体連、中体連等関係機関及び地域が連携し、個々の特性や各年齢期における発達の特徴に応じた適切な指導者による育成・強化を行います。

基本施策	取り組み内容
ジュニア選手の強化・育成 【生涯学習部】	潜在能力があるジュニア選手が全国・広域レベルまで活躍できるよう、市内の種目別競技団体が行う計画的指導が行えるように支援します。 ＜想定事業＞社会教育団体等育成補助事業／一貫指導システムの導入
全国・広域レベルの大会への参加支援 【生涯学習部】	助成金の交付等で全国・広域レベルの大会への参加を支援します。本市を代表して活躍する選手の意欲を高めるよう、対象となる大会等の交付基準を見直すとともに、市民への周知を図り、より効果的な制度とします。 ＜想定事業＞社会教育団体等育成補助事業／スポーツ基金の設立
専門指導による講習会及び実技指導の推進 【生涯学習部】	専門のスポーツの指導者を確保するとともに、指導者の資質向上を目指し、地域のスポーツ団体の要請に応じて専門指導者の活用を図ります。 ＜想定事業＞スポーツ指導者の派遣
一流の競技スポーツにふれる機会の充実 【生涯学習部】 【観光商工局】	子どもたちにスポーツへの興味や憧れを抱かせ、競技力の向上につながることから、市体育協会や各競技断体等と連携しながら、プロスポーツ選手やアマチュアのトップアスリート・指導者等との交流の機会の充実に努めます。 ＜想定事業＞トップアスリートによるスポーツ教室

3-3 競技スポーツを支える人材・体制の育成

市民のスポーツ競技力を向上させるために、市体育協会をはじめとする各競技団体や高体連及び中体連等との連携により競技力向上推進体制の強化を図ります。また、高度な専門性を有した資質の高い指導者の確保、育成を図ります。

基本施策	取り組み内容
地域における循環型の指導者育成スタイルの確立 【生涯学習部】	体育協会等と連携し、指導者の資質向上を図るとともに、優秀選手が将来、指導者となって、その豊かな経験や知識を還元する循環型指導者育成スタイルを確立します。 <想定事業>スポーツ指導者の雇用の確保/スポーツ推進委員 ^{*21} の活用
競技指導者の育成支援 【生涯学習部】	市体育協会などの関係団体と連携し、スポーツ指導者を対象にした講習会等を開催するとともに、県及び各競技団体等が開催する講習会等への参加を促進するなど、高い専門的知識と指導力を持つ有資格指導者の育成・確保を図ります。 <想定事業>指導者育成の研修会
競技力向上推進体制の強化 【生涯学習部】	優れた素質を有するジュニアアスリートの発掘・育成・強化に向けて、県体育協会をはじめとする各競技団体や高体連及び中体連等とのより一層の連携を促します。また、成年種別の強化・充実のため、県内大学と連携し、競技力向上推進体制の強化を図ります。 <想定事業>社会教育団体等育成補助事業/強化指定選手制度の導入、強化合宿
各スポーツ競技団体の支援 【生涯学習部】	競技力の向上と競技人口の拡大を図るため、市体育協会や各競技団体、中学校・高等学校体育連盟、スポーツ少年団 ^{*22} の組織・機能の充実を図ります。また、各スポーツ団体と連携し、各種目別に開催している市スポーツ大会等の充実を図りながら、全国大会、国際大会に多くの競技者を派遣できるよう、スポーツ競技力の強化に向けた各種事業への支援を図ります。

3-4 スポーツ医科学の活用

体育協会、高体連及び中体連等関係機関や医療機関等が連携して、スポーツ医科学の観点からのサポート等を行うことにより、競技力の向上を支援します。また、スポーツ医科学を活用したトレーニング設備等を備えた施設の整備を推進します。

基本施策	取り組み内容
スポーツ医科学サポートの活用 【生涯学習部】 【生活環境部】	スポーツドクター、管理栄養士、トレーナー等、スポーツ医科学の専門家のサポートの活用を図ります。 <想定事業>サポート人材・体制の確立
スポーツ医科学を活用したトレーニング設備等の整備 【生涯学習部】 【生活環境部】	トップアスリートの育成のために、スポーツ医科学を活用したトレーニング設備等を備えた施設の整備を図ります。 <想定事業>設備・施設整備

4. スポーツを活用した地域活性化

- 本市は、年間を通して温暖な気候を有していることから、トライアスロン大会などの知名度があるスポーツイベントの開催や、プロ・社会人・大学等の各種スポーツキャンプ・合宿が行われ、市外から多くの競技者が本市で訪れ、市民がトップアスリートと交流することにより、競技力の向上や地域の経済活性化につながっています。
- しかし、近年は、スポーツイベントの縮小やスポーツキャンプ・合宿等の撤退等が問題になっています。
- そこで、年間を通して温暖な気候や豊かな自然環境、充実したスポーツ施設など本市の特性を活かし、スポーツイベントの充実やスポーツキャンプ・合宿の誘致を図ります。
- また、子どものスポーツ意識の向上や地域活性化へつなげるために、トップアスリートと市民のスポーツを通じた交流の促進を図り、スポーツを活用した地域活性化を目指します。

目標指標

施策効果を図る項目	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 34 年)
スポーツキャンプ・合宿の誘致数	30 団体	45 団体
市内スポーツイベントの参加者数	7,816 人	8,600 人

施策体系

施策の柱	基本施策
4-1 スポーツイベントやキャンプの誘致	合宿やキャンプの誘致
	大規模な大会やイベントの誘致
	地域の特徴や資源を活用した大会やイベントの誘致
	スポーツと連動した観光振興による市内経済の活性化
4-2 スポーツツーリズムの受け入れ施設の整備	大会等のスポーツコンベンション施設の整備
	スポーツ合宿や交流ができる施設の整備
	施設の維持管理
4-3 スポーツツーリズムの受け入れるための人材・体制の整備	スポーツツーリズムの受け入れ体制の構築
	スポーツツーリズム推進のための多様な人材確保・育成
	スポーツイベントの運営組織の構築
4-4 トップアスリートと地域の交流の促進	トップアスリートによるスポーツ教室等の交流の促進
	トップアスリートや高度指導者による指導者講習会等の促進
4-5 市内外に向けたスポーツツーリズムに関する情報発信	スポーツイベントの情報発信

4-1 スポーツイベントやキャンプの誘致

スポーツアイランドの実現に向けて、本市の特性である年間を通して温暖な気候や充実したスポーツ施設などを活かし、スポーツイベントの開催や各種スポーツチームのキャンプ誘致活動を推進します。

基本施策	取り組み内容
合宿やキャンプの誘致 【観光商工局】	温暖な気候や美しい自然・景観、充実したスポーツ施設などを活かし、スポーツ合宿等の誘致を図ります。 ＜想定事業＞スポーツ合宿等誘致推進奨励金
大規模な大会やイベントの誘致 【観光商工局】	温暖な気候や美しい海、充実したスポーツ施設など活かし、関係団体と連携しながらスポーツイベントや大会の誘致を図ります。
地域の特徴や資源を活用した大会やイベントの誘致 【観光商工局】	マリンスポーツの普及・発展とツーリズムの推進のためには、各団体が地域で開催しているイベントを把握し、各イベントのPR活動への支援をするとともに、新たなマリンスポーツイベントの誘致を図ります。
スポーツと連動した観光振興による市内経済の活性化 【観光商工局】	国内外におけるスポーツツーリズムの高まりなどの動向を踏まえ、試合観戦や体験などを組み入れたツアーの企画などにより、本市のイメージ向上及び地域消費拡大を通じた市内経済の活性化を図ります。

4-2 スポーツツーリズム^{※23}の受け入れ施設の整備

スポーツツーリズムの受け入れるスポーツ種目の特性に合わせ、必要なスポーツ施設の維持管理や施設の充実を推進します。

基本施策	取り組み内容
大会等のスポーツコンベンション ^{※24} 施設の整備 【生涯学習部】 【建設課】 【振興開発プロジェクト局】	受け入れるスポーツイベントや大会などのスポーツコンベンションに合わせて、必要なスポーツ施設の整備を図ります。 ＜想定事業＞体育施設整備事業／公園整備事業
スポーツ合宿や交流ができる施設の整備 【生涯学習部】 【建設課】 【振興開発プロジェクト局】	市民のスポーツ環境改善及びスポーツツーリズムの受け入れ促進のために、スポーツ合宿や交流ができるスポーツ施設の整備を行います。また、雨天時でも軽スポーツやイベントが楽しめる施設の整備を行います。 ＜想定事業＞体育施設整備事業
施設の維持管理 【生涯学習部】 【建設課】	受け入れるスポーツイベントや大会などのスポーツコンベンションに合わせて、必要なスポーツ施設の維持・管理を図ります。

4-3 スポーツツーリズムの受け入れるための人材・体制の整備

スポーツツーリズムの振興を通じた観光産業の拡大化を図るために、県のスポーツコミッション^{※25}との連携等、スポーツツーリズムの受け入れ体制を整備します。また、スポーツツーリズムに関する専門的知識と能力を有する人材の育成を図ります。

基本施策	取り組み内容
スポーツツーリズムの受け入れ体制の構築 【観光商工局】	県のスポーツコミッションとのスムーズな連携を図るために、市内の関連組織との連携を図ることができるスポーツツーリズムの受け入れ体制を構築します。 <想定事業>地域スポーツコミッションの設置
スポーツツーリズム推進のための多様な人材確保・育成 【観光商工局】	スポーツツーリズムの振興を通じた観光産業の拡大化を図るために、スポーツツーリズムの企画・運営・宣伝等ができる人材やスポーツ観光によるまちづくりに関する専門的知識とコーディネート能力を有する人材の育成を支援します。また、島内一体となってスポーツアイランドを推進していくために、積極的にスポーツボランティアの育成や活用を図ります。 <想定事業>コーディネーターの委嘱
スポーツイベントの運営組織の構築 【観光商工局】	スポーツアイランドの施策の充実を目指し、観光産業への波及効果のために、トライアスロン、ツール・ド、エコマラソン、100 kmワイドーマラソン等のスポーツイベントの効率的な運営を図ります。 <想定事業>全日本トライアスロン宮古島大会／ツール・ド・宮古島／エコマラソン／100 kmワイドーマラソン

4-4 トップアスリートと地域の交流の促進

スポーツキャンプ・合宿等で来島したアスリートやその指導者との交流を図ることで、市民のスポーツに対する関心を高めるとともに、高度な技術力や戦術、指導方法などを競技者や指導者の育成強化に生かし、市内スポーツ振興につなげ、地域活性化を図ります。

基本施策	取り組み内容
トップアスリートによるスポーツ教室等の交流の促進 【観光商工局】	一流の競技者とのふれあいは市民のスポーツに対する興味やあこがれを抱かせ、競技人口の拡大や競技力の向上にもつながります。このことから、プロスポーツ等の観戦の機会、さらにプロスポーツ選手やアマチュアのトップアスリートとの交流の機会の充実に努めます。 <想定事業>スポーツ教室の開催
トップアスリートや高度指導者による指導者講習会等の促進 【生涯学習部】 【観光商工局】	スポーツ技術を極めたトップアスリートから指導方法の助言や指導を受け、技術の向上や取り組む姿勢等を学ぶため機会の創出に努めます。 <想定事業>指導者講習会の開催

4-5 市内外に向けたスポーツツーリズムに関する情報発信

スポーツイベントの誘客を図るために、市内外に向けた本市のスポーツ環境やスポーツイベント等に関する情報発信を行います。また、「スポーツアイランド宮古島市」の認知度の向上のために、観光関連団体等との連携による積極的な広報活動を推進します。

基本施策	取り組み内容
スポーツイベントの情報発信	多くのスポーツを目的とした観光客の増加につなげるため、一般・アマチュア向けのスポーツ大会やトップアスリートによる大会などの情報を市外にも随時発信します。 <想定事業>ホームページの作成



5. 住民が参画・運営するスポーツ環境の整備

○市内の総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）は、様々なスポーツプログラムを開催し、市民にスポーツ機会を提供しています。

○しかし、「多世代」、「多種目」、「多志向」の要件を満たしている総合型クラブは、現在は市内に1クラブのみとなっています。

○また、市民の総合型クラブの認知度が低く、総合型クラブへの加入している市民が少ない状況です。

○そこで、市民のニーズに合ったスポーツプログラムを提供し、市民が気軽にスポーツに親しむ機会を拡大するために、「多世代」、「多種目」、「多志向」の総合型クラブの設立や事業の拡大を図ります。

○さらに、スポーツ人材の育成やスポーツ施設の適切な維持管理と総合型クラブの施設利用料の軽減につなげるため、市民が参画・運営する総合型クラブと連携を行います。

目標指標

目標指標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 34 年)
市内の総合型クラブ数(「多世代」、「多種目」、「多志向」を満たしている)	1クラブ	5クラブ
市内の総合型クラブが主催するスポーツ教室やイベントへの参加人数	2,209人/年	10,000人/年

施策体系

施策の柱		基本施策	
5-1	総合型地域スポーツクラブの設立・運営支援	設立準備会の発足支援	
		総合型クラブの設立支援	
		総合型クラブの運営財源の確保の支援	
		総合型クラブの自立的な運営を支える人材の育成	
5-2	スポーツ施設の管理・運営	利用者のニーズに応じた管理運営	
		市民との協働による施設の維持管理の検討	
		施設利用者による美化活動の推進	
		公共施設利用予約システムの導入	
5-3	地域人材の育成・活用	スポーツ推進委員の確保と育成	
		健康づくり推進員の資質向上	
5-4	地域人材を活用するための情報発信	総合型クラブの認知度の向上	

5-1 総合型地域スポーツクラブの設立・運営支援

総合型地域スポーツクラブは、スポーツ実施率の向上をはじめ、スポーツ指導者の活躍の場の増大、地域のコミュニティ再生にも寄与するなど、その役割に大きな期待が寄せられていることから、地域に根ざしたクラブとして未永く発展していくことができるよう、育成・支援の方策の検討、新たなクラブ創設への積極的な支援等を図ります。

基本施策	取り組み内容
設立準備会の発足支援 【生涯学習部】	総合型クラブ設立の準備段階として、地域で核となる関係団体に対して、総合型クラブの概要・理念・運営方法等の指導・助言・育成の支援を行います。 <想定事業>アドバイザーの派遣
総合型クラブの設立支援 【生涯学習部】	新たな総合型クラブの設立を促進していくため、「沖縄県広域スポーツセンター」との連携により、総合型クラブの概要・理念等の周知を図ります。 <想定事業>アドバイザーの派遣
総合型クラブの運営財源の確保の支援 【生涯学習部】	総合型クラブの自主的・自立的な運営、持続的な活動のためには、クラブの活動に見合った財源を確保することが必要であり、自己財源率を高めていくための支援を行います。また、法人格の取得支援を行います。 <想定事業>アドバイザーの派遣
総合型クラブの自立的な運営を支える人材の育成 【生涯学習部】	総合型クラブを円滑に運営するために、経営能力を有する専門的な人材であるクラブマネージャー等の人材の育成を支援します。 <想定事業>クラブマネージャーの育成支援



5-2 スポーツ施設の管理・運営

公共スポーツ施設の利便性の向上やサービスの向上のために、利用競技及び利用者のニーズに合わせた質の高い施設の管理・運営を図ります。また、市民や体育関連団体等と連携し、よりよい施設の管理・運営方法について検討を行います。

基本施策	取り組み内容
利用者のニーズに応じた管理運営 【生涯学習部】	利用者が快適にスポーツを楽しめるよう、利用者のニーズに応じた適切な施設の管理運営に努めるとともに、更なる利用者の利便性やサービスの向上を図ります。 <想定事業> 体育施設維持管理費／体育施設管理事務費／体育施設指定管理委託事業
市民との協働による施設の維持管理の検討 【生涯学習部】	よりよい施設の管理・運営を目指し、指定管理者制度 ^{※26} の活用に向けた検討を行います。 <想定事業> 体育施設指定管理委託事業
施設利用者による美化活動の推進 【生涯学習部】	競技者やサークル等による練習や、大会前に施設周辺を清掃・美化する活動の促進を図ります。 <想定事業> 施設環境美化の呼びかけ／清掃用具等の充実
公共施設利用予約システムの導入 【企画政策部】	利用者カードの有効期限化や登録要件の厳格化、抽選時における市民優先などを順次導入し、公共スポーツ施設における利用予約の適正化を図ります。 <想定事業> 公共施設利用予約システムの導入

5-3 地域人材の育成・活用

スポーツ指導や健康づくりに関する資格、熱意及び能力を有している地域住民を、スポーツ推進委員及び健康づくり推進員^{※27}として活用を図ります。また、質向上のために研修の充実を図ります。

基本施策	取り組み内容
スポーツ推進委員の確保と育成 【生涯学習部】	研修会や講習会を開催し、スポーツ推進委員の資質の向上を図る。有資格のスポーツ指導者等を公共スポーツ施設等で活用するとともに、指導者の資格取得への支援や研修の充実を図るなど、地域のニーズに即した人材確保、活用方策を検討します。 <想定事業> スポーツ推進委員の委嘱／研修会
健康づくり推進員の資質向上 【生活環境部】	地域住民が運動を継続して実施するために、体操やウォーキングなどの普及に取り組む、地域密着型の健康づくり推進員を養成します。 <想定事業> 健康づくり推進員育成事業／健康づくり推進員の各種自主活動（ノルディックウォーキング・健康ウォーキング・高齢者サロン）

5-4 地域人材を活用するための情報発信

地域人材を活用した総合型地域スポーツクラブなどのスポーツ活動に対し、市民への周知及び参加促進を図ります。

基本施策	取り組み内容
総合型クラブの認知度の向上 【生涯学習部】	総合型クラブの認知度を高め、参加促進を図るため、市ホームページや広報誌等で市内の総合型地域スポーツクラブの設置目的や活動内容の紹介を行うなど、各種情報媒体を用いて市民への周知を図ります。また、各種大会やイベント等において、クラブが自らの活動をPRすることができるような場・機会の提供に努めます。 <想定事業>ホームページの作成支援／広報への掲載支援

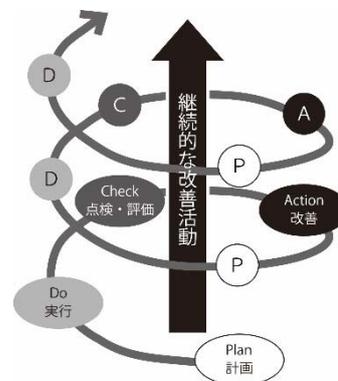


5章 計画の推進に向けて

1. PDCA サイクル※15 による進行管理

本計画の取り組みを計画的かつ継続的に推進していくためには、進行状況を常に把握し、必要に応じて計画の内容を改善していく必要があります。

そのため、「PDCAサイクル」と呼ばれる「計画(PLAN)」→「実施・実行(DO)」→「点検・評価(CHECK)」→「改善(ACTION)」の流れを定着させることで継続的な取り組み・改善活動を推進します。



Plan	過去の実績を踏まえた計画を立てる
Do	計画にしたがって実行するとともに、パフォーマンスも測定する
Check	実行状況が計画通りに進んでいるかをレビューする
Action	計画から逸れているようであれば改善処置（原因の特定）を施す

2. 進行管理体制の設置

PDCA サイクルを確立させる体制として、取り組みを推進する「担当課」以外に、「スポーツ推進協議会（仮称）」を設置します。

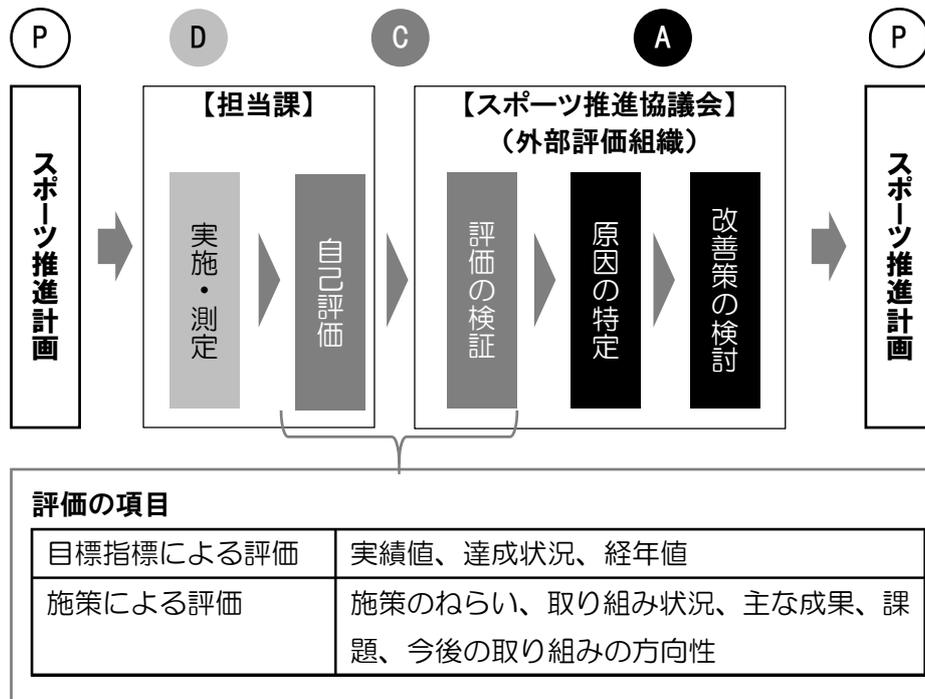
「担当課連絡会議（仮称）」は、本計画の施策の取り組み主体として、取り組み状況を自己評価します。

「スポーツ推進協議会（仮称）」は、計画策定組織及び市民代表として各専門の方々で構成される外部評価委員会であり、担当課の自己評価結果を踏まえ、「市民の視点」、「専門家の視点」から評価、事業の改善に向けた審議・検討を行います。

組織名	担当課連絡会議（仮称）	スポーツ推進協議会（仮称）
役割	<ul style="list-style-type: none"> 本計画の施策の取り組み主体。 取り組み状況について自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 庁内の自己評価結果を踏まえ、「市民の視点」、「専門家の視点」から第三者評価、事業の改善に向けた審議・検討を行う。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みを推進する担当課から構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進計画策定会議委員 各専門家（教育、福祉、観光、児童など）

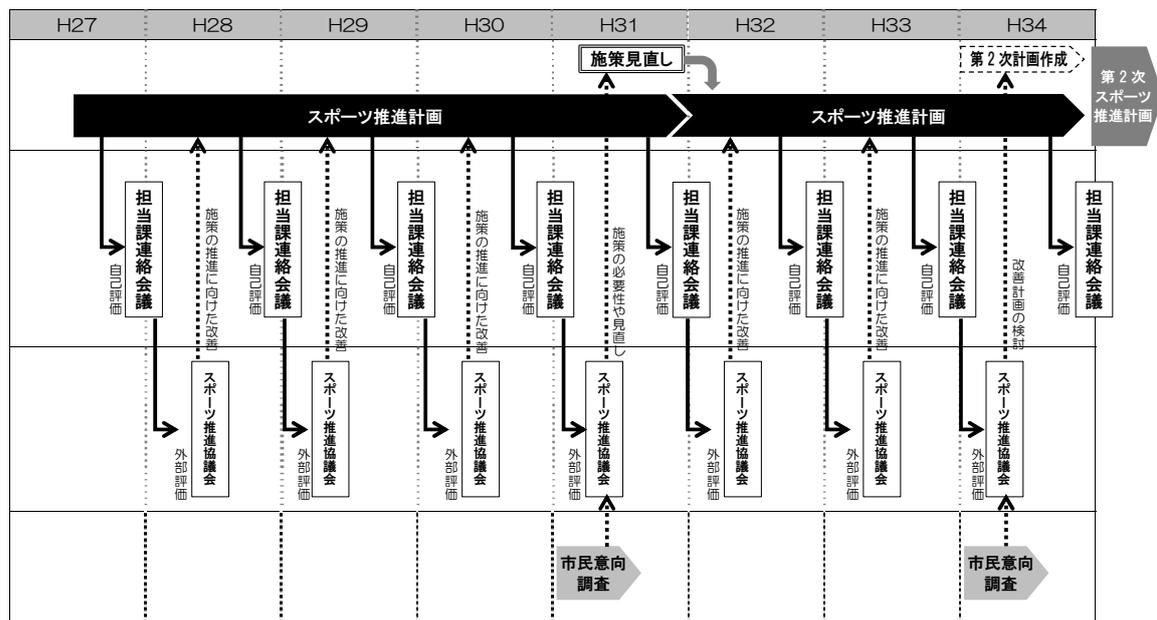
3. 各進行管理体制による PDCA の流れ

以下に示した各進行管理体制による PDCA 流れにより、進行管理を行います。評価は、「目標指標による評価」と「施策による評価」により行い、必要に応じて計画の改善を図ります。



〈進行管理スケジュールイメージ〉

進行管理スケジュールイメージ



資料編

1. 用語集

※1 スポーツ基本法（平成23年8月施行）

「スポーツ振興法」を50年ぶりに全部改正し、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めた法律で、平成23年6月24日に公布、平成23年8月24日に施行された。スポーツに関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務、スポーツ団体の努力等を明らかにした。スポーツ界の透明性の向上、公平・公正性の向上の要請や障がい者スポーツの発展など、現代的な課題を踏まえるとともに、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的としている。

※2 スポーツ基本計画（平成24年3月策定）

スポーツ基本法の規定に基づき、文部科学省が平成24年3月に策定した、国のスポーツ施策の具体的な方向性を示す計画。国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針として位置付けられている。10年間程度を見通した基本方針を定めるとともに、平成24年度からおおむね5年間の総合的かつ計画的に取り組む施策の体系化をしている。

※3 ライフステージ

人間の一生における幼少期・青春期・青年期・壮年期・高齢期等のそれぞれの時期（段階）のこと。

※4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（全国体力テスト）

子どもの体力が低下している状況にかんがみ、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析し、体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に文部科学省が実施している調査。

※5 ニュースポーツ

新しく考案したり、既存のルールを一部改善することなどをして、興味・関心や欲求、あるいは能力・適性等に合わせてスポーツに親しめるように開発されたスポーツの総称。

※6 バリアフリー

障がい者を含む高齢者等の社会生活弱者が、社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障がいや精神的な障壁を取り除くための施策、もしくは具体的な障がいを取り除いた状態をいう。

※7 ユニバーサルデザイン

年齢や性別、身体的能力、国籍や文化等の人々の様々な特性や違いを超えて、最初からす

べての人が利用しやすく、そして、すべての人に配慮したまちづくりやものづくり、仕組みづくりを行うという考え方。

※8 トップアスリート

アスリートとは、英語で「競技者」という意味で、いわゆるスポーツ選手のことで、その中で一流と認められるものをトップアスリートと呼ぶ。

※9 スポーツボランティア

各種のスポーツ活動において、報酬を目的としない専門能力や時間等を自発的に提供し、クラブや団体の運営、指導活動を日常的に支えたり、各種スポーツイベント等の運営を支えたりする人。

※10 総合型地域スポーツクラブ

文部科学省が平成12年9月に策定した「スポーツ振興基本計画」の中で提唱した生涯スポーツ社会の実現を目指すための組織。“総合型”とは、“多種目、多世代、多様な技術・技能の人で構成される”ことを意味している。クラブを構成する一人ひとりがスポーツサービスの受け手であると同時に、創り手であるという主体性を前提として、地域のスポーツ文化の確立を目指している。

※11 クラブマネージャー

クラブマネージャーとは、事業体としての総合型地域スポーツクラブ全体の経営管理（マネジメント）を行う立場にある人。クラブの財務状況や会員数、活動プログラム、運営委員会と指導者など、クラブ全体について把握している人。

※12 アスレティックトレーナー

スポーツ現場で選手が受傷したときの応急処置や傷害の評価、復帰までの手順を考えたり、傷害の予防のために働く、スタッフの一員である。現在ではスポーツ現場に限らず、高齢者の健康づくりなど、職域が広がっている。

※13 幼児期運動指針

運動習慣の基盤づくりを通して、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに、様々な運動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指す文部科学省の指針。この指針における幼児とは3歳から6歳の小学校就学前の子どもを指す。

※14 スポーツ医科学

運動・スポーツ活動を生理学的、体力的、心理学的に、栄養学的、病理学的な面からとらえ研究する学問であり、これらの知識や研究成果を運動・スポーツの現場に応用し、肉体的な動きや運動・スポーツ活動の機能的能力の増進維持、競技力の向上を図る。

また、運動・スポーツを健康の保持増進、疾病予防、治療に役立てるとともに、運動・スポーツを行うことにより生じる外傷・傷害の予防、治療、リハビリテーションを行う。

※15 外部指導者

学校の運動部活動を、教員以外の専門的知識と技術をもって指導する指導者。専門的指導技術を持つ教員がなく、部活動指導に困難な場合などに、地域のスポーツ指導者などが学校から依頼を受け指導している。

※16 放課後子ども教室

小学校の余裕教室等を活用して、地域の多様な方々の参画を得て、子供たちとともに行う学習やスポーツ・文化活動等。

※17 ワークライフバランス

ワークライフバランスとは、国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる。

※18 AED（自動体外式除細動器）

AED=Automated External Defibrillator の略。突然心停止状態に陥ったとき、心臓に電気ショックを与えて、正常な状態に戻す医療機器。

※19 健康運動指導士

健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者。

※20 ヘルスケアトレーナー

中央労働災害防止協会が認定する資格で、産業医の指示に従って、運動プログラムの作成や指導を行う。この中央労働災害防止協会が実施する「運動指導専門研修」の受講・登録により「ヘルスケアトレーナー」という名称を取得できる。

※21 スポーツ推進委員

各市町村には、スポーツ基本法によって規定された「スポーツ推進委員」が配置されており、各地域におけるスポーツ施策の推進の中心的な役割を担っている。その活動内容については、スポーツに関する各種教室での指導や各種大会等の企画・運営など、幅広く活動している。

※22 スポーツ少年団

（公財）日本体育協会の加盟団体で、昭和37年に「スポーツによる青少年の健全育成」を目的に創設された青少年スポーツ団体。地域を基盤としたスポーツの場を提供することにより、スポーツを計画的、継続的に実践し、子どもたちを健全に育成しようと全国で結成が呼びかけられた。

※23 スポーツツーリズム

スポーツイベントへの参加・観戦、スポーツ関連施設の訪問等を目的とした滞在型の余暇活動。

※24 スポーツコンベンション

「する」「みる」「支える」スポーツを通し、他の地域からヒト・モノ・情報の交流をもたらす大会やイベント。

※25 スポーツコミッション

スポーツコミッションとは、スポーツを重要産業と捉え、スポーツに特化して都市マーケティングを担う専門組織。

※26 指定管理者制度

公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとした営利企業・財団法人・NPO法人・市民グループなど法人その他の団体に包括的に代行させることができる制度。

※27 健康づくり推進員

宮古島市民一人ひとりが生涯にわたって、いきいきと生活できることを目指すための、行政と地域・住民とのパイプ役。健康診断の受診のよびかけや、健康づくり教室の企画などを行う。

※28 PDCAサイクル

マネジメント手法の一種で、Plan「計画」、Do「実行」、Check「点検」、Act「改善」の頭文字をとったもの。業務計画の作成、計画に則った実行、実践の結果を目標と比べる点検、そして発見された改善すべき点を是正する4つの段階を繰り返すことで、段階的に業務効率を向上させることができる。

2. 計画策定の経緯

年月日	会議名等	内容
平成 26 年 12 月 17 日	第 1 回スポーツ推進計画策定会議	国や県の動向、計画策定の目的等の確認、市民のスポーツに関する意識調査票の確認
12 月 28 日～ 1 月 15 日	市民のスポーツに関する意識調査	市民の運動・スポーツに関する意識と実態を把握するために実施
平成 27 年 1 月	スポーツ指導者への意向調査	スポーツ指導者の運動・スポーツに関する意識と指導実態を把握するために実施
1 月 21 日～ 23 日	スポーツ関連団体等への意向調査	宮古島市のスポーツに関する動向と関連団体等の活動実態を把握するために実施
2 月 18 日	第 2 回スポーツ推進計画策定会議	各種調査の結果報告、宮古島市の現状と課題について、基本方針の検討
3 月 27 日	沖縄県スポーツ振興課と意見交換	宮古島市スポーツ推進計画策定の考え方や計画の内容についての意見交換
4 月 15 日	第 3 回スポーツ推進計画策定会議	沖縄県との意見交換の報告、基本方針の設定、施策の検討
4 月	庁内関係課への意見聴取	庁内関係課への施策に関する意見を聴取
5 月 27 日	第 4 回スポーツ推進計画策定会議	庁内関係課への結果報告、施策の設定、指標の検討、パブリックコメントについて
6 月 8 日～ 7 月 3 日	パブリックコメント	宮古島市スポーツ推進計画（素案）に関する市民から意見を募集
7 月 29 日	第 5 回スポーツ推進計画策定会議	パブリックコメントの結果報告、指標の設定、進行管理体制について

3. 計画策定の体制

●宮古島市スポーツ推進計画策定会議委員

氏名	所属団体等	備考
砂川 恵助	宮古島市体育協会副会長 宮古島市商工会議所専務理事	委員長
本村 博之	宮古地区高等学校体育連盟会長	
伊志嶺 吉作	宮古中学校体育連盟会長	副委員長
打出 啓二	医師	
洲鎌 菜保子	下地総合スポーツクラブ理事長	

4. 市民のスポーツに関する意識調査

<調査概要>

- 目的：「市民のスポーツに関する意識調査」は、地域の実情に即した「宮古島市スポーツ推進計画」を策定する際の参考資料として活用するために、市民の皆様の運動・スポーツに関する意識と実態を把握することを目的に実施しました。
- 調査日時：平成26年12月28日～平成27年1月15日（木）
- 調査対象：20歳以上の市民2,000名（無作為抽出。ただし、行政区・年齢・性別毎の人口比率から抽出件数を割り出した）
- 調査方法：郵送での配布・回収による無記名アンケート形式
- 配布数：2,000通
- 回収状況：383通、回収率：19.2%

<調査結果のまとめ>

健康・体力観について

- 「健康である」と答えた人は約8割、「体力に自信がある」と答えた人は5割以上。
- 「運動不足を感じる」と答えた人は約8割、「肥満である」と答えた人は5割以上。
- 「体力や健康に注意している」と答えた人は9割以上。
- 健康や体力維持増進のために「運動やスポーツをしている人」は約4割。

1年間の運動・スポーツの実施状況や今後の意向

- 「運動やスポーツをした」と答えた人は約6割。
- 行った運動やスポーツの種目は「散歩・ウォーキング」が突出して高い。
- 運動やスポーツは、「自分一人で」行ったと答えた人の割合が5割以上。
- 「週に1日以上」運動やスポーツを行っている人の割合は約8割で、全国や沖縄県の調査結果と比較すると非常に高い。
- 運動やスポーツを実施した理由としては、健康・体力づくりや友人・仲間との交流などが挙げられる。
- 運動やスポーツをしなかった理由や運動やスポーツの妨げになっていることは、「時間がない」や「身近に施設がない」などの意見が多い。
- 今後行いたい運動やスポーツの種目は、「ウォーキング」と答えた人の割合が最も高い。

スポーツ・体育施設について

- 公共スポーツ施設に望むことは、「施設数の増加」と答えた人の割合が最も高く、以下「利用時間帯の拡大（早朝、夜間など）」、「施設内容や機材・器具の充実」が挙げられた。
- 今後、設置してほしい公共のスポーツ施設は、「屋内プール」と答えた人の割合が最も高く、沖縄県の調査結果と比較しても、高い割合になっている。
- 学校施設を利用した人は1割程度おり、利用した感想では、利用しやすいと答えた人の割合が多い。
- 学校の体育施設を「利用しなかった」人は8割以上で、利用しなかった理由として、「利用できることを知らない」や施設の利用時間帯等が挙げられる。

スポーツクラブ等への加入状況と今後の意向について

- スポーツクラブ等へ「加入している」は2割程度と少ないが、今後、自分の好きな運動やスポーツのクラブ等があれば、「加入したい」と答えた人の割合は約4割と多い。
- 市町村内の人を対象とした地域クラブ等に加入している人が多く、加入している理由として、スポーツクラブ等へは健康・体力づくりのために加入する人が多い。
- 「総合型地域スポーツクラブ」を認知していた人は4人に1人と認知度が低い。

スポーツ教室やスポーツイベントへの参加状況と今後の意向について

- スポーツ教室などに参加した人は1割程度と低いが、今後スポーツ教室に参加したいと答えている割合は4割程度と多い。
- 町内会などが主催するスポーツ行事へは、「応援者・観戦客として参加した」人が多く、沖縄県の調査結果と比較しても、スポーツ行事へ参加したと回答した割合が高い。
- スポーツ観戦について関心があると答えた人が8割以上で、「プロスポーツ」を誘致してほしいと答えた人の割合は約4割と高い。
- 直接会場へ行って「プロスポーツ」を観戦した人は約1割程度と少ない。

スポーツに関するボランティア活動の状況と今後の意向について

- 沖縄県の調査と比較すると、スポーツに関するボランティア活動を行った人が非常に多く、今後のボランティア活動に参加したいと考えている人が多い。
- 実施したボランティア活動の内容では「地域のスポーツ大会等の運営や世話」が最も多く、今後、行いたいボランティア活動でも「地域のスポーツ大会等の運営や世話」を行いたいと考えている人が多い。

運動やスポーツに関する情報の入手について

- 運動やスポーツに関する情報収集方法は年齢によって異なっている。
- 提供してほしい情報内容として、「健康・体力づくり情報」、「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報」、「スポーツ行政やスポーツ競技会の情報」などを要望している人が多い。

地域のスポーツの振興にあたっての期待や要望について

- 市に力を入れてもらいたいこととして「手軽にスポーツができる公園整備」や「ジョギングなどができる道路整備」、「年齢層にあったスポーツの開発普及」が多く挙げられた。
- スポーツ指導者では、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心が湧くような指導ができる人」、「健康・体力づくりのための運動やスポーツのプログラムの作成・指導ができる人」を確保、養成してほしいと考えている人が多い。
- プロスポーツチームのキャンプなどによる効果として「子どもたちに対する夢や希望の提供」や「子どもたちへのスポーツ教室の開催など地域のスポーツ振興への貢献」、「超一流プレイヤーの最高水準のパフォーマンスによる感動や元気の付与」を期待している人が多い。
- 地域におけるスポーツ振興による効果として「青少年の健全育成」、「コミュニティの維持・形成」、「親子や家族の交流」を期待している人が多い。
- 行政側から合宿費や大会遠征費などの援助や国際大会で活躍する子どもたちを発掘・育成するような仕組みについて導入すべきと答えた人の割合が8割以上。

<集計結果>

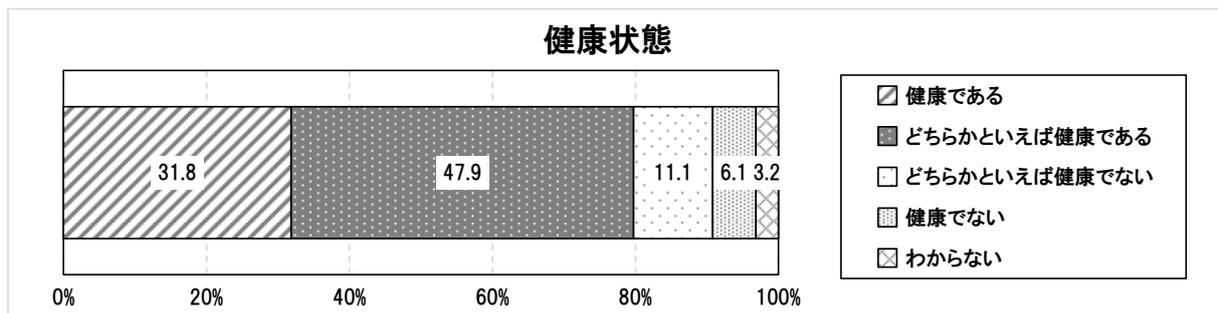
回答者の属性

①性別		②年齢	
	構成比		構成比
男性	47.0	20～24歳	2.9
女性	49.9	25～29歳	4.7
無回答	3.1	30～34歳	7.0
		35～39歳	9.9
		40～44歳	10.2
		45～49歳	8.9
		50～54歳	10.2
		55～59歳	12.5
		60～64歳	14.1
		65～69歳	7.0
		70歳以上	11.0
		無回答	1.6
③住まい（中学校区）		④職業	
	構成比		構成比
自営・家族従業	16.7	健康である	31.6
会社・商店・工場・役所などの勤め	43.6	どちらかといえば健康である	47.5
パート・アルバイト	11.0	どちらかといえば健康でない	11.0
主婦・主夫	9.4	健康でない	6.0
学生	0.8	わからない	3.1
無職(退職者含む)	16.2	無回答	0.8
無回答	2.3		

健康・体力観について

問1 あなたは、このところ健康だと思いますか。

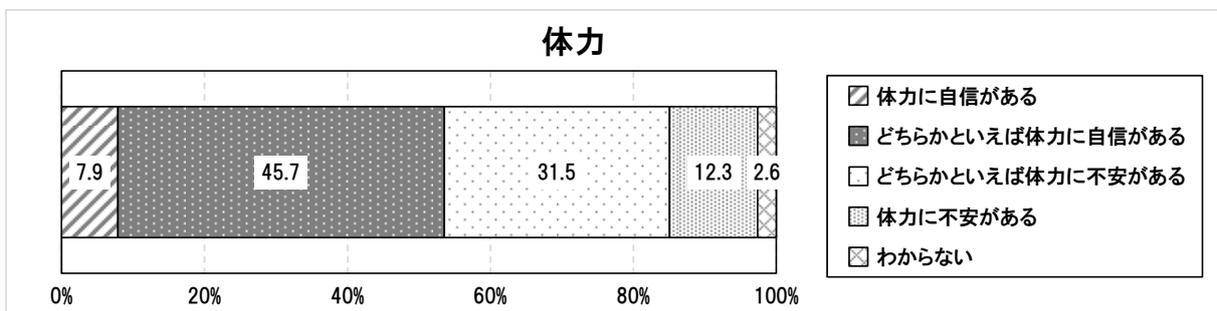
- 自身の健康について聞いたところ、健康であると答えた人の割合が79.7%（「健康である」31.8%+「どちらかといえば健康である」47.9%）となっており、平成25年度に文部科学省が実施した「体力・スポーツに関する世論調査」（以下「平成25年度文部科学省調査」という。）の調査結果（87.2%）及び平成24年度に沖縄県が実施した「県民の体力・スポーツに関する意識調査報告書」（以下、平成24年度沖縄県調査という。）の調査結果（83.1%）と比較すると、健康であると答えた人の割合は本市の方が若干低くなっている。
- 年齢別でみると健康であると答えた人の割合は、年代が高くなるごとに低くなっている。



		健康である	どちらかといえ ば健康である	どちらかといえ ば健康でない	健康でない	わからない
全体		31.8	47.9	11.1	6.1	3.2
性別	男性	32.2	48.9	11.1	6.7	1.1
	女性	30.2	49.2	11.1	4.8	4.8
年齢	20歳代	48.3	41.4	3.4	3.4	3.4
	30歳代	36.9	49.2	10.8	1.5	1.5
	40歳代	28.8	56.2	8.2	2.7	4.1
	50歳代	29.9	50.6	9.2	5.7	4.6
	60歳代	30.0	45.0	17.5	5.0	2.5
	70歳代	26.8	39.0	14.6	17.1	2.4
地区	平良地区	31.8	48.6	10.4	4.6	4.6
	城辺地区	11.1	52.8	19.4	11.1	5.6
	下地地区	44.8	41.8	7.5	4.5	1.5
	上野地区	24.2	53.2	16.1	4.8	1.6
	伊良部地区	43.2	45.9	5.4	5.4	0.0
比較	全国	55.1	32.1	7.8	4.9	0.2
	沖縄県	30.9	52.2	11.0	4.3	1.6

問2 あなたは、ご自分の体力についてどのように感じていますか。

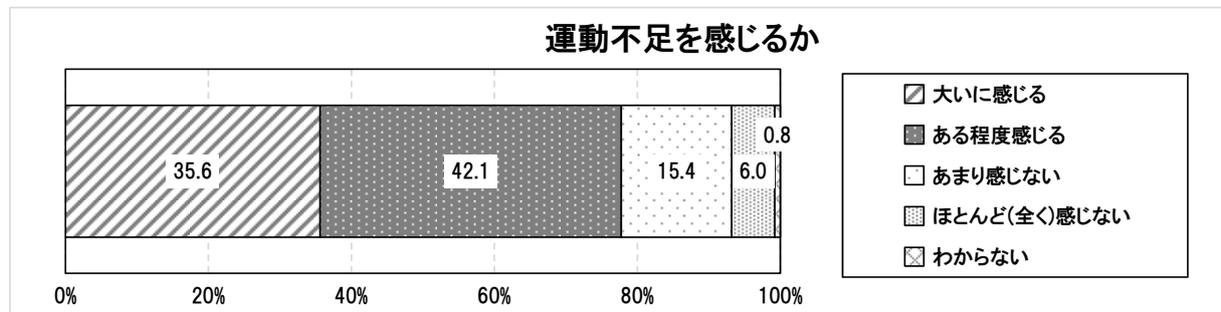
- 普段の体力について聞いたところ、体力に自信があると答えた人の割合が 53.6%（「体力に自信がある」7.9%+「どちらかといえば体力に自信がある」45.7%）となっており、「平成 25 年度文部科学省調査」の結果（61.9%）と比較すると、体力に自信があると答えた人の割合は本市の方が、およそ 8 ポイント低くなっている。
- 性別でみると、体力に自信があると答えた割合は、男性は半数を超えているが、女性は半数以下であり、男女間の差が 8 ポイントもある。
- 年齢別でみると、体力に自信があると答えた割合は、50 歳代が最も高く、次いで 30 歳代となっており、70 歳代以上の高齢層ではかなり低くなっている。
- 地域別でみると、体力に自信があると答えた割合は、下地地区が最も高く、最も低い城辺地区と 30 ポイントも開いている。



		体力に自信がある	どちらかといえば体力に自信がある	どちらかといえば体力に不安がある	体力に不安がある	わからない
全体		7.9	45.7	31.5	12.3	2.6
性別	男性	9.4	48.3	31.7	10.0	0.6
	女性	6.8	42.6	31.6	14.7	4.2
年齢	20歳代	17.2	34.5	31.0	17.2	0.0
	30歳代	6.2	49.2	30.8	10.8	3.1
	40歳代	9.6	45.2	30.1	12.3	2.7
	50歳代	5.7	55.2	26.4	9.2	3.4
	60歳代	7.5	45.0	38.8	8.8	0.0
	70歳代	7.1	33.3	31.0	21.4	7.1
地区	平良地区	6.9	45.7	32.9	13.3	1.2
	城辺地区	2.8	33.3	41.7	19.4	2.8
	下地地区	9.0	58.2	20.9	9.0	3.0
	上野地区	4.8	46.8	35.5	8.1	4.8
	伊良部地区	18.9	40.5	27.0	10.8	2.7
比較	全国	14.8	47.1	30.9	7.2	0.1
	沖縄県	8.4	41.4	33.3	13.9	3.0

問3 あなたは、普段、運動不足を感じますか。

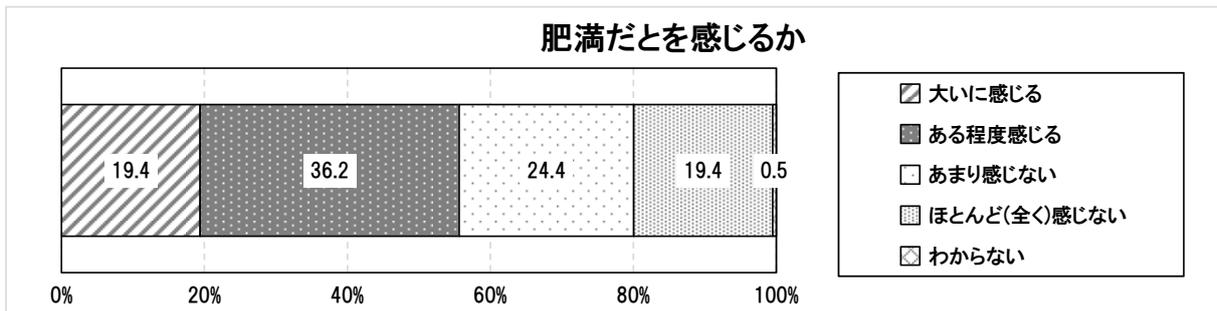
- 運動不足について聞いたところ、運動不足を感じると答えた人の割合は 77.7%（「大いに感じる」35.6%＋「ある程度感じる」42.1%）となっており、「平成 25 年度文部科学省調査」の結果（74.7%）と比較すると、本市の方が約 3 ポイント高くなっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果（79.5%）と比較すると、本市の方が約 2 ポイント低くなっています。
- 性別でみると、運動不足を感じると答えた人の割合は、男性より女性の方が、約 10 ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、運動不足を感じると答えた人の割合は、40 歳代、50 歳代が高く、20 歳代、70 歳代以上が低くなっている。
- 圏域別でみると、運動不足を感じると答えた人の割合は、城辺地区が最も高く、最も低い下地地区と約 24 ポイントの差がある。



		大いに感じる	ある程度感じる	あまり感じない	ほとんど(全く)感じない	わからない
全体		35.6	42.1	15.4	6.0	0.8
性別	男性	29.4	43.3	20.0	6.7	0.6
	女性	42.4	40.8	11.0	4.7	1.0
年齢	20歳代	41.4	27.6	24.1	6.9	0.0
	30歳代	43.1	36.9	13.8	6.2	0.0
	40歳代	49.3	34.2	9.6	5.5	1.4
	50歳代	28.7	55.2	9.2	6.9	0.0
	60歳代	29.6	43.2	21.0	4.9	1.2
	70歳代	19.0	47.6	23.8	7.1	2.4
地区	平良地区	39.3	35.8	16.8	7.5	0.6
	城辺地区	52.8	44.4	2.8	0.0	0.0
	下地地区	20.6	52.9	19.1	5.9	1.5
	上野地区	32.3	46.8	16.1	4.8	0.0
	伊良部地区	32.4	43.2	13.5	8.1	2.7
比較	全国	31.5	43.2	17.0	8.3	0.1
	沖縄県	38.0	41.5	14.9	5.1	0.5

問4 あなたは、ご自身を肥満だと感じますか。

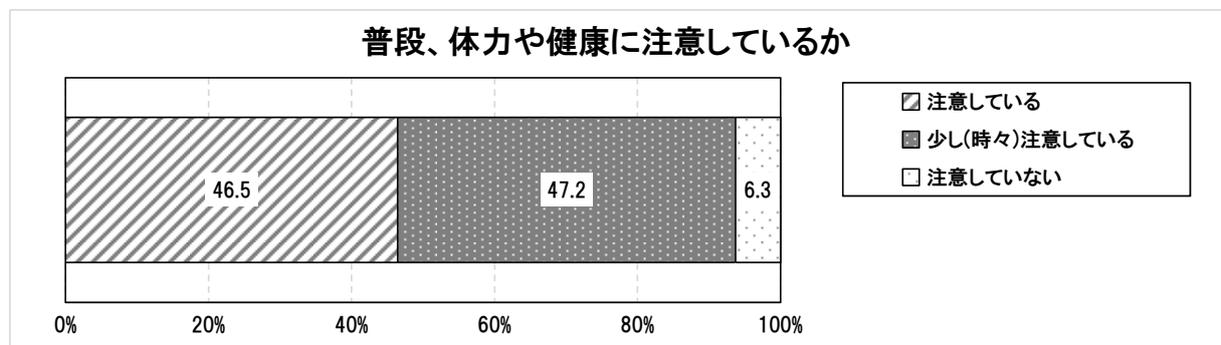
- 肥満について聞いたところ、肥満と感じると答えた人の割合が 55.6%（「大いに感じる」19.4%+「ある程度感じる」36.2%）となっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果（55.3%）と比較すると、ほぼ同じ割合である。
- 性別で見ると、肥満と感じると答えた人の割合は、女性の方が高くなっている。
- 年齢別で見ると、肥満と感じると答えた人の割合は、20 歳代や 30 歳代が高く、30 歳代と 70 歳代以上が低くなっている。
- 地域別で見ると、肥満と感じると答えた人の割合は、城辺地区が最も高く、最も低い伊良部地区と約 37 ポイントの差がある。



		大いに感じる	ある程度感じる	あまり感じない	ほとんど(全く)感じない	わからない
全体		19.4	36.2	24.4	19.4	0.5
性別	男性	29.4	43.3	20.0	6.7	0.6
	女性	42.4	40.8	11.0	4.7	1.0
年齢	20歳代	24.1	37.9	27.6	10.3	0.0
	30歳代	24.6	43.1	18.5	13.8	0.0
	40歳代	21.9	27.4	31.5	17.8	1.4
	50歳代	21.8	33.3	23.0	20.7	1.1
	60歳代	14.8	40.7	22.2	22.2	0.0
	70歳代	4.9	39.0	29.3	26.8	0.0
	地区	平良地区	22.1	36.0	24.4	16.3
	城辺地区	33.3	44.4	13.9	8.3	0.0
	下地地区	8.8	33.8	30.9	26.5	0.0
	上野地区	21.0	38.7	17.7	22.6	0.0
	伊良部地区	8.1	32.4	35.1	24.3	0.0
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	20.2	35.1	23.2	20.7	0.7

問5 あなたは、普段、体力や健康に注意していますか。

- 健康や体力への注意について聞いたところ、健康や体力に注意していると答えた人の割合が93.7%（「注意している」46.5%+「少し（時々）注意している」47.2%）となっており、「平成24年度沖縄県調査」の結果（89.7%）と比較すると、健康や体力に注意していると答えた人の割合はおよそ4ポイント高くなっている。
- 性別でみると、健康や体力に注意していると答えた割合は、女性の方が高くなっている。
- 年齢別でみると、健康や体力に注意していると答えた割合は、60歳代と70歳代が高く、30歳代が最も低くなっている。さらに「注意している」と答えた割合は、60歳代、70歳代以上は半数以上を占め、高齢になるほど健康への意識が高い。
- 地域別でみると、健康や体力に注意していると答えた割合は、城辺地区が最も高く、伊良部地区が最も低くなっている。

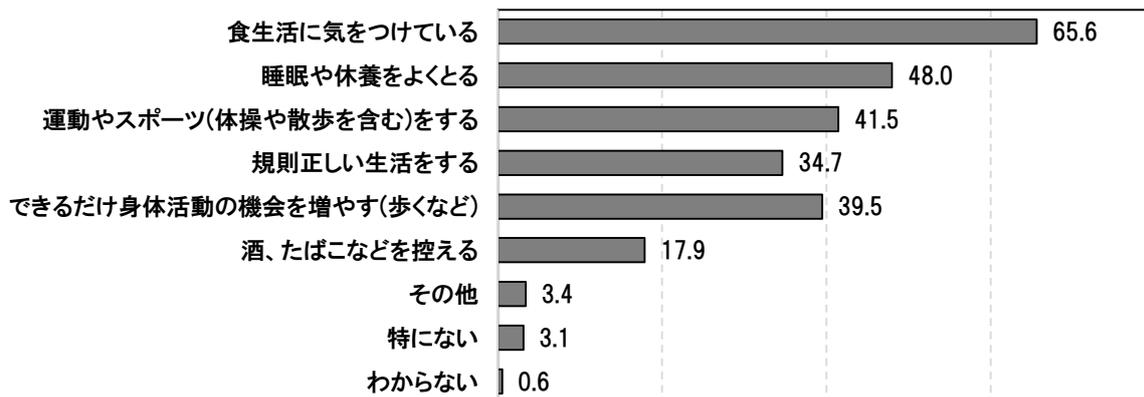


		注意している	少し(時々)注意している	注意していない
全体		46.5	47.2	6.3
性別	男性	45.6	46.1	8.3
	女性	47.4	48.4	4.2
年齢	20歳代	48.3	44.8	6.9
	30歳代	27.7	61.5	10.8
	40歳代	42.5	50.7	6.8
	50歳代	40.2	52.9	6.9
	60歳代	63.0	35.8	1.2
	70歳代	65.9	31.7	2.4
地区	平良地区	48.6	44.5	6.9
	城辺地区	36.1	61.1	2.8
	下地地区	44.8	52.2	3.0
	上野地区	50.0	43.5	6.5
	伊良部地区	45.9	45.9	8.1
比較	全国	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	39.2	50.5	10.4

問5-1 日頃、健康や体力の維持増進のために心がけていることはありますか。主なものを3つまで選んでください。

- 健康や体力の保持増進のために心掛けていることを聞いたところ、「食生活に気をつけている」と答えた人の割合が65.6%と最も高く、以下「睡眠や休養をよくとる」(48.0%)、「運動やスポーツ(体操や散歩を含む)をする」(41.5%)の順となっている。
- 性別でみると、男性では「酒、たばこなどを控える」、「運動やスポーツ(体操や散歩を含む)をする」が、女性では「食生活に気をつける」、「睡眠や休養をよくとる」が異性に比べ割合が高くなっている。
- 年齢別でみると、20歳代は「運動やスポーツをする」と答えた人の割合が、他の年齢層に比べ約20ポイント高くなっている。
- 地域別にみると、平良地区は「運動やスポーツ(体操や散歩を含む)をする」、伊良部地区は「できるだけ身体活動の機会を増やす(歩くなど)」と答えた人の割合が他地区より高くなっている。

健康や体力の維持増進のために心がけていること

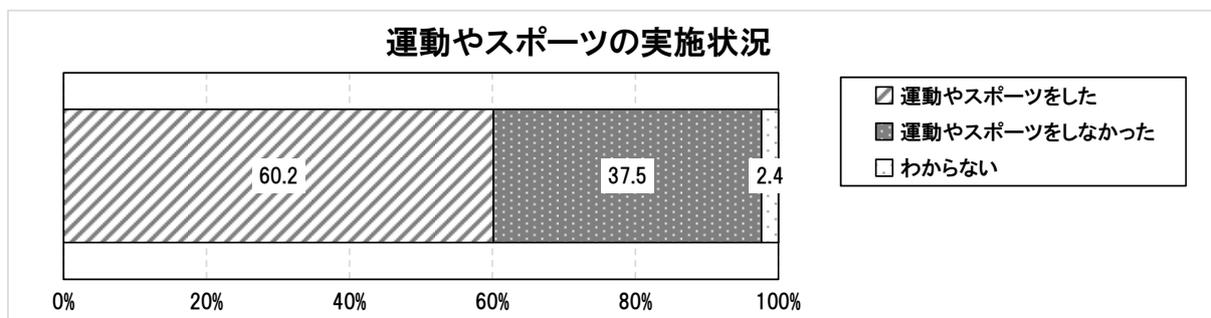


	食生活に気をつけている	睡眠や休養をよくとる	運動やスポーツ(体操や散歩を含む)をする	規則正しい生活をする	できるだけ身体活動の機会を増やす(歩くなど)	酒、たばこなどを控える	その他	特にない	わからない
宮古島市	65.6	48.0	41.5	34.7	39.5	17.9	3.4	3.1	0.6
沖縄県	67.2	47.3	40.8	30.3	30.3	17.0	3.4	0.6	0.0
性別 男性	56.2	36.0	42.7	27.5	41.0	23.6	2.2	3.4	0.0
性別 女性	65.6	54.0	35.4	36.5	33.9	10.1	3.7	2.6	0.5
年齢 20歳代	48.0	44.0	64.0	24.0	52.0	28.0	0.0	0.0	0.0
年齢 30歳代	49.1	52.6	42.1	35.1	42.1	15.8	1.8	3.5	0.0
年齢 40歳代	66.2	45.6	44.1	33.8	35.3	22.1	1.5	1.5	0.0
年齢 50歳代	65.4	50.6	38.3	29.6	39.5	18.5	6.2	2.5	1.2
年齢 60歳代	72.2	45.6	40.5	39.2	41.8	17.7	3.8	5.1	0.0
年齢 70歳代	84.6	46.2	30.8	46.2	33.3	7.7	2.6	5.1	2.6
地区 平良地区	66.3	46.3	50.6	30.0	41.9	18.1	3.1	3.8	0.0
地区 城辺地区	58.8	52.9	29.4	41.2	29.4	8.8	0.0	0.0	5.9
地区 下地地区	65.6	48.4	37.5	40.6	42.2	21.9	4.7	0.0	0.0
地区 上野地区	71.9	47.4	35.1	42.1	33.3	17.5	5.3	5.3	0.0
地区 伊良部地区	54.5	51.5	30.3	30.3	48.5	21.2	0.0	6.1	0.0
比較 全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
比較 沖縄県	67.2	47.3	40.8	30.3	30.3	17.0	3.4	0.6	0.0

1年間の運動・スポーツの実施状況や今後の意向

問6 あなたはこの1年間に1日あたり30分以上の運動やスポーツを行いましたか。ただし、学校の体育の授業や、職業として行ったものは除きます。

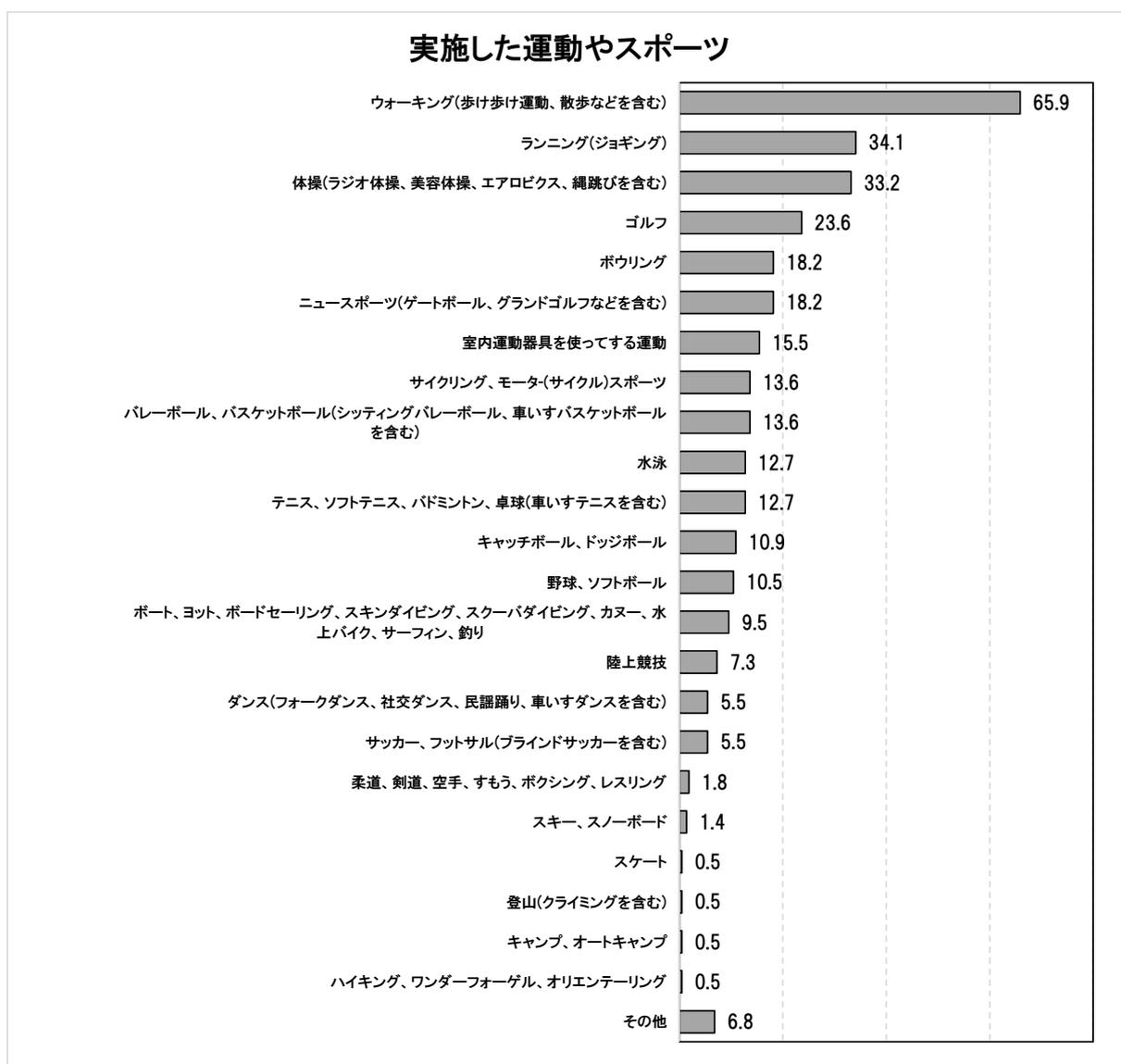
- 運動やスポーツの実施状況について聞いたところ、「運動やスポーツをした」と答えた人の割合は60.2%となっており、「平成24年度沖縄県調査」(57.9%)と比較すると、「運動やスポーツをした」と答えた人の割合は約2ポイント高くなっている。
- 性別で見ると、「運動やスポーツをした」と答えた人の割合は、男性は女性に比べ約13ポイント高い。
- 年齢別で見ると、各年齢層とも半数以上の人々が「運動やスポーツをした」と答えており、中でも20歳代が「運動やスポーツをした」と答えた割合が高く、一方、40歳代は割合が低い。
- 地域別で見ると、「運動やスポーツをした」と答えた割合は、上野地区が最も高く、最も低い伊良部地区と約18ポイントの差がある。



		運動やスポーツをした	運動やスポーツをしなかった	わからない
宮古島市		60.2	37.5	2.4
沖縄県		57.9	40.1	2.0
性別	男性	67.0	30.2	2.8
	女性	54.2	44.2	1.6
年齢	20歳代	79.3	24.0	0.0
	30歳代	60.0	43.9	1.8
	40歳代	53.4	44.1	5.9
	50歳代	55.3	43.2	3.7
	60歳代	63.8	36.7	0.0
	70歳代	64.3	35.9	2.6
地区	平良地区	63.2	34.5	2.3
	城辺地区	63.9	30.6	5.6
	下地地区	52.2	44.8	3.0
	上野地区	66.1	32.3	1.6
	伊良部地区	48.6	51.4	0.0
比較	全国	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	57.9	40.1	2.0

問6-1 あなたがこの1年間に、どのような運動やスポーツを行いましたか。別紙の「運動・スポーツの種目リスト」から該当する番号を全て選んで、下記に記入してください。ただし、学校の体育の授業や職業として行ったものは除きます。

- 実施した運動やスポーツについて聞いたところ、「散歩・ウォーキング」(65.9%)と答えた割合が突出して高く、次いで「ジョギング・ランニング」(34.1%)、「体操[ラジオ体操含む]」(33.2%)、「ゴルフ」(23.6%)の順になっている。
- 性別で見ると、男性では「ゴルフ」や「サイクリング、モーター(サイクル)スポーツ」が、女性では「体操[ラジオ体操含む]」、「室内運動器具を使ってする運動」の割合が高い。
- 年齢別で見ると、他の年齢別より割合が高いものとして、60歳代以上の高齢層では「ニュースポーツ」が、若年齢層では「バレーボール、バスケットボール」などが挙げられる。
- 地域別で見ると、他の地域より割合が高いものとして、平良地区では「野球、ソフトボール」が、城辺地区と下地地区では「ニュースポーツ」が、上野地区では「バレーボール、バスケットボール」が、伊良部地区では「水泳」が挙げられる。

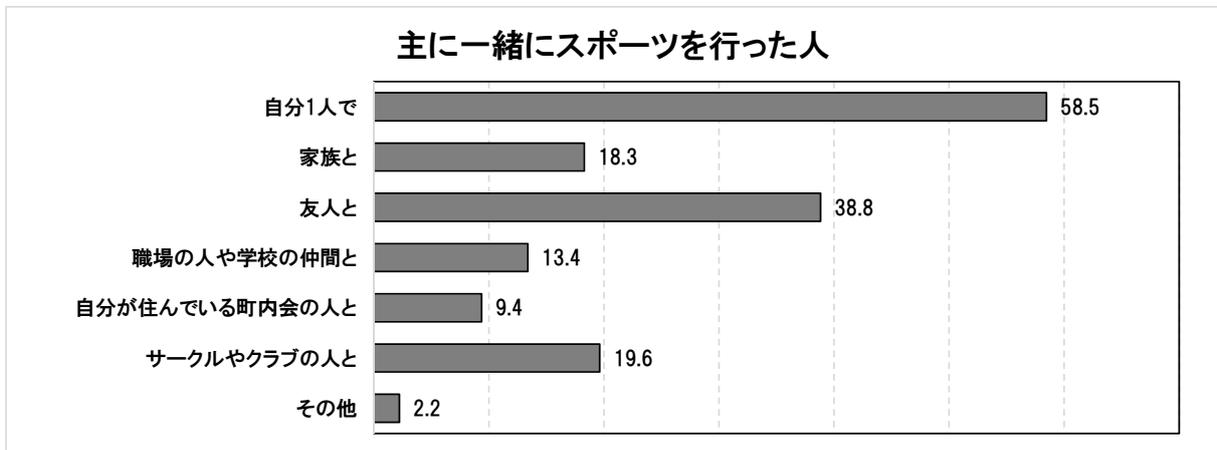


		ウォーキング(歩け歩け運動、散歩などを含む)	ランニング(ジョギング)	体操(ラジオ体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む)	ゴルフ	ボウリング	ニュースポーツ(ゲートボール、グラウンドゴルフなどを含む)	室内運動器具を用いた運動	サイクリング、モーター(サイクル)スポーツ	バレーボール、バスケットボール(シッティングバレーボール、車いすバスケットボールを含む)	水泳	テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(車いすテニスを含む)	キャッチボール、ドッジボール
	全体	38.7	20.0	19.5	13.9	10.7	10.7	9.1	8.0	8.0	7.5	7.5	6.4
性別	男性	65.0	37.6	22.2	41.9	23.9	19.7	9.4	20.5	15.4	17.1	10.3	17.1
	女性	68.4	30.6	46.9	3.1	10.2	17.3	23.5	6.1	12.2	6.1	16.3	3.1
年齢	20歳代	43.5	73.9	13.0	8.7	21.7	4.3	4.3	30.4	30.4	17.4	21.7	21.7
	30歳代	69.2	46.2	35.9	30.8	25.6	7.7	20.5	15.4	30.8	15.4	15.4	12.8
	40歳代	61.5	38.5	33.3	17.9	23.1	5.1	12.8	15.4	15.4	15.4	12.8	15.4
	50歳代	69.8	30.2	37.2	27.9	20.9	9.3	14.0	18.6	7.0	18.6	9.3	11.6
	60歳代	78.0	16.0	32.0	28.0	12.0	36.0	24.0	6.0	2.0	2.0	10.0	4.0
	70歳代	60.0	16.0	40.0	20.0	4.0	48.0	8.0	0.0	4.0	12.0	12.0	4.0
地区	平良地区	70.5	33.3	39.0	25.7	24.8	18.1	14.3	18.1	7.6	14.3	13.3	12.4
	城辺地区	56.5	17.4	26.1	8.7	17.4	21.7	17.4	0.0	17.4	8.7	4.3	8.7
	下地地区	64.7	41.2	35.3	29.4	20.6	29.4	14.7	8.8	17.6	5.9	14.7	11.8
	上野地区	67.6	37.8	24.3	29.7	2.7	8.1	21.6	18.9	27.0	13.5	13.5	2.7
	伊良部地区	55.6	44.4	22.2	11.1	11.1	16.7	11.1	5.6	11.1	22.2	16.7	22.2
比較	全国	8.0	30.8	50.8	4.0	12.7	4.5	12.7	9.4	8.8	5.9	1.5	6.5
	沖縄県		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

		野球、ソフトボール	ボート、ヨット、ボードセーリング、スキндаイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、釣り	陸上競技	ダンス(フォークダンス、社交ダンス、民謡踊り、車いすダンスを含む)	サッカー、フットサル(ブライインドサッカーを含む)	柔道、剣道、空手、すもう、ボクシング、レスリング	スキー、スノーボード	スケート	登山(クライミングを含む)	キャンプ、オートキャンプ	ハイキング、ワンダーフォーゲル、オリエンテーリング	その他
	全体	6.1	5.6	4.3	3.2	3.2	1.1	0.8	0.3	0.3	0.3	0.3	4.0
性別	男性	18.8	0.0	10.3	1.7	6.8	1.7	1.7	0.9	0.9	0.9	0.9	6.0
	女性	0.0	0.0	4.1	10.2	3.1	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.2
年齢	20歳代	13.0	0.0	21.7	0.0	17.4	0.0	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7
	30歳代	10.3	0.0	10.3	7.7	10.3	5.1	2.6	2.6	0.0	2.6	0.0	7.7
	40歳代	23.1	0.0	10.3	2.6	10.3	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8
	50歳代	14.0	0.0	2.3	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	2.3	7.0
	60歳代	0.0	0.0	2.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	70歳代	4.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
地区	平良地区	15.2	0.0	5.7	5.7	4.8	1.9	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	7.6
	城辺地区	4.3	0.0	13.0	4.3	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0
	下地地区	8.8	0.0	8.8	5.9	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	5.9
	上野地区	5.4	0.0	8.1	2.7	5.4	2.7	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	2.7
	伊良部地区	5.6	0.0	5.6	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
比較	全国	4.3	5.4	3.6	9.3	0.1	6.4	0.9	1.3	0.4	5.3	4.9	2.0
	沖縄県	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0

問6-2 あなたはこの1年間に主に誰と一緒に運動やスポーツをしましたか。主なものを2つまで選んでください。

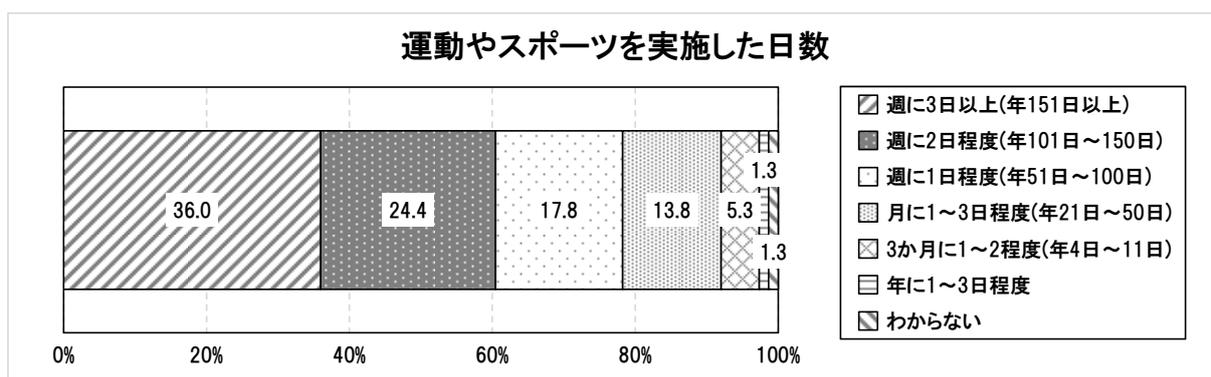
- 主に一緒に運動やスポーツを行った人について聞いたところ、「自分一人で」と答えた人の割合が58.5%と最も高く、「平成24年度沖縄県調査」(53.1%)と比較すると、「自分一人で」と答えた人の割合は、本市の方がおよそ5ポイント高い。
- 性別でみると、男性では「自分一人で」、「友人と」が、女性では「家族と」が、異性に比べ割合が高い。
- 年齢別でみると、20歳代では「友人と」、30歳代では「家族と」と答えた人の割合が、他の年齢に比べると割合が高くなっている。また、70歳代以上では「自分が住んでいる町内会の人と」、「サークルやクラブの人と」が他の年齢層に比べると割合が高い。
- 地域別でみると、平良地区及び上野地区は「自分一人で」、城辺地区は「家族と」、伊良部地区は「友人と」が他の地区と比較すると割合が高い。



		自分一人で	家族と	友人と	職場の人や学校の仲間と	自分が住んでいる町内会の人と	サークルやクラブの人と	その他
全体		58.5	18.3	38.8	13.4	9.4	19.6	2.2
性別	男性	59.8	14.5	47.9	13.7	11.1	16.2	1.7
	女性	56.9	22.5	29.4	11.8	7.8	22.5	2.9
年齢	20歳代	47.8	17.4	65.2	34.8	0.0	13.0	0.0
	30歳代	63.2	26.3	34.2	23.7	7.9	7.9	0.0
	40歳代	64.1	15.4	35.9	15.4	2.6	25.6	2.6
	50歳代	60.9	19.6	21.7	8.7	6.5	21.7	6.5
	60歳代	58.8	15.7	45.1	3.9	17.6	21.6	0.0
	70歳代	44.0	16.0	44.0	0.0	20.0	28.0	4.0
	比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	53.1	30.2	37.0	13.5	7.7	18.4	2.3
地区	平良地区	63.6	17.8	39.3	15.9	5.6	18.7	3.7
	城辺地区	39.1	34.8	26.1	8.7	21.7	17.4	0.0
	下地地区	58.8	11.8	44.1	5.9	11.8	23.5	2.9
	上野地区	62.5	17.5	35.0	17.5	7.5	17.5	0.0
	伊良部地区	47.1	11.8	52.9	5.9	17.6	29.4	0.0

問6-3 この1年間で30分以上運動した日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。

- この1年間に運動やスポーツを行ったと答えた人を対象に、この1年間で30分以上運動をした日数について聞いたところ、週に1日以上継続的に運動やスポーツを行っている人の割合は、78.2% (36.0%+24.4%+17.8%) となっている。
- 性別で見ると、週に1日以上継続的に運動やスポーツを行っている人の割合は女性の方が若干高くなっている。
- 年齢別で見ると、60歳代以上では週に3日以上と答えた人の割合は多く、年齢が高くなるとともにスポーツや運動した日数が増える傾向がある。

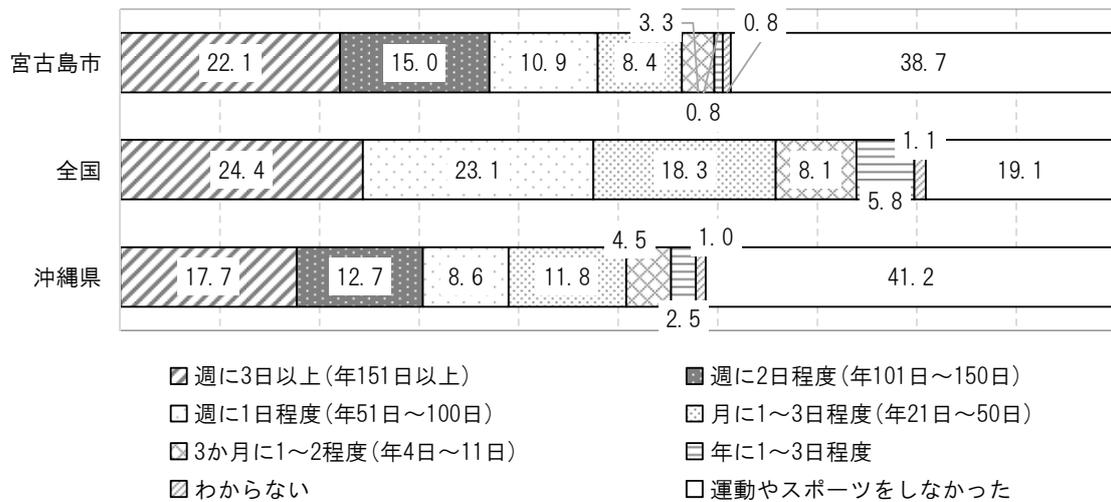


		週に3日以上(年151日以上)	週に2日程度(年101日~150日)	週に1日程度(年51日~100日)	月に1~3日程度(年21日~50日)	3か月に1~2程度(年4日~11日)	年に1~3日程度	わからない
全体		21.3	14.5	10.5	8.2	3.2	0.8	0.8
性別	男性	35.3	24.4	16.8	15.1	6.7	1.7	0.0
	女性	35.6	24.8	18.8	12.9	4.0	1.0	3.0
年齢	20歳代	34.8	26.1	21.7	13.0	4.3	0.0	0.0
	30歳代	18.4	28.9	23.7	15.8	5.3	2.6	5.3
	40歳代	20.5	25.6	15.4	17.9	17.9	2.6	0.0
	50歳代	36.2	23.4	23.4	10.6	2.1	2.1	2.1
	60歳代	46.0	28.0	12.0	12.0	2.0	0.0	0.0
	70歳代	61.5	11.5	11.5	15.4	0.0	0.0	0.0
地区	平良地区	43.4	17.9	17.0	14.2	4.7	0.9	1.9
	城辺地区	26.1	30.4	21.7	8.7	8.7	4.3	0.0
	下地地区	29.4	26.5	20.6	20.6	2.9	0.0	0.0
	上野地区	19.5	39.0	19.5	9.8	9.8	0.0	2.4
	伊良部地区	50.0	16.7	11.1	16.7	0.0	5.6	0.0
比較	全国	30.1	0.0	28.6	22.6	10.0	7.2	1.4
	沖縄県	17.7	12.7	8.6	11.8	4.5	2.5	1.0

(参考) 問6-3 運動をしなかったと回答した人を含めた、運動をした日数。

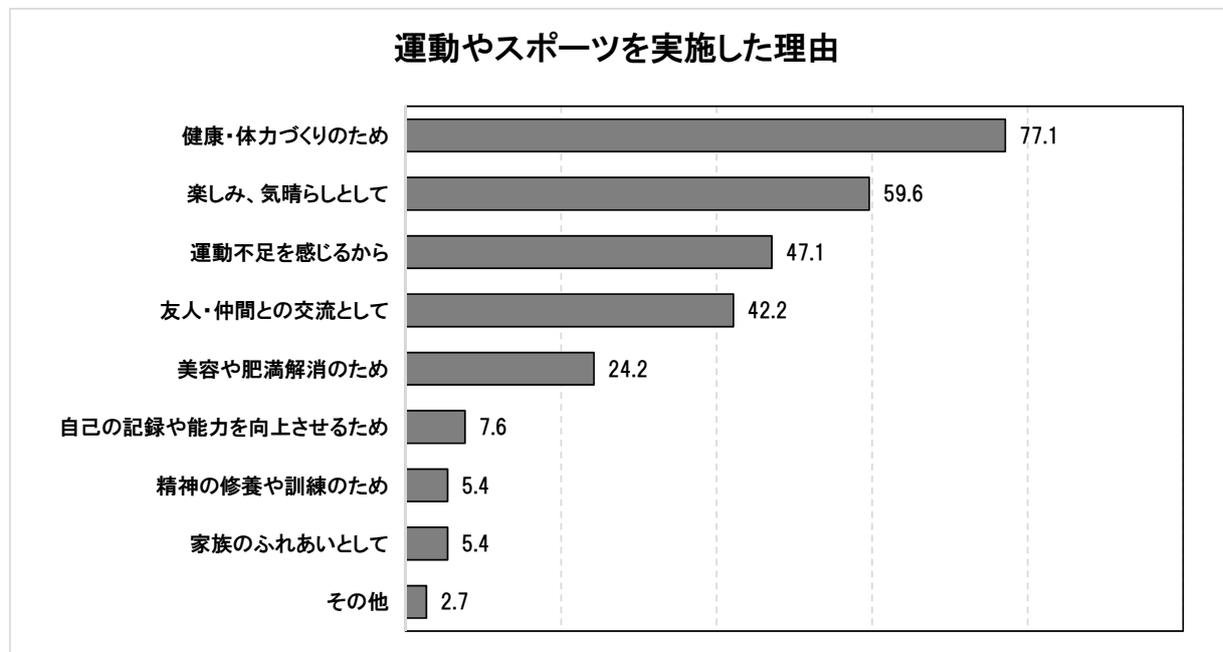
- 運動をしなかったと回答した人も含めた場合、この1年間で30分以上運動をした日数について聞いたところ、週に1日以上継続的に運動やスポーツを行っている人の割合は、48.0% (21.1%+15.0%+10.5%) となり、「平成25年度文部科学省調査」の結果(47.5%)や「平成24年度沖縄県調査」の結果(39.0%)と比較すると、週に1日以上継続的に運動やスポーツを行っている人の割合は、全国平均と同等程度となっている。

運動やスポーツを実施した日数（運動をしなかった人も含む）



問6-4 あなたが運動やスポーツをしたのはどのような理由からですか。主なものを3つまで選んでください。

- この1年間に運動やスポーツを行ったと答えた人にその理由を聞いたところ、「健康・体力づくりのため」と答えた人の割合が77.1%と最も高く、以下「楽しみ、気晴らしとして」(59.6%)、「運動不足を感じるから」(47.1%)、「友人・仲間との交流として」(42.2%)の順となっている。
- 性別で見ると、男性では「友人・仲間との交流として」が、女性では「美容や肥満解消のため」と答えた人の割合が、異性に比べ高くなっている。
- 年齢別で見ると、20歳代では「楽しみ、気晴らしとして」と「自己の記録や能力を向上させるため」、70歳代以上は「友人・仲間との交流として」と答えた人の割合が他の年代と比較して高くなっている。
- 地域別にみると、城辺地区は「運動不足を感じるから」と「美容や肥満解消のため」、と答えた人の割合がそれぞれ他の地域に比べ高くなっている。

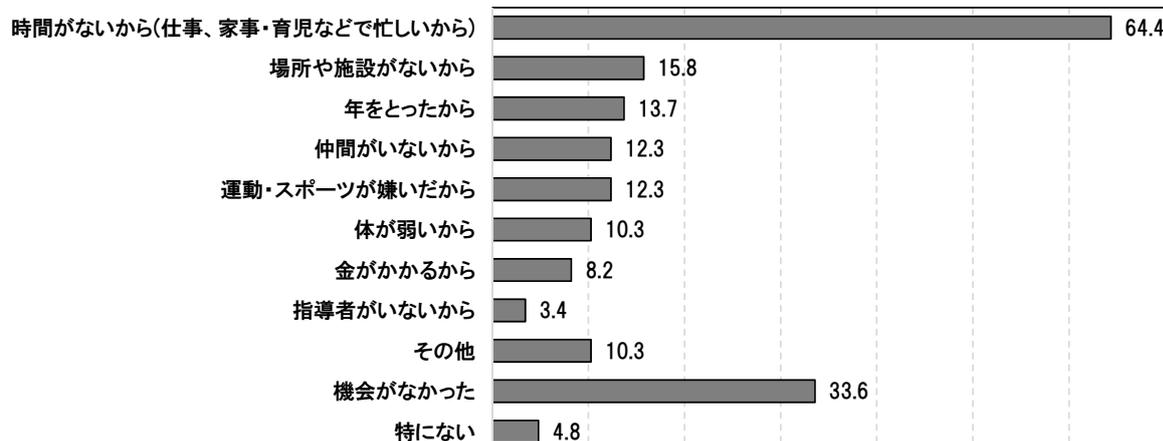


	健康・体力づくりのため	楽しみ、気晴らしとして	運動不足を感じるから	友人・仲間との交流として	美容や肥満解消のため	自己の記録や能力を向上させるため	精神の修養や訓練のため	家族のふれあいとして	その他	わからない	
全体	77.1	59.6	47.1	42.2	24.2	7.6	5.4	5.4	2.7	0.4	
性別	男性	79.5	60.7	43.6	48.7	11.1	12.0	8.5	5.1	3.4	0.0
	女性	73.3	57.4	51.5	35.6	39.6	3.0	2.0	5.9	2.0	1.0
年齢	20歳代	52.2	78.3	43.5	47.8	17.4	26.1	13.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	76.3	55.3	47.4	39.5	28.9	7.9	2.6	13.2	5.3	0.0
	40歳代	81.6	57.9	39.5	39.5	28.9	7.9	10.5	5.3	0.0	2.6
	50歳代	78.3	60.9	54.3	32.6	26.1	4.3	2.2	6.5	2.2	0.0
	60歳代	86.0	54.0	48.0	42.0	28.0	6.0	2.0	4.0	2.0	0.0
	70歳代	73.1	57.7	42.3	65.4	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0
地区	平良地区	81.3	61.7	45.8	42.1	22.4	6.5	6.5	3.7	2.8	0.9
	城辺地区	81.8	50.0	72.7	31.8	36.4	4.5	9.1	4.5	0.0	0.0
	下地地区	75.8	60.6	30.3	51.5	24.2	12.1	0.0	9.1	9.1	0.0
	上野地区	70.7	56.1	53.7	34.1	26.8	7.3	4.9	7.3	0.0	0.0
	伊良部地区	64.7	64.7	41.2	58.8	17.6	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0
比較	全国	56.4	49.0	43.8	32.3	14.9	4.4	4.6	15.0	1.5	1.2
	沖縄県	68.6	54.1	45.0	37.4	25.6	7.4	4.8	12.3	2.6	0.0

問6-5 この1年間に、運動やスポーツをしなかったのはどのような理由からですか。主なものを3つまで選んでください。

- この1年間に運動やスポーツをしなかった、わからないと答えた人にその理由を聞いたところ、「時間がないから」と答えた人の割合が64.4%と最も高く、以下「機会がなかったから」(33.6%)、「場所や施設がないから」(15.8%) の順となっている。
- 性別にみると、男性は「年をとったから」、女性は「運動・スポーツは嫌いだから」と答えた人の割合が、それぞれ異性に比べ高くなっている。
- 年齢別にみると、30歳代は「運動・スポーツは嫌いだから」、40歳代は「時間がないから」、30歳代から60歳代では「機会がなかったから」、70歳代以上では「場所や施設がないから」、「年をとったから」と答えた人の割合が、それぞれ他年代に比べ高くなっている。
- 地域別にみると、下地地区と伊良部地区は「場所や施設がないから」、「機会がないため」と答えた人の割合が他地域に比べ高くなっている。

運動やスポーツを実施しなかった理由

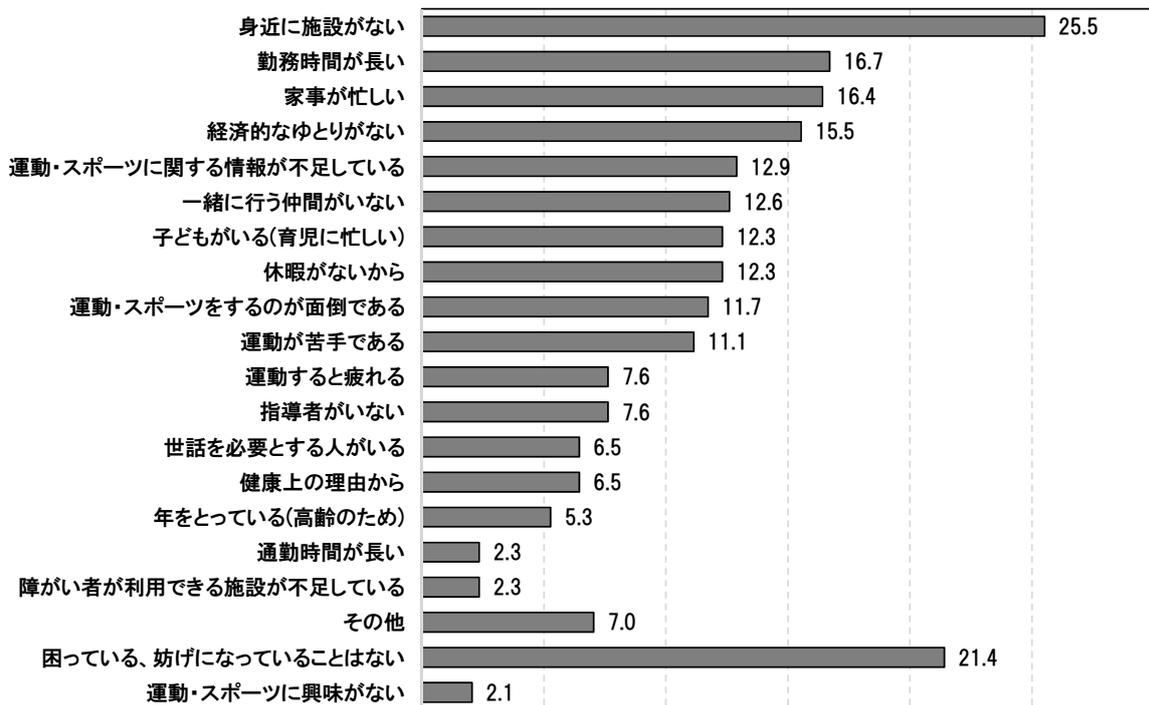


	時間がないから(仕事、家事・育児などで忙しいから)	場所や施設がないから	年をとったから	仲間がないから	運動・スポーツが嫌いだから	体が弱いから	金がかかるから	指導者がいないから	その他	機会がなかった	特にない
全体	64.4	15.8	13.7	12.3	12.3	10.3	8.2	3.4	10.3	33.6	4.8
性別											
男性	58.9	16.1	17.9	12.5	7.1	7.1	10.7	1.8	8.9	39.3	7.1
女性	69.8	16.3	10.5	12.8	15.1	11.6	7.0	4.7	11.6	30.2	2.3
年齢											
20歳代	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	50.0	0.0
30歳代	69.2	19.2	3.8	7.7	19.2	3.8	11.5	3.8	7.7	38.5	3.8
40歳代	81.3	9.4	9.4	9.4	12.5	9.4	6.3	0.0	6.3	40.6	0.0
50歳代	71.1	18.4	5.3	18.4	13.2	2.6	7.9	2.6	10.5	31.6	7.9
60歳代	66.7	11.1	18.5	11.1	7.4	11.1	7.4	3.7	14.8	33.3	7.4
70歳代	7.1	35.7	64.3	21.4	7.1	28.6	0.0	7.1	7.1	14.3	7.1
地区											
平良地区	37.4	7.5	7.5	6.5	9.3	5.6	4.7	2.8	6.5	16.8	0.9
城辺地区	22.7	9.1	0.0	9.1	9.1	4.5	4.5	0.0	4.5	22.7	9.1
下地地区	60.6	18.2	21.2	9.1	9.1	6.1	6.1	3.0	6.1	36.4	6.1
上野地区	39.0	7.3	7.3	9.8	2.4	2.4	4.9	2.4	2.4	14.6	2.4
伊良部地区	70.6	23.5	11.8	11.8	11.8	17.6	11.8	0.0	17.6	47.1	5.9
比較											
全国	50.7	3.3	20.4	6.1	13.5	15.2	6.9	1.1	5.5	3.0	8.5
沖縄県	65.2	16.9	14.8	18.3	13.5	9.8	16.7	3.7	13.5	41.7	0.0

問7 あなたが運動やスポーツを実施する際に、困っていることや妨げになっていること、あるいは実施できない理由を教えてください。あてはまる内容をすべて選んでください。

- 運動やスポーツが実施できない理由について聞いたところ、「身近に施設がない」が25.5%と最も高く、以下「困っている、妨げになっていることはない」(21.4%)、「勤務時間が長い」(16.7%)、の順となっており、「平成24年度沖縄県調査」の結果と比較すると、本市の方が「身近に施設がない」では約7ポイント、「困っている、妨げになっていることはない」では約8ポイント高くなっている。
- 性別で見ると、男性では「困っている、妨げになっていることはない」、「休暇がない」、女性では「身近に施設がない」、「家事が忙しい」、という理由に挙げる人の割合が高くなっている。
- 年齢別で見ると、20歳代は「休暇がない」、30歳代と40歳代は「子どもがいる」、「家事が忙しい」、60歳代では「世話を必要とする人がいる」、70歳代以上では「年をとっている(高齢のため)」と答えた人の割合が、それぞれ他年代に比べ高くなっている。
- 圏域別にみると、伊良部地区で「身近に施設がない」と答えた人の割合が他地域に比べ高くなっている。

運動やスポーツを実施しなかった理由



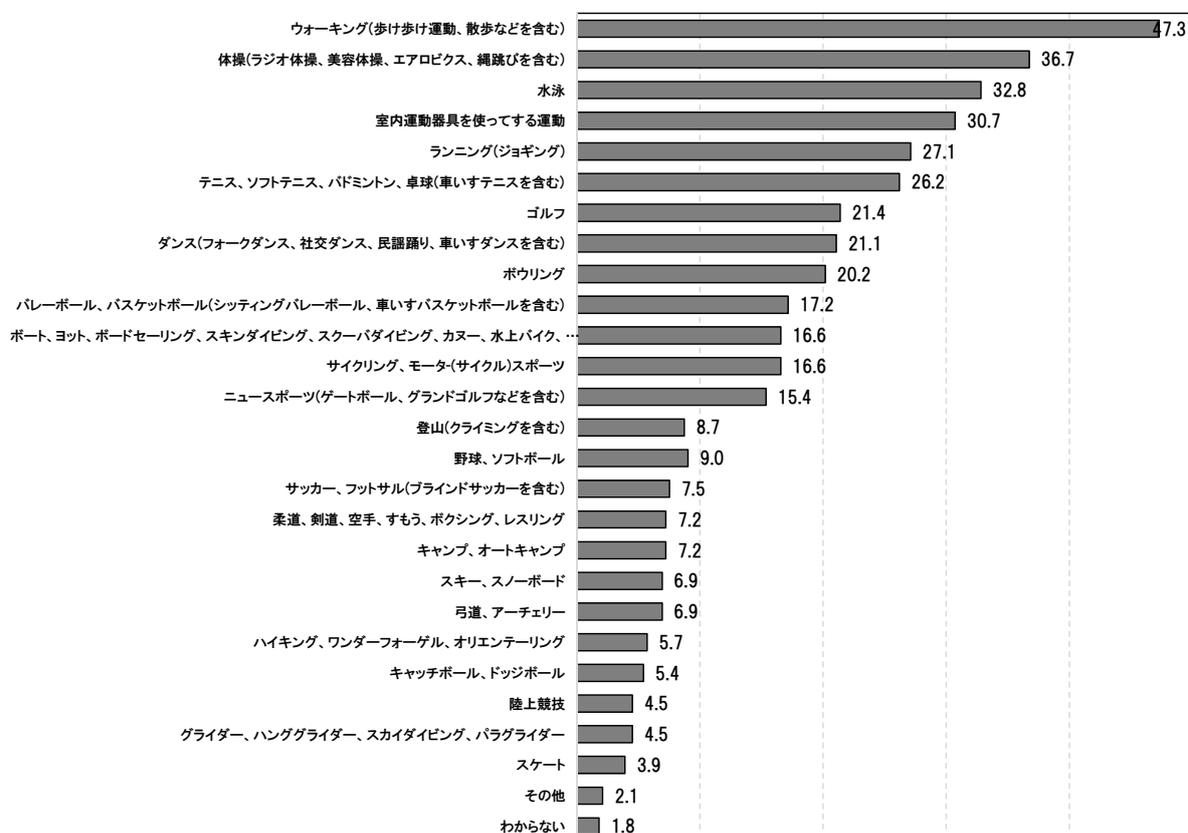
		身近に施設がない	勤務時間が長い	家事が忙しい	経済的なゆとりがない	運動・スポーツに関する情報が不足している	一緒に行う仲間がない	子どもがいる(育児に忙しい)	休暇がないから	運動・スポーツをするのが面倒である	運動が苦手である
全体		25.5	16.7	16.4	15.5	12.9	12.6	12.3	12.3	11.7	11.1
性別	男性	20.6	14.8	9.0	12.3	11.0	10.3	9.7	13.5	9.7	5.8
	女性	29.5	19.3	23.3	19.3	15.3	15.3	15.3	11.4	13.1	15.9
年齢	20歳代	25.0	14.3	7.1	14.3	10.7	14.3	7.1	21.4	17.9	17.9
	30歳代	25.4	22.2	30.2	22.2	14.3	19.0	38.1	11.1	15.9	9.5
	40歳代	26.9	26.9	23.9	20.9	4.5	13.4	22.4	11.9	13.4	13.4
	50歳代	23.8	13.8	10.0	16.3	16.3	15.0	1.3	13.8	8.8	11.3
	60歳代	29.9	14.9	13.4	9.0	17.9	7.5	0.0	14.9	10.4	9.0
	70歳代	20.0	0.0	3.3	3.3	13.3	3.3	0.0	0.0	6.7	6.7
地区	平良地区	25.2	14.8	20.0	17.4	12.3	12.9	13.5	10.3	11.6	11.6
	城辺地区	25.0	6.3	15.6	18.8	3.1	15.6	6.3	18.8	6.3	21.9
	下地地区	22.4	19.0	12.1	13.8	19.0	10.3	15.5	13.8	13.8	3.4
	上野地区	18.2	23.6	10.9	9.1	9.1	16.4	12.7	12.7	16.4	10.9
	伊良部地区	45.7	22.9	17.1	17.1	22.9	8.6	8.6	14.3	8.6	11.4
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	18.8	20.6	19.9	19.9	10.3	15.7	17.0	15.0	13.7	14.2

		運動すると疲れる	指導者がいない	世話を必要とする人がいる	健康上の理由から	年をとっている(高齢のため)	通勤時間が長い	障がい者が利用できる施設が不足している	その他	困っている、妨げになっていない	運動・スポーツに興味がない
全体		7.6	7.6	6.5	6.5	5.3	2.3	2.3	7.0	21.4	2.1
性別	男性	5.2	6.5	1.3	4.5	5.2	1.3	2.6	6.5	29.7	1.3
	女性	10.2	9.1	10.8	8.0	5.7	2.8	1.7	7.4	14.2	2.8
年齢	20歳代	10.7	10.7	3.6	7.1	0.0	0.0	0.0	3.6	25.0	0.0
	30歳代	6.3	4.8	4.8	3.2	0.0	3.2	0.0	1.6	12.7	3.2
	40歳代	10.4	10.4	4.5	4.5	0.0	3.0	1.5	13.4	10.4	1.5
	50歳代	6.3	8.8	7.5	8.8	1.3	5.0	2.5	7.5	21.3	1.3
	60歳代	7.5	7.5	10.4	6.0	9.0	0.0	6.0	7.5	31.3	1.5
	70歳代	6.7	3.3	3.3	10.0	36.7	0.0	0.0	0.0	40.0	6.7
地区	平良地区	8.4	7.1	6.5	7.7	3.2	1.3	1.9	6.5	18.7	2.6
	城辺地区	15.6	12.5	9.4	12.5	9.4	6.3	3.1	12.5	18.8	3.1
	下地地区	5.2	12.1	3.4	3.4	6.9	1.7	1.7	3.4	25.9	3.4
	上野地区	5.5	1.8	5.5	3.6	5.5	0.0	1.8	9.1	23.6	0.0
	伊良部地区	5.7	8.6	8.6	2.9	8.6	8.6	2.9	2.9	25.7	0.0
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	12.7	6.4	6.7	7.4	5.3	4.4	2.1	6.0	13.3	4.7

問8 現在行っているものを含めて、今後行ってみたいと思う運動やスポーツは何かありますか。別紙の「運動・スポーツの種目リスト」から特に行いたいものを5つまで、該当する番号を下記に記入してください。

- 今後行いたい運動やスポーツの種目について聞いたところ、「ウォーキング」(47.3%)、次いで「体操」(36.7%)、「水泳」(32.8%)などが上位に挙がっている。
- 性別で見ると、今後行いたい運動スポーツでは、男女とも「散歩・ウォーキング」が最も高いが、男性では「ゴルフ」が、女性では「ダンス」などが異性と比較すると高い割合となっている。
- 年齢別で見ると、20歳代では「テニス」が、30歳代では「ランニング」が、40歳代では「水泳」が、50歳代以上では「ウォーキング」が最も高い。
-

現在行っている、今後行っていきたい運動・スポーツ



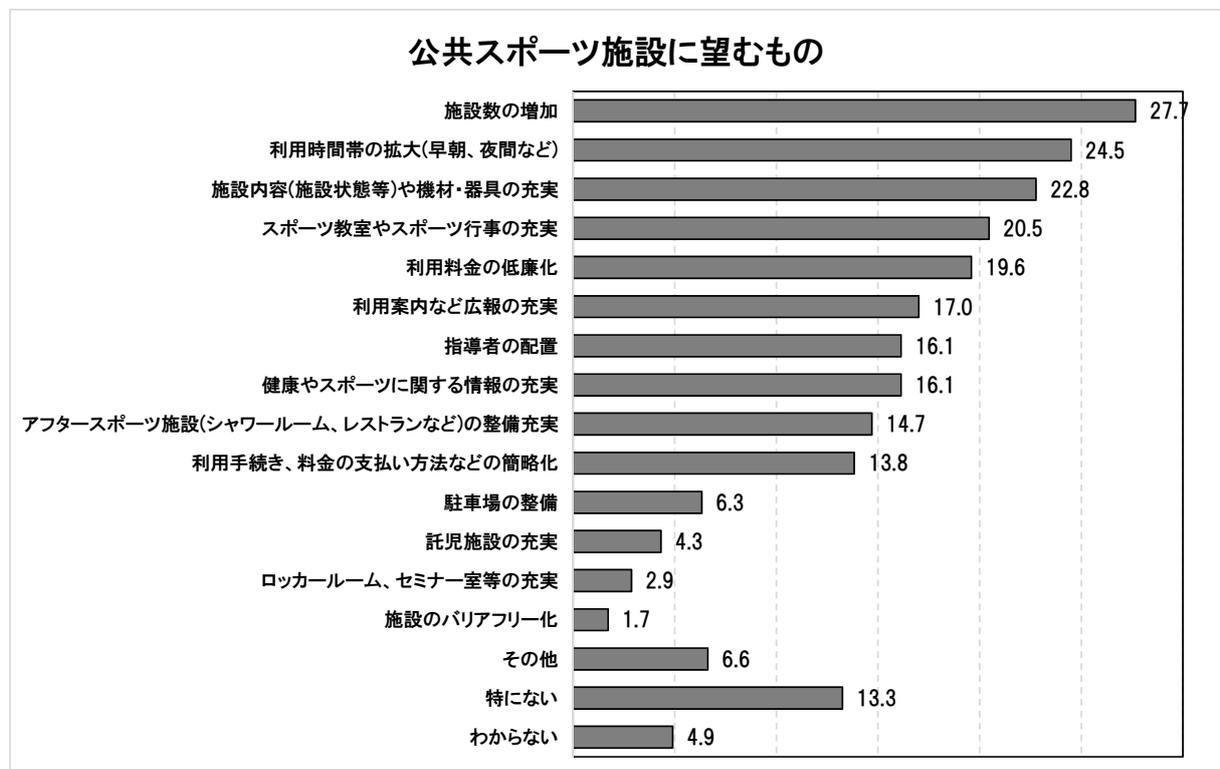
	ウォーキング(歩け歩け運動、散歩などを含む)	体操(ラジオ体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む)	水泳	室内運動器具を用いる運動	ランニング(ジョギング)	テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(車いすテニスを含む)	ゴルフ	ダンス(フォークダンス、社交ダンス、民謡踊り、車いすダンスを含む)	ボウリング	バレーボール、バスケットボール(シッティングバレーボール、車いすバスケットボールを含む)	ボート、ヨット、ボードセーリング、スキューバダイビング、スクーパーダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、釣り	サイクリング、モーター(サイクル)スポーツ	ニュースポーツ(ゲートボール、グラウンドゴルフなどを含む)	
全体	47.3	36.7	32.8	30.7	27.1	26.2	21.4	21.1	20.2	17.2	16.6	16.6	15.4	
性別	男性	40.6	22.6	32.3	29.0	31.6	19.4	31.6	6.5	21.3	19.4	0.0	24.5	14.8
	女性	52.4	50.0	32.1	32.1	24.4	31.0	12.5	34.5	19.6	13.7	0.0	9.5	16.1
年齢	20歳代	14.3	25.0	25.0	14.3	25.0	39.3	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	25.0	0.0
	30歳代	31.1	27.9	39.3	29.5	41.0	29.5	14.8	18.0	18.0	26.2	0.0	19.7	1.6
	40歳代	39.7	36.8	42.6	29.4	32.4	25.0	19.1	17.6	13.2	10.3	0.0	11.8	5.9
	50歳代	57.1	35.1	28.6	31.2	24.7	24.7	26.0	23.4	26.0	19.5	0.0	23.4	13.0
	60歳代	68.1	47.8	23.2	36.2	18.8	27.5	29.0	30.4	27.5	10.1	0.0	14.5	33.3
	70歳代	56.0	48.0	32.0	36.0	16.0	8.0	16.0	16.0	24.0	8.0	0.0	0.0	48.0
地区	平良地区	49.0	35.9	34.0	29.4	32.0	26.1	17.0	19.6	17.6	15.7	0.0	15.0	12.4
	城辺地区	53.3	43.3	33.3	36.7	20.0	33.3	13.3	26.7	20.0	20.0	0.0	10.0	23.3
	下地地区	47.3	45.5	32.7	34.5	27.3	27.3	27.3	18.2	29.1	18.2	0.0	16.4	20.0
	上野地区	40.4	31.6	33.3	22.8	22.8	19.3	28.1	24.6	15.8	15.8	0.0	22.8	12.3
	伊良部地区	43.8	31.3	25.0	37.5	18.8	25.0	31.3	21.9	25.0	18.8	0.0	18.8	15.6
比較	全国	53.9	30.4	20.6	11.4	15.0	14.3	12.3	7.2	10.2	6.5	5.5	7.5	4.1
	沖縄県	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	登山(クライミングを含む)	野球、ソフトボール	サッカー、フットサル(フラインドサッカーを含む)	柔道、剣道、空手、すもろ、ボクシング、レスリング	キャンプ、オートキャンプ	スキー、スノーボード	弓道、アーチェリー	ハイキング、ワンダーフォーゲル、オリエンテーリング	キャッチボール、ドッジボール	陸上競技	グライダー、ハンングライダー、スカイダイビング、パラグライダー	スケート	その他	わからない
全体	8.7	9.0	7.5	7.2	7.2	6.9	6.9	5.7	5.4	4.5	4.5	3.9	2.1	1.8
性別	男性	9.7	17.4	12.9	9.0	8.4	8.4	6.5	4.5	7.7	5.8	2.6	1.3	1.3
	女性	8.3	1.8	3.0	6.0	6.0	6.0	7.1	7.1	3.6	3.0	5.4	3.0	2.4
年齢	20歳代	10.7	10.7	25.0	17.9	10.7	25.0	7.1	0.0	14.3	3.6	7.1	10.7	0.0
	30歳代	11.5	14.8	21.3	9.8	6.6	9.8	9.8	4.9	8.2	8.2	6.6	6.6	3.3
	40歳代	19.1	8.8	4.4	8.8	11.8	10.3	7.4	7.4	8.8	1.5	7.4	5.9	2.9
	50歳代	5.2	11.7	2.6	7.8	6.5	2.6	7.8	11.7	1.3	2.6	3.9	2.6	1.3
	60歳代	2.9	0.0	0.0	1.4	4.3	0.0	4.3	2.9	2.9	7.2	0.0	0.0	1.4
	70歳代	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	4.0
地区	平良地区	7.8	7.2	9.2	9.2	8.5	5.9	9.2	5.9	6.5	3.9	2.0	4.6	3.3
	城辺地区	0.0	10.0	6.7	6.7	3.3	3.3	0.0	10.0	16.7	6.7	0.0	6.7	0.0
	下地地区	9.1	5.5	5.5	3.6	3.6	7.3	7.3	1.8	0.0	5.5	7.3	0.0	1.8
	上野地区	14.0	12.3	5.3	3.5	8.8	10.5	5.3	5.3	5.3	5.3	7.0	5.3	1.8
	伊良部地区	12.5	18.8	6.3	12.5	6.3	9.4	3.1	9.4	0.0	3.1	9.4	3.1	0.0
比較	全国	10.9	6.3	4.9	2.9	6.6	10.3	1.8	8.5	5.9	1.2	1.9	1.7	2.2
	沖縄県	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

スポーツ・体育施設について

問9 市営体育館、テニスコートなどの市内の公共スポーツ施設について、何か望むことがありますか。主なものを3つまで選んでください。

- 公共スポーツ施設について望むことについて聞いたところ、「施設数の増加」が 27.7%と最も高く、以下「利用時間帯の拡大（早朝、夜間など）」（24.5%）、「施設内容や機材・器具の充実」（22.8%）の順となっている。
- 性別でみると、男性では「施設内容（施設状態等）や機材・器具の充実」が、女性では「利用案内など広報の充実」が、異性に比べて高くなっている。
- 年齢別でみると、20歳代と50歳代では「利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化」と答えた人の割合がそれぞれ高くなっており、年齢層により要望が異なっている。
- 地域別でみると、伊良部地区では「施設数の増加」、上野地区は「利用時間帯の拡大（早朝、夜間など）」、下地地区は「アフタースポーツ施設（シャワールーム、レストランなど）の整備充実」と回答した割合が他地域と比較すると高くなっている。

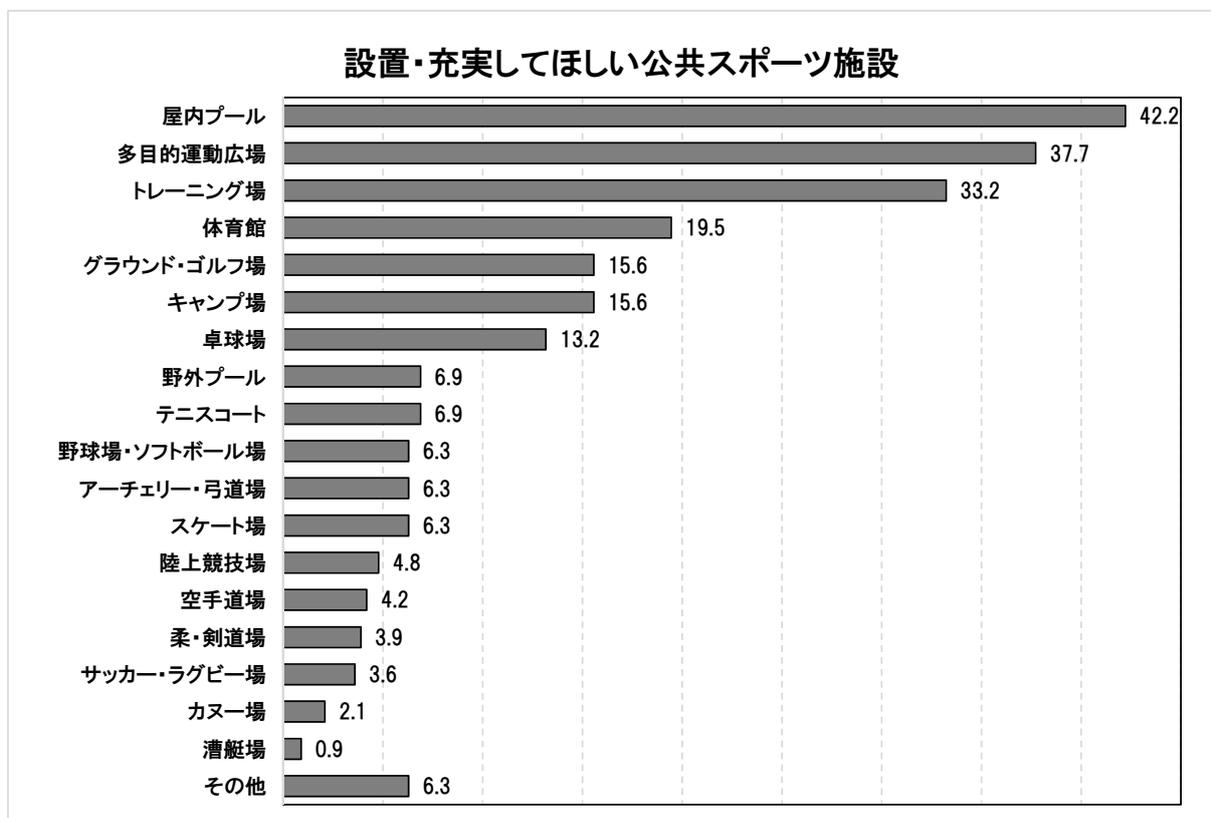


		施設数の増加	利用時間帯の拡大(早朝、夜間など)	施設内容(施設状態等)や機材・器具の充実	スポーツ教室やスポーツ行事の充実	利用料金の低廉化	利用案内などの広報の充実	指導者の配置	健康やスポーツに関する情報の充実	アフタースポーツ施設(シャワールーム、レストランなどの整備充実)
全体		27.7	24.5	22.8	20.5	19.6	17.0	16.1	16.1	14.7
性別	男性	28.0	22.0	26.8	18.3	20.1	11.6	13.4	11.6	16.5
	女性	28.2	25.3	17.8	21.8	19.0	21.8	19.0	20.7	12.6
年齢	20歳代	37.9	31.0	27.6	27.6	27.6	20.7	3.4	6.9	20.7
	30歳代	34.9	11.1	28.6	27.0	20.6	15.9	11.1	12.7	19.0
	40歳代	30.9	38.2	29.4	25.0	19.1	20.6	22.1	19.1	14.7
	50歳代	26.0	36.4	22.1	14.3	27.3	15.6	20.8	15.6	13.0
	60歳代	18.9	12.2	17.6	18.9	13.5	23.0	18.9	25.7	10.8
	70歳代	20.0	10.0	3.3	6.7	6.7	0.0	3.3	6.7	13.3
地区	平良地区	26.2	26.8	24.4	15.9	21.3	16.5	12.8	14.6	15.9
	城辺地区	30.0	13.3	10.0	30.0	23.3	20.0	10.0	13.3	3.3
	下地地区	21.4	19.6	25.0	25.0	8.9	17.9	14.3	21.4	21.4
	上野地区	29.3	29.3	22.4	20.7	22.4	13.8	22.4	15.5	15.5
	伊良部地区	39.4	21.2	18.2	24.2	21.2	24.2	30.3	21.2	6.1
比較	全国	34.2	22.9	-	21.6	-	14.2	9.1	10.4	8.8
	沖縄県	30.8	27.8	-	20.1	-	22.9	12.7	15.0	18.1

		利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化	駐車場の整備	託児施設の充実	ロッカールーム、セミナー室等の充実	施設のバリアフリー化	その他	特にない	わからない
全体		13.8	6.3	4.3	2.9	1.7	6.6	13.3	4.9
性別	男性	13.4	9.1	2.4	1.2	1.2	7.9	18.9	1.8
	女性	14.9	2.9	5.2	4.0	2.3	5.7	8.6	8.0
年齢	20歳代	20.7	6.9	6.9	3.4	0.0	3.4	10.3	0.0
	30歳代	11.1	9.5	11.1	4.8	1.6	9.5	9.5	6.3
	40歳代	10.3	1.5	7.4	4.4	1.5	7.4	5.9	1.5
	50歳代	20.8	6.5	0.0	2.6	1.3	9.1	5.2	6.5
	60歳代	13.5	5.4	0.0	0.0	4.1	2.7	23.0	5.4
	70歳代	6.7	10.0	0.0	0.0	0.0	6.7	40.0	10.0
地区	平良地区	14.0	6.1	4.3	1.2	1.8	7.9	12.8	4.9
	城辺地区	20.0	6.7	6.7	6.7	3.3	3.3	6.7	13.3
	下地地区	5.4	1.8	3.6	1.8	3.6	3.6	19.6	7.1
	上野地区	15.5	5.2	3.4	5.2	0.0	12.1	15.5	0.0
	伊良部地区	21.2	12.1	3.0	3.0	0.0	0.0	9.1	3.0
比較	全国	22.0	-	9.4	0.0	16.1	1.9	29.4	1.4
	沖縄県	21.9	14.8	6.0	3.2	2.4	3.9	13.7	9.7

問 10 今後、どのような公共スポーツ施設を設置・充実してほしいと思いますか。主なものを3つまで選んでください。

- 今後、整備してほしい公共のスポーツ施設について聞いたところ、「屋内プール」が42.2%と最も高く、以下「多目的運動広場」(37.7%)、「トレーニング場」(33.2%)の順となっている。
- 性別でみると、男性では「野外プール」と「キャンプ場」、女性では「屋内プール」と「体育館」と答えた人の割合が、異性に比べて高くなっている。
- 年齢別でみると、20歳代は「陸上競技場」と「サッカー・ラグビー場」、60歳代以上は「グラウンド・ゴルフ場」と答えた人の割合は他年代と比較して高くなっている。
- 地域別でみると、城辺地区では「陸上競技場」と「空手道場」、上野地区では「屋内プール」、伊良部地区では「体育館」、「野球場」と答えた人の割合が、他の地域に比べると高くなっている。

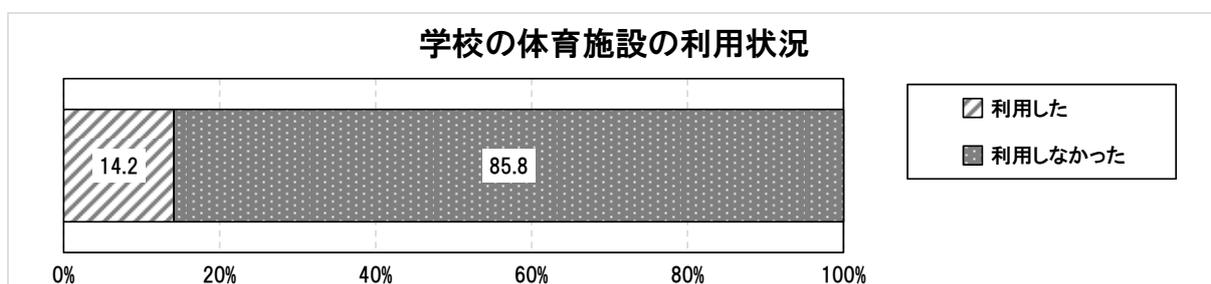


		屋内 プール	多目的 運動広 場	トレーニ ング場	体育館	グラウン ド・ゴル フ場	キャンプ 場	卓球場	野外 プール	テニス コート	野球場・ ソフト ボール 場
全体		42.2	37.7	33.2	19.5	15.6	15.6	13.2	6.9	6.9	6.3
性別	男性	38.5	34.0	35.9	13.5	16.7	19.9	9.6	11.5	3.2	9.0
	女性	46.2	40.8	30.2	23.1	15.4	11.2	16.6	3.0	10.1	3.6
年齢	20歳代	42.9	42.9	39.3	21.4	7.1	17.9	3.6	3.6	7.1	3.6
	30歳代	54.1	39.3	41.0	19.7	4.9	14.8	8.2	6.6	9.8	8.2
	40歳代	50.7	23.9	40.8	14.1	5.6	22.5	12.7	9.9	5.6	5.6
	50歳代	35.9	35.9	34.6	25.6	7.7	19.2	15.4	3.8	10.3	6.4
	60歳代	32.8	50.7	22.4	23.9	34.3	9.0	20.9	9.0	1.5	6.0
	70歳代	34.8	39.1	8.7	0.0	47.8	0.0	13.0	8.7	4.3	8.7
地区	平良地区	42.6	38.1	36.1	21.3	11.6	17.4	14.8	8.4	6.5	5.8
	城辺地区	29.0	38.7	32.3	19.4	9.7	9.7	9.7	3.2	0.0	6.5
	下地地区	41.5	37.7	30.2	17.0	15.1	15.1	7.5	5.7	11.3	5.7
	上野地区	50.9	30.9	27.3	7.3	21.8	14.5	18.2	7.3	9.1	5.5
	伊良部地区	45.5	48.5	36.4	33.3	24.2	15.2	12.1	6.1	3.0	12.1
比較	全国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	沖縄県	37.8	38.6	35.0	17.1	11.6	15.7	9.5	4.4	6.8	5.3

		アーチェ リー・弓 道場	スケート 場	陸上競 技場	空手道 場	柔・剣道 場	サッ カー・ラ グビー 場	カヌー場	漕艇場	その他
全体		6.3	6.3	4.8	4.2	3.9	3.6	2.1	0.9	6.3
性別	男性	7.1	5.1	4.5	4.5	5.1	5.8	3.2	1.3	5.1
	女性	5.9	7.7	4.7	4.1	3.0	1.2	1.2	0.0	7.7
年齢	20歳代	7.1	10.7	14.3	3.6	3.6	14.3	3.6	3.6	10.7
	30歳代	9.8	9.8	1.6	3.3	3.3	4.9	0.0	0.0	8.2
	40歳代	4.2	7.0	1.4	5.6	5.6	7.0	2.8	0.0	5.6
	50歳代	5.1	6.4	9.0	6.4	5.1	0.0	3.8	0.0	6.4
	60歳代	6.0	1.5	4.5	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	3.0
	70歳代	8.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	8.7
地区	平良地区	7.7	4.5	4.5	4.5	5.8	3.2	1.9	1.3	5.2
	城辺地区	0.0	16.1	12.9	19.4	6.5	6.5	0.0	0.0	6.5
	下地地区	9.4	3.8	1.9	0.0	1.9	1.9	5.7	0.0	11.3
	上野地区	3.6	9.1	7.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	7.3
	伊良部地区	3.0	6.1	0.0	3.0	3.0	6.1	3.0	0.0	0.0
比較	全国	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	沖縄県	6.0	8.0	3.0	2.7	1.1	6.1	2.8	0.7	6.7

問 11 この 1 年間に市内の学校の体育施設(運動場、体育館、プールなど)を運動やスポーツの目的のために利用しましたか。ただし、学校主催の運動会への参加は除きます。

- 学校の体育施設（運動場、体育館、プールなど）の利用の有無について聞いたところ、「利用した」と答えた人の割合が 14.2%、「利用しなかった」と答えた人の割合が 85.8%となっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果（14.5%）と比較すると、体育施設を利用した割合は、ほぼ同値となっている。
- 性別で見ると、「利用した」と答えた人の割合を性別にみると、男性の方が女性に比べ約 6 ポイント高くなっている。
- 年齢別にみると、若年齢層になるほど学校体育施設を使用している割合が高くなっている。
- 地域別にみると、城辺地区では「利用した」と答えた人の割合が他の地域と比べ高くなっている。

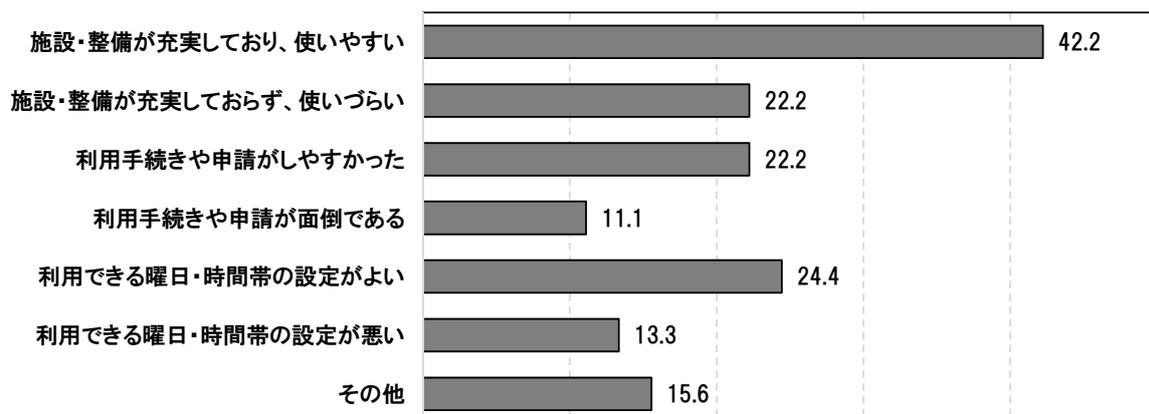


		利用した	利用しなかった
全体		14.2	85.8
性別	男性	17.7	82.3
	女性	11.5	88.5
年齢	20歳代	25.0	75.0
	30歳代	21.9	78.1
	40歳代	13.9	86.1
	50歳代	15.5	84.5
	60歳代	6.5	93.5
	70歳代	8.3	91.7
地区	平良地区	12.6	87.4
	城辺地区	25.0	75.0
	下地地区	14.1	85.9
	上野地区	9.7	90.3
	伊良部地区	19.4	80.6
比較	全国	0.0	0.0
	沖縄県	14.5	85.5

問 11-2 学校施設を利用した際の感想を教えてください。あてはまる内容をすべて選んでください。

- 学校の体育施設を利用していると答えた人に、学校施設を利用した際の感想を聞いたところ、「施設・設備が充実しており、使いやすい」と答えた人の割合が 42.2%と最も高く、以下「利用できる曜日や時間帯の設定がよい」と答えた人の割合が 24.4%となっており、学校施設の利用者は施設に満足している割合が高い。
- 性別でみると、男性が「利用できる曜日・時間帯の設定が悪い」、女性が「利用手続きや申請が面倒である」と答えた割合が他の性別と比べ高くなっている。

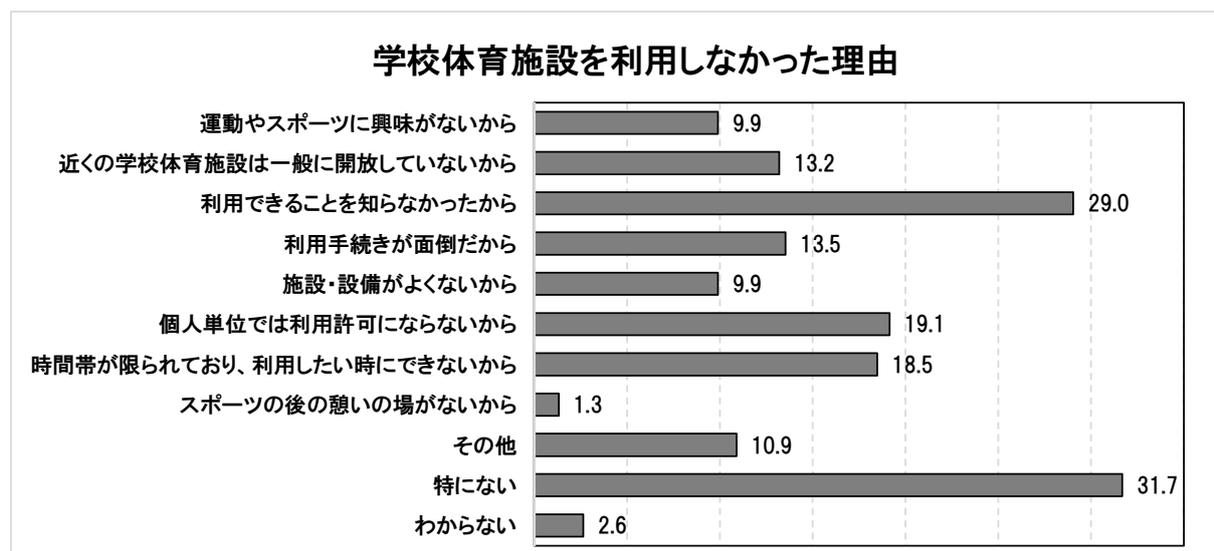
学校体育施設を利用した感想



		施設・設備が充実しており、使いやすい	施設・設備が充実しておらず、使いづらい	利用手続きや申請がしやすかった	利用手続きや申請が面倒である	利用できる曜日・時間帯の設定がよい	利用できる曜日・時間帯の設定が悪い	その他
全体		42.2	22.2	22.2	11.1	24.4	13.3	15.6
性別	男性	38.5	23.1	19.2	7.7	23.1	15.4	15.4
	女性	47.4	21.1	26.3	15.8	26.3	10.5	15.8
年齢	20歳代	42.9	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0
	30歳代	45.5	18.2	0.0	9.1	9.1	9.1	36.4
	40歳代	44.4	22.2	33.3	22.2	22.2	11.1	0.0
	50歳代	27.3	18.2	36.4	9.1	27.3	36.4	9.1
	60歳代	75.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	70歳代	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
地区	平良地区	31.6	21.1	21.1	10.5	21.1	21.1	15.8
	城辺地区	75.0	0.0	37.5	0.0	25.0	0.0	25.0
	下地地区	50.0	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	0.0
	上野地区	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	66.7
	伊良部地区	16.7	66.7	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0
比較	全国	-	-	-	-	-	-	-
	沖縄県	-	-	-	-	-	-	-

問 11-3 市内の学校の体育施設を利用しなかった理由を教えてください。主なものを3つまであげてください。

- この1年間に学校の体育施設を利用しなかった理由を聞いたところ、「利用できることを知らなかったから」が29.0%と最も高く、以下「個人単位では利用許可にならないから」(19.1%)、「時間帯が限られており、利用したいときにできないから」(18.5%)の順となっている。
- 性別でみると、男性では「スポーツ後の憩いの場がないから」と答えた人の割合が、女性では「利用できることを知らなかったから」と答えた人の割合が、それぞれ異性に比べ高くなっている。
- 年齢別でみると、20歳代と30歳代では「利用できることを知らなかったから」、50歳代は「時間帯が限られており、利用したいときにできないから」と答えた人の割合が他の年齢層に比べ高くなっている。
- 地域別にみると、平良地区では「利用手続きが面倒だから」、伊良部地区では「施設・設備がよくないから」と答えた人の割合が他の地域に比べて高くなっている。

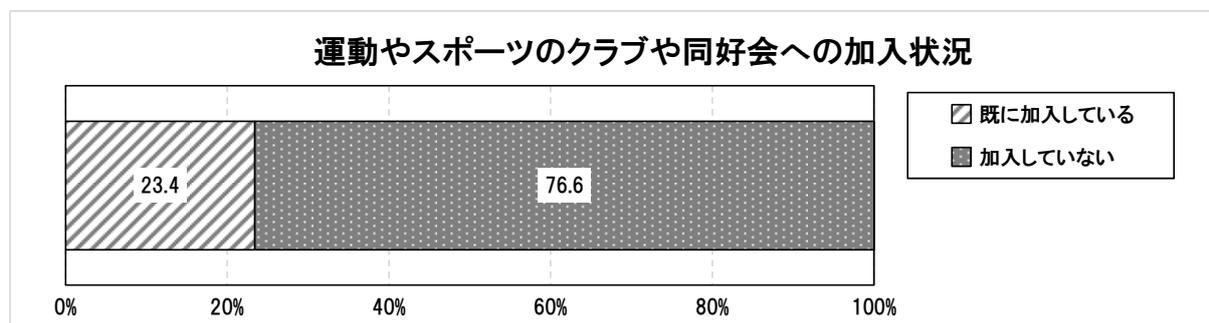


	運動やスポーツに興味がないから	近くの学校体育施設は一般に開放していないから	利用できることを知らなかったから	利用手続きが面倒だから	施設・設備がよくないから	個人単位では利用許可にならないから	時間帯が限られており、利用したいときにできないから	スポーツの後の憩いの場がないから	その他	特にない	わからない
全体	8.1	10.8	23.7	11.1	8.1	15.6	15.1	1.1	8.9	25.9	2.2
性別											
男性	6.5	13.7	20.9	12.9	7.9	17.3	18.7	2.9	10.8	37.4	2.9
女性	12.9	12.9	37.4	13.5	11.6	20.6	18.7	0.0	11.0	26.5	1.9
年齢											
20歳代	5.0	15.0	50.0	20.0	10.0	20.0	10.0	5.0	20.0	15.0	5.0
30歳代	10.0	12.0	38.0	22.0	10.0	14.0	22.0	0.0	16.0	24.0	0.0
40歳代	13.6	10.2	30.5	16.9	11.9	25.4	11.9	5.1	8.5	28.8	1.7
50歳代	10.1	13.0	27.5	13.0	13.0	18.8	24.6	0.0	10.1	27.5	7.2
60歳代	9.9	19.7	23.9	7.0	8.5	18.3	19.7	0.0	11.3	39.4	0.0
70歳代	7.1	0.0	17.9	3.6	0.0	7.1	10.7	0.0	0.0	60.7	3.6
地区											
平良地区	9.9	13.4	31.7	16.2	6.3	21.8	15.5	0.0	9.9	35.9	2.1
城辺地区	18.2	18.2	22.7	4.5	13.6	13.6	18.2	0.0	0.0	18.2	18.2
下地地区	5.9	11.8	19.6	9.8	5.9	7.8	19.6	2.0	11.8	43.1	2.0
上野地区	9.3	13.0	31.5	13.0	13.0	22.2	20.4	3.7	13.0	27.8	0.0
伊良部地区	13.8	10.3	37.9	13.8	24.1	17.2	27.6	3.4	17.2	13.8	0.0
比較											
全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
沖縄県	10.3	16.2	26.1	17.6	8.8	18.5	26.2	4.4	8.2	25.0	2.5

スポーツクラブ等への加入状況と今後の意向について

問 12 あなたは、運動やスポーツのクラブや同好会に加入していますか。

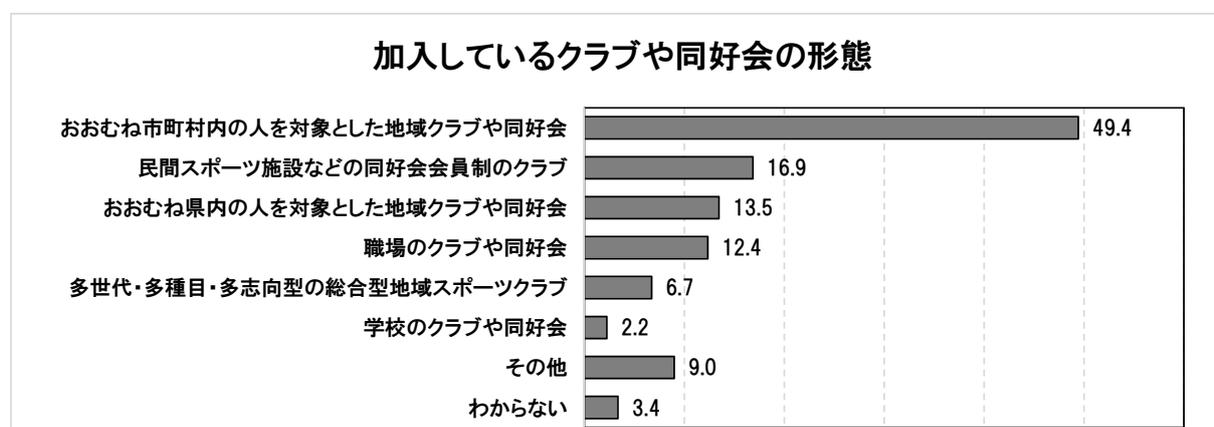
- 運動やスポーツのクラブや同好会への加入状況を聞いたところ「加入している」と答えた人の割合が 23.4%となっており、「平成 25 年度文部科学省調査」の結果（16.2%）や「平成 24 年度沖縄県調査」の結果（18.0%）と比較すると「加入している」と答えた人の割合は、本市の方がおよそ 5 ポイント高くなっている。
- 性別で見ると、「加入している」と答えた人の割合は男性の方が高くなっている。
- 年齢別で見ると、70 歳代以上では「加入している」と答えた人の割合が高くなっている。
- 地域別で見ると、平良地区、下地地区、伊良部地区では「加入している」と答えた人の割合が若干高くなっている。



		既に参加している	参加していない
全体		23.4	76.6
性別	男性	27.5	72.5
	女性	18.4	81.6
年齢	20歳代	28.6	71.4
	30歳代	15.4	84.6
	40歳代	23.3	76.7
	50歳代	21.8	78.2
	60歳代	22.5	77.5
	70歳代	36.6	63.4
	地区	平良地区	26.9
城辺地区		16.7	83.3
下地地区		25.4	74.6
上野地区		14.5	85.5
伊良部地区		24.3	75.7
比較	全国	16.2	83.8
	沖縄県	18.0	82.0

問 12-1 あなたが加入しているクラブや同好会は、どのようなものですか。あてはまる内容をすべて選んでください。

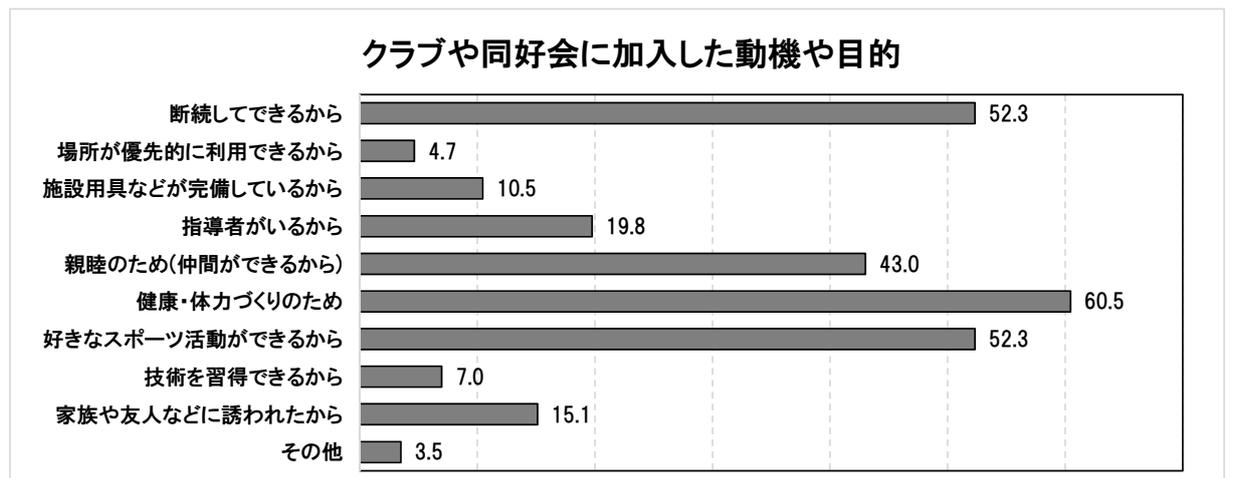
- 運動やスポーツのクラブや同好会に加入していると答えた人に、クラブ等の種別について聞いたところ、「おおむね市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」と答えた人の割合が 49.4%で最も高く、以下「民間スポーツ施設などの同好会会員制のクラブ」(16.9%)、「おおむね県内の人を対象とした地域クラブや同好会」(13.5%)などの順となっている。
- 性別で見ると、男性は「おおむね市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」、「職場のクラブや同好会」、女性は「民間スポーツ施設などの同好会会員制のクラブ」、「多世代・多種目・多志向型の総合型地域スポーツクラブ」と答えた人の割合が、高くなっている。
- 地域別で見ると、平良地区は「職場のクラブや同好会」、下地地区は「多世代・多種目・多志向型の総合型地域スポーツクラブ」、上野地区は「民間スポーツ施設などの同好会会員制のクラブ」、伊良部地区は「おおむね市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」と答えた人の割合が高くなっている。



		おおむね市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会	民間スポーツ施設などの同好会会員制のクラブ	おおむね県内の人を対象とした地域クラブや同好会	職場のクラブや同好会	多世代・多種目・多志向型の総合型地域スポーツクラブ	学校のクラブや同好会	その他	わからない
全体		49.4	16.9	13.5	12.4	6.7	2.2	9.0	3.4
性別	男性	55.1	16.3	12.2	16.3	4.1	2.0	10.2	0.0
	女性	42.9	20.0	14.3	5.7	8.6	2.9	5.7	8.6
年齢	20歳代	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	12.5	12.5	0.0
	30歳代	50.0	20.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	64.7	5.9	11.8	5.9	5.9	0.0	5.9	11.8
	50歳代	36.8	21.1	10.5	10.5	5.3	0.0	15.8	0.0
	60歳代	55.6	22.2	5.6	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
	70歳代	60.0	20.0	33.3	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7
地区	平良地区	43.5	19.6	13.0	19.6	8.7	0.0	6.5	4.3
	城辺地区	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	下地地区	64.7	11.8	17.6	5.9	11.8	5.9	5.9	5.9
	上野地区	44.4	33.3	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0
	伊良部地区	77.8	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
比較	全国	49.5	22.1	13.4	17.3	0.0	7.2	4.2	0.0
	沖縄県	35.7	24.8	21.7	12.9	9.3	5.2	11.9	0.0

問 12-3 そのクラブや同好会に加入した動機や目的は何ですか。主なものを3つまで選んでください。

- 運動やスポーツのクラブや同好会に加入していると答えた人に、加入した動機や目的について聞いたところ、「健康・体力づくりのため」と答えた人の割合が60.5%最も高く、以下「好きなスポーツ活動ができるから」(52.3%)、「継続してできるから」(52.3%)の順となっており、「平成25年度文部科学省調査」や「平成24年度沖縄県調査」と比較すると、本市の方が「好きなスポーツ活動ができるから」、「継続してできるから」と答えた人の割合が高くなっている。
- 性別でみると、男性では「親睦のため(仲間ができるから)」、女性では「指導者がいるから」と答えた人の割合が、異性に比べ高くなっている。
- 年齢別でみると、20歳代は「家族や友人などに誘われたから」、70歳代以上は「親睦のため(仲間ができるから)」が、他の年代に比べ高くなっている。
- 地域別でみると、上野地区は「健康・体力づくりのため」、城辺地区は「継続してできるから」、伊良部地区は「好きなスポーツ活動ができるから」と答えた人の割合が、それぞれ高くなっている。

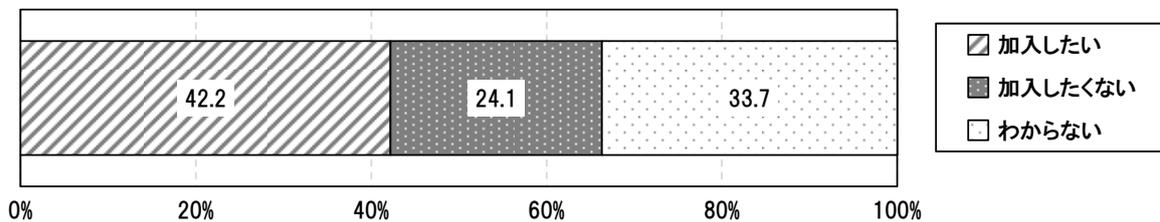


		断続してできるから	場所が優先的に利用できるから	施設用具などが完備しているから	指導者がいるから	親睦のため(仲間ができるから)	健康・体力づくりのため	好きなスポーツ活動ができるから	技術を習得できるから	家族や友人などに誘われたから	その他	特にない	わからない
全体		52.3	4.7	10.5	19.8	43.0	60.5	52.3	7.0	15.1	3.5	0.0	0.0
性別	男性	47.9	4.2	6.3	8.3	56.3	62.5	54.2	6.3	12.5	4.2	0.0	0.0
	女性	55.9	2.9	17.6	35.3	26.5	58.8	47.1	5.9	20.6	2.9	0.0	0.0
年齢	20歳代	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	42.9	57.1	0.0	57.1	0.0	0.0	0.0
	30歳代	40.0	10.0	0.0	10.0	50.0	60.0	70.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	52.9	0.0	0.0	29.4	41.2	52.9	70.6	11.8	23.5	11.8	0.0	0.0
	50歳代	52.6	0.0	21.1	31.6	42.1	57.9	47.4	10.5	10.5	0.0	0.0	0.0
	60歳代	64.7	5.9	11.8	17.6	41.2	76.5	23.5	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0
	70歳代	64.3	7.1	7.1	7.1	64.3	64.3	57.1	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0
地区	平良地区	54.3	8.7	13.0	28.3	39.1	65.2	41.3	6.5	19.6	4.3	0.0	0.0
	城辺地区	75.0	0.0	0.0	0.0	75.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	下地地区	43.8	0.0	12.5	18.8	43.8	62.5	56.3	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0
	上野地区	55.6	0.0	11.1	11.1	22.2	66.7	44.4	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
	伊良部地区	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	44.4	100.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0
比較	全国	30.6	11.1	10.1	17.6	50.5	59.3	38.8	9.8	8.1	2.3	0.7	1.0
	沖縄県	44.8	4.1	12.3	23.2	43.6	64.2	45.0	11.6	14.7	6.3	0.5	0.0

問 12-4 あなたは好きな運動やスポーツクラブ、同好会があれば、加入したいですか。

- 現在、運動・スポーツのクラブや同好会に加入していないと答えた人に、自分の好きな運動やスポーツのクラブ等への加入意向について聞いたところ、「加入したい」と答えた人の割合は42.2%となっており、「平成 25 年度文部科学省調査」の結果（38.7%）や「平成 24 年度沖縄県調査」の結果（23.3%）と比較すると「加入したい」と答えた人の割合は、本市の方がかなり高くなっている。
- 性別にみると、「加入したい」と答えた人の割合は女性の方が高くなっている。
- 年齢別にみると、「加入したい」と答えた人の割合は20歳代が最も高くなっている。
- 地域別にみると、城辺地区がでは「加入したい」と答えた人の割合が高く、最も割合が低い下地地区とは、約 27 ポイントの開きがある。

運動やスポーツのクラブや同好会への加入意向

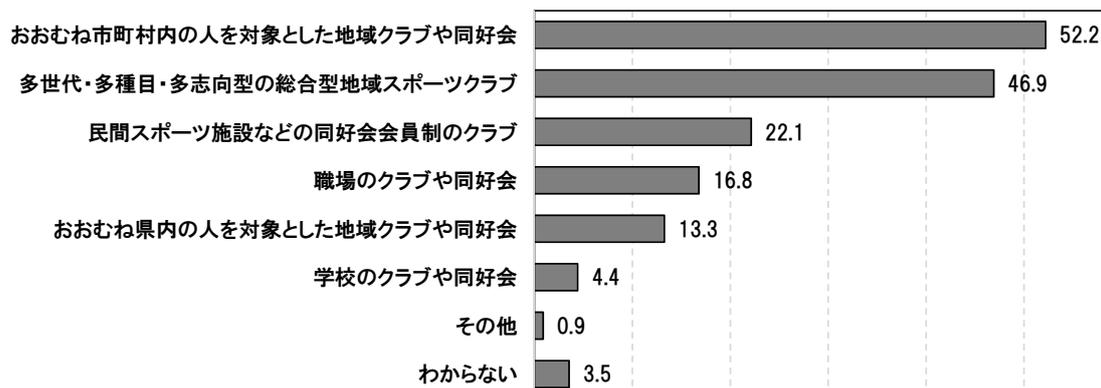


		加入したい	加入したくない	わからない
全体		31.8	18.2	25.4
性別	男性	40.7	23.6	35.8
	女性	44.7	23.0	32.2
年齢	20歳代	55.0	25.0	20.0
	30歳代	43.6	25.5	30.9
	40歳代	37.5	16.1	46.4
	50歳代	47.0	19.7	33.3
	60歳代	33.9	32.2	33.9
	70歳代	40.9	31.8	27.3
地区	平良地区	42.4	21.2	36.4
	城辺地区	53.3	13.3	33.3
	下地地区	26.5	38.8	34.7
	上野地区	47.2	20.8	32.1
	伊良部地区	40.7	29.6	29.6
比較	全国	38.7	44.1	0.9
	沖縄県	39.5	23.3	37.3

問 12-5 加入したいクラブや同好会は、どのようなものですか。主なもの2つまで選んでください。

- 好きな運動やスポーツのクラブや同好会があれば加入したいと答えた人を対象に、加入したいクラブや同好会の形態について聞いたところ、「おおむね市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」と答えた人の割合が52.2%と最も高く、以下「多世代・多種目・多志向型の総合型地域スポーツクラブ」(46.9%)の順となっている。
- 性別で見ると、男性は「職場のクラブや同好会」、女性は「民間スポーツ施設などの同好会会員制のクラブ」と答えた人の割合が高くなっている。
- 年齢別で見ると、20歳代では「職場のクラブや同好会」、50歳代は「おおむね市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」、が、他の年代に比べ高くなっている。
- 地域別で見ると、城辺地区は「多世代・多種目・多志向型の総合型地域スポーツクラブ」、上野地区は「おおむね市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」と答えた人の割合が他の地域に比べ高くなっている。

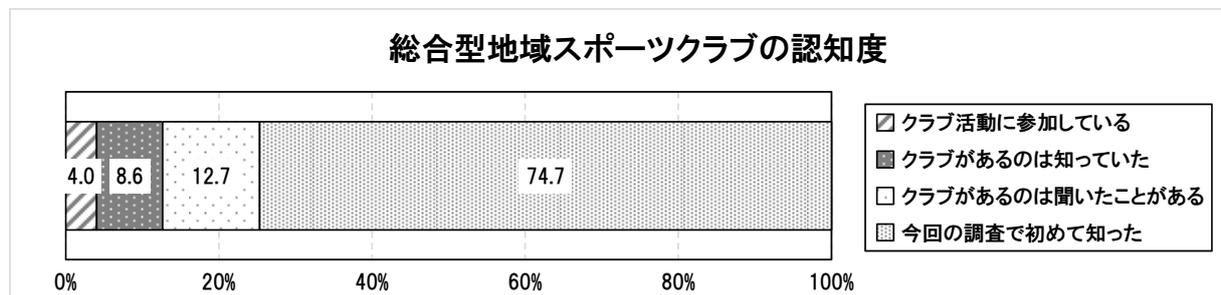
加入したいクラブや同好会の形態



		職場のクラブや同好会	学校のクラブや同好会	おおむね県内の人を対象とした地域クラブや同好会	おおむね市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会	多世代・多種目・多志向型の総合型地域スポーツクラブ	民間スポーツ施設などの同好会会員制のクラブ	その他	わからない
全体		6.7	1.8	5.3	20.7	18.6	8.8	0.4	1.4
性別	男性	18.4	4.1	8.2	49.0	46.9	16.3	2.0	6.1
	女性	15.6	4.7	17.2	54.7	46.9	26.6	0.0	1.6
年齢	20歳代	20.0	10.0	10.0	5.0	5.0	10.0	0.0	5.0
	30歳代	14.5	1.8	7.3	20.0	21.8	7.3	1.8	0.0
	40歳代	3.7	0.0	3.7	20.4	16.7	11.1	0.0	1.9
	50歳代	5.9	2.9	5.9	27.9	23.5	8.8	0.0	0.0
	60歳代	0.0	0.0	4.9	18.0	21.3	8.2	0.0	1.6
	70歳代	4.2	0.0	0.0	16.7	8.3	8.3	0.0	4.2
地区	平良地区	12.8	2.1	10.6	53.2	48.9	25.5	2.1	2.1
	城辺地区	25.0	12.5	25.0	43.8	56.3	6.3	0.0	0.0
	下地地区	23.1	0.0	23.1	38.5	53.8	38.5	0.0	0.0
	上野地区	13.0	4.3	4.3	60.9	39.1	13.0	0.0	8.7
	伊良部地区	27.3	9.1	9.1	45.5	45.5	36.4	0.0	9.1
比較	全国	18.1	6.4	18.5	59.7	0.0	28.4	0.5	2.3
	沖縄県	16.4	3.1	24.1	44.1	46.6	21.0	1.9	1.3

問 13 あなたは「総合型地域スポーツクラブ」について知っていましたか。

- 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度について聞いたところ、クラブについて認知していた人の割合が25.3%（「クラブの活動に参加している」4.0%+「クラブがあるのは知っていた」8.6%+「クラブがあるのを聞いたことがある」12.7%）となっており、「平成24年度沖縄県調査」の結果（14.0%）と比較すると「総合型地域スポーツクラブ」を認知している人の割合は、本市の方が10ポイント以上高くなっている。
- クラブについて認知していた人の割合を性別で見ると、男性の方が高くなっている。
- 年齢別で見ると、高齢層になるほどクラブについて認知していた人の割合は高くなっている。
- 地域別にみると、下地地区は認知していた人の割合が高くなっている。



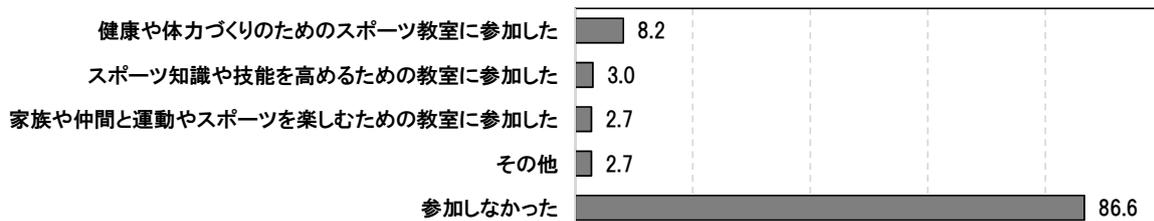
		クラブ活動に参加している	クラブがあるのは知っていた	クラブがあるのは聞いたことがある	今回の調査で初めて知った
全体		4.0	8.6	12.7	74.7
性別	男性	4.0	6.8	14.8	74.4
	女性	3.8	10.3	9.8	76.1
年齢	20歳代	0.0	0.0	10.7	89.3
	30歳代	1.5	4.6	7.7	86.2
	40歳代	2.8	8.3	6.9	81.9
	50歳代	1.2	8.3	14.3	76.2
	60歳代	6.3	13.9	11.4	68.4
	70歳代	13.5	10.8	29.7	45.9
地区	平良地区	3.6	5.4	10.7	80.4
	城辺地区	6.1	9.1	6.1	78.8
	下地地区	7.6	16.7	19.7	56.1
	上野地区	3.3	8.2	9.8	78.7
	伊良部地区	0.0	8.1	16.2	75.7
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	0.0	0.0	0.0	0.0

スポーツ教室やスポーツイベントへの参加状況と今後の意向について

問 14 あなたはこの1年間に宮古島市または地域スポーツクラブが主催するスポーツ教室に参加したことはありますか。あてはまる内容をすべて選んでください。

- スポーツ教室への参加状況について聞いたところ、「健康や体力づくりのためのスポーツ教室に参加した」と答えた人の割合が8.2%と最も高く、以下「スポーツ知識や技能を高めるための教室に参加した」(3.0%)、「家族や仲間と運動やスポーツを楽しむための教室に参加した」(2.7%)の順となっている。
- 一方、「参加しなかった」と答えた人の割合は86.6%となっており、「平成24年度沖縄県調査」の結果(88.1%)と比較すると「参加しなかった」と答えた人の割合は、本市の方が約2ポイント低くなっている。
- 性別で見ると、女性が「健康や体力づくりのためのスポーツ教室に参加した」と答えた人の割合が男性に比べ若干高くなっている。
- 年齢別で見ると、「健康や体力づくりのためのスポーツ教室に参加した」と答えた人の割合は高年齢層になるほど高くなっており、特に60歳代、70歳代以上にその傾向がみられる。
- 地域別で見ると、上野地区は「健康や体力づくりのためのスポーツ教室に参加した」と答えた人の割合が他の地域に比べ高くなっている。

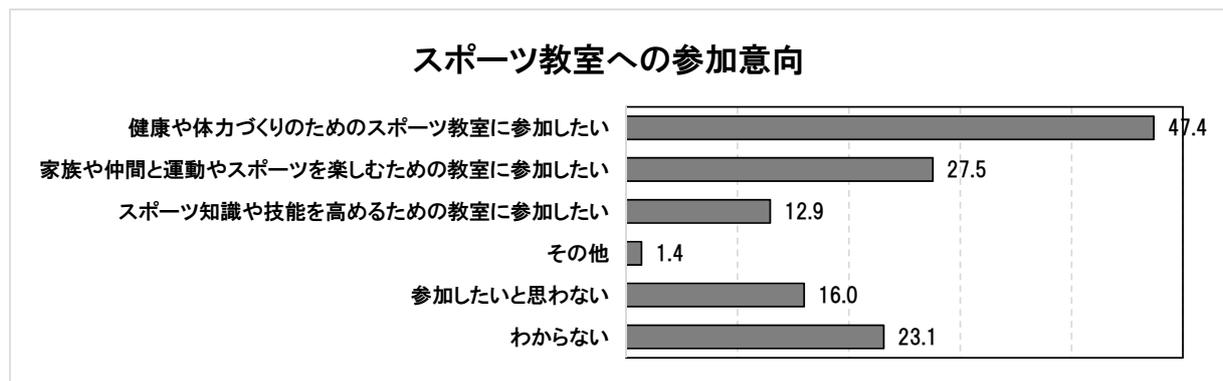
スポーツ教室への参加状況



		健康や体力づくりのためのスポーツ教室に参加した	スポーツ知識や技能を高めるための教室に参加した	家族や仲間と運動やスポーツを楽しむための教室に参加した	その他	参加しなかった
全体		8.2	3.0	2.7	2.7	86.6
性別	男性	7.5	4.0	4.0	1.2	87.9
	女性	9.3	2.2	1.6	3.8	84.6
年齢	20歳代	0.0	3.4	0.0	3.4	93.1
	30歳代	1.6	0.0	4.8	1.6	92.1
	40歳代	7.1	2.9	2.9	4.3	84.3
	50歳代	8.3	4.8	2.4	1.2	88.1
	60歳代	14.1	3.8	1.3	2.6	84.6
	70歳代	13.5	2.7	5.4	2.7	78.4
地区	平良地区	7.7	3.0	1.8	3.0	87.0
	城辺地区	2.8	0.0	2.8	5.6	88.9
	下地地区	8.2	1.6	3.3	1.6	86.9
	上野地区	13.3	5.0	6.7	1.7	81.7
	伊良部地区	8.6	5.7	0.0	0.0	88.6
比較	全国	-	-	-	-	-
	沖縄県	7.0	2.5	4.6	1.2	88.1

問 15 あなたは、今後、宮古島市または地域スポーツクラブが主催するスポーツ教室に参加したいですか。あてはまる内容をすべて選んでください。

- スポーツ教室への参加意向について聞いたところ、「健康や体力づくりのためのスポーツ教室に参加したい」と答えた人の割合が 47.4%と最も高く、以下「家族や仲間と運動やスポーツを楽しむための教室に参加したい」(27.5%)、「スポーツ知識や技能を高めるための教室に参加したい」(12.9%) の順となっている。
- 一方、「参加したいとは思わない」と答えた人の割合は 16.0%となっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果 (21.1%) と比較すると、「参加したいとは思わない」と答えた人の割合は、本市の方が約 5 ポイント低くなっている。
- 性別でみると、男性は「スポーツ知識や技能を高めるための教室に参加したい」、女性は「健康や体力づくりのためのスポーツ教室に参加したい」と答えた人の割合が異性に比べ高くなっている。
- 年齢別でみると、20 歳代は「スポーツ知識や技能を高めるための教室に参加したい」、30 歳代は「家族や仲間と運動やスポーツを楽しむための教室に参加したい」と答えた人の割合が高くなっている。

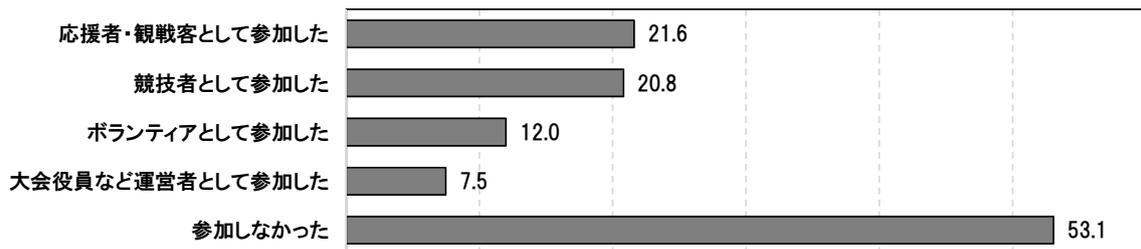


		スポーツ知識や技能を高めるための教室に参加したい	家族や仲間と運動やスポーツを楽しむための教室に参加したい	健康や体力づくりのためのスポーツ教室に参加したい	その他	参加したいと思わない	わからない
全体		12.9	27.5	47.4	1.4	16.0	23.1
性別	男性	17.8	26.6	42.0	1.2	17.2	21.9
	女性	8.8	29.7	53.3	1.6	14.3	23.6
年齢	20歳代	24.1	24.1	41.4	0.0	13.8	20.7
	30歳代	15.9	41.3	47.6	1.6	15.9	17.5
	40歳代	18.6	34.3	50.0	1.4	7.1	30.0
	50歳代	12.2	25.6	46.3	0.0	11.0	31.7
	60歳代	3.9	18.2	53.2	3.9	20.8	16.9
	70歳代	8.3	19.4	33.3	0.0	38.9	16.7
地区	平良地区	11.0	25.6	46.3	1.8	18.9	23.8
	城辺地区	11.4	25.7	65.7	0.0	5.7	25.7
	下地地区	14.8	21.3	41.0	0.0	16.4	29.5
	上野地区	13.1	39.3	44.3	3.3	14.8	16.4
	伊良部地区	17.1	28.6	48.6	0.0	17.1	20.0
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	11.9	30.3	43.6	1.7	21.1	20.8

問 16 あなたは、この 1 年間に宮古島市または自治会などが主催するスポーツ行事に参加しましたか。あてはまる内容をすべて選んでください。

- スポーツ行事への参加状況について聞いたところ、「応援者・観戦客として参加した」と答えた人の割合が 21.6%と最も高く、以下「競技者として参加した」(20.8%)、「ボランティアとして参加した」(12.0%)の順となっている。
- 一方、「参加しなかった」と答えた人の割合は 53.1%となっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果(76.5%)と比較すると、「参加しなかった」と答えた人の割合は、本市の方が 20 ポイント以上も低くなっている。
- 性別で見ると、男性は「競技者として参加した」、女性は「応援者・観戦客として参加した」と答えた人の割合が高くなっている。
- 年齢別で見ると、60 歳代は「競技者として参加した」、「応援者・観戦客として参加した」と答えた人の割合が高くなっている。
- 地域別で見ると、下地地区は「応援者・観戦客として参加した」、上野地区は「競技者として参加した」、城辺地区は「ボランティアとして参加した」と答えた人の割合が、他の地域に比べ高くなっている。

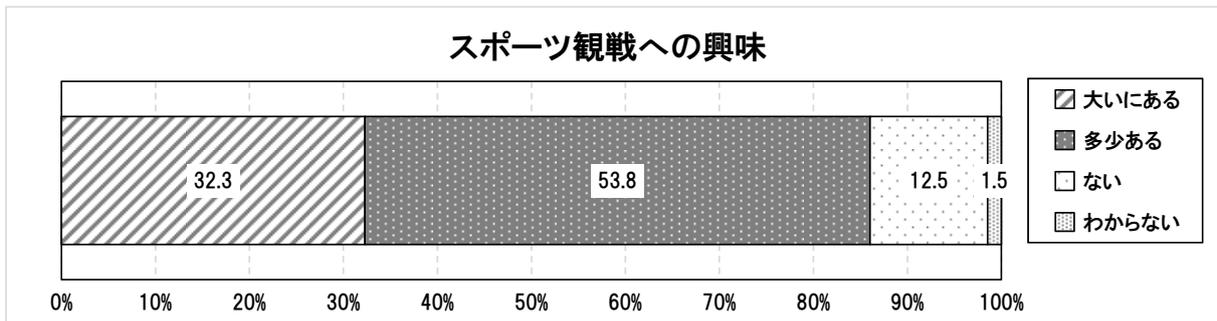
スポーツ行事への参加状況



		応援者・観戦客として参加した	競技者として参加した	ボランティアとして参加した	大会役員など運営者として参加した	参加しなかった
全体		21.6	20.8	12.0	7.5	53.1
性別	男性	20.3	29.9	11.9	11.3	47.5
	女性	22.0	12.4	12.4	3.2	58.6
年齢	20歳代	13.8	27.6	6.9	0.0	58.6
	30歳代	14.1	23.4	17.2	7.8	51.6
	40歳代	23.6	16.7	13.9	5.6	52.8
	50歳代	19.0	13.1	13.1	11.9	59.5
	60歳代	28.8	28.8	8.8	5.0	46.3
	70歳代	25.0	20.0	7.5	7.5	55.0
地区	平良地区	19.2	16.3	14.0	6.4	58.1
	城辺地区	19.4	19.4	16.7	8.3	47.2
	下地地区	29.0	25.8	8.1	6.5	50.0
	上野地区	22.6	33.9	8.1	8.1	43.5
	伊良部地区	19.4	13.9	11.1	8.3	58.3
比較	全国	-	-	-	-	-
	沖縄県	8.3	12.9	2.5	3.3	76.5

問 17 あなたは、スポーツ観戦に興味がありますか。

- スポーツ観戦への関心について聞いたところ、関心があると答えた人の割合が 86.1%（「大いにある」32.3%＋「多少ある」53.8%）となっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果（83.3%）と比較すると、関心があると答えた人の割合は、本市の方が約 3 ポイント高くなっている。
- 関心があると答えた人の割合を性別で見ると、男性の方が高くなっている。
- 年齢別で見ると、20 歳代が最も関心があると答えた人の割合が高くなっている。
- 地域別で見ると、伊良部地区で関心があると答えた人の割合が若干高くなっている。

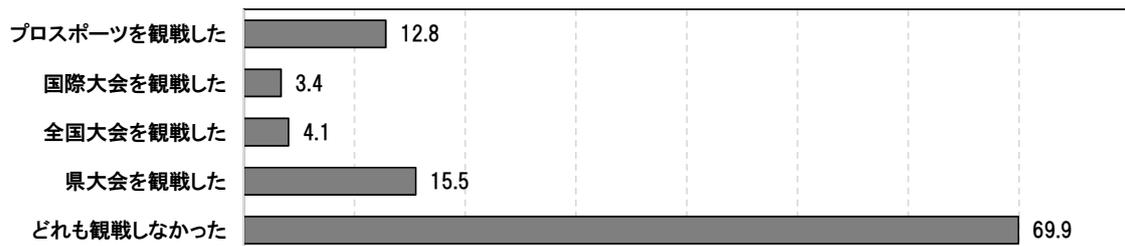


		大いにある	多少ある	ない	わからない
全体		32.3	53.8	12.5	1.5
性別	男性	36.2	46.9	5.1	1.7
	女性	23.7	53.2	16.7	1.1
年齢	20歳代	60.7	35.7	3.6	0.0
	30歳代	21.7	56.7	18.3	3.3
	40歳代	34.4	50.0	15.6	0.0
	50歳代	31.2	58.4	9.1	1.3
	60歳代	30.7	53.3	14.7	1.3
	70歳代	25.7	62.9	8.6	2.9
地区	平良地区	29.3	56.1	13.4	1.3
	城辺地区	40.6	43.8	12.5	3.1
	下地地区	21.1	63.2	14.0	1.8
	上野地区	36.8	50.9	12.3	0.0
	伊良部地区	40.0	48.6	8.6	2.9
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	26.8	56.5	14.3	2.4

問 18 あなたは、この 1 年間に直接会場へ行ってスポーツ観戦をしましたか。次の 1～5 であてはまる内容をすべて選んでいただき、スポーツレベルごとに観戦数と主な競技種目をご記入ください。また、その主な観戦理由を 3 つまで選んでください。

- スポーツ観戦をしたかをスポーツレベルについて聞いたところ、「県大会」と答えた人の割合が 15.5%と最も高く、以下「プロスポーツ」(12.8%)、「全国大会」(4.1%) の順となっている。
- 一方、「どれも観戦しなかった」と答えた人の割合は、69.9%となっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果 (70.8%) と比較すると、関心があると答えた人の割合は、本市の方が約 1 ポイント低くなっている。
- スポーツ観戦をした人の割合を性別で見ると、レベルに関わらず全般的に男性の方が高くなっている。
- 年齢別で見ると、20 歳代は「プロスポーツ」、40 歳代は「県大会」を観戦した人の割合が高くなっている。
- 地域別で見ると、平良地区は「県大会」、城辺地区は「プロスポーツ」を観戦した人の割合が高くなっている。

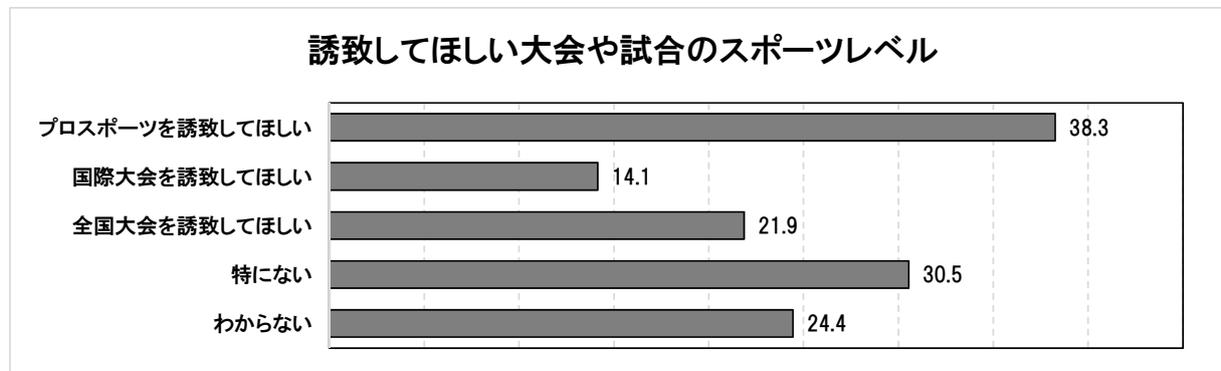
観戦した大会や競技種目のスポーツレベル



		プロスポーツを 観戦した	国際大会を観 戦した	全国大会を観 戦した	県大会を観戦 した	どれも観戦しな かった
全体		12.8	3.4	4.1	15.5	69.9
性別	男性	16.7	3.5	4.2	16.0	66.7
	女性	8.3	2.8	3.5	14.6	74.3
年齢	20歳代	23.1	3.8	7.7	7.7	65.4
	30歳代	11.1	5.6	5.6	11.1	72.2
	40歳代	15.3	3.4	1.7	25.4	59.3
	50歳代	9.1	1.5	4.5	16.7	69.7
	60歳代	10.0	1.7	1.7	15.0	76.7
	70歳代	11.5	3.8	3.8	3.8	88.5
地区	平良地区	11.0	4.1	2.1	20.0	67.6
	城辺地区	16.7	0.0	5.6	5.6	77.8
	下地地区	10.9	4.3	4.3	10.9	76.1
	上野地区	15.4	1.9	7.7	9.6	71.2
	伊良部地区	10.0	0.0	3.3	13.3	76.7
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	16.3	0.8	2.4	16.1	70.8

問 19 今後、市内においてどのような競技種目の大会や試合を誘致してほしいですか。次の 1～5 であてはまる内容をすべて選んでいただき、誘致してほしい種目があれば、各一つだけご記入ください。

- 誘致してほしい大会や試合のスポーツレベルについてか聞いたところ、「プロスポーツ」と答えた人の割合が 38.3%と最も高くなっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果(29.5%)と比較すると、「プロスポーツ」と答えた人の割合は、本市の方が約 9 ポイントも高くなっている。
- 誘致してほしいと回答した人の割合を性別で見ると、全てのスポーツレベルにおいて男性の方が高くなっている。
- 年齢別にみると、20 歳代は「プロスポーツ」と答えた人の割合が他の年代より高くなっている。
- 地域別にみると、全てのスポーツレベルにおいて、伊良部地区の割合が高くなっている。

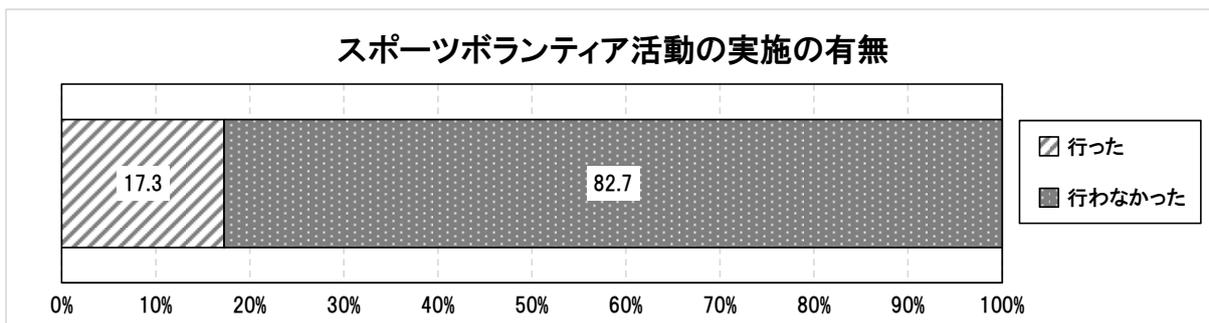


		プロスポーツを誘致してほしい	国際大会を誘致してほしい	全国大会を誘致してほしい	特にない	わからない
全体		38.3	14.1	21.9	30.5	24.4
性別	男性	42.8	16.4	27.6	30.3	19.7
	女性	33.1	11.3	15.9	30.5	29.8
年齢	20歳代	46.4	21.4	17.9	25.0	17.9
	30歳代	35.1	12.3	19.3	35.1	26.3
	40歳代	39.1	14.1	21.9	39.1	17.2
	50歳代	37.5	15.3	20.8	29.2	26.4
	60歳代	37.9	10.3	27.6	27.6	24.1
	70歳代	35.7	14.3	21.4	21.4	35.7
地区	平良地区	38.2	13.9	20.8	34.0	22.9
	城辺地区	37.0	7.4	18.5	33.3	14.8
	下地地区	30.8	7.7	13.5	23.1	40.4
	上野地区	41.5	18.9	26.4	28.3	24.5
	伊良部地区	45.2	22.6	35.5	32.3	9.7
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	29.5	15.2	11.5	26.2	37.3

スポーツに関するボランティア活動の状況と今後の意向について

問 20 この1年間に、スポーツの指導やスポーツ大会の運営など、スポーツに関するボランティア活動を行いましたか。

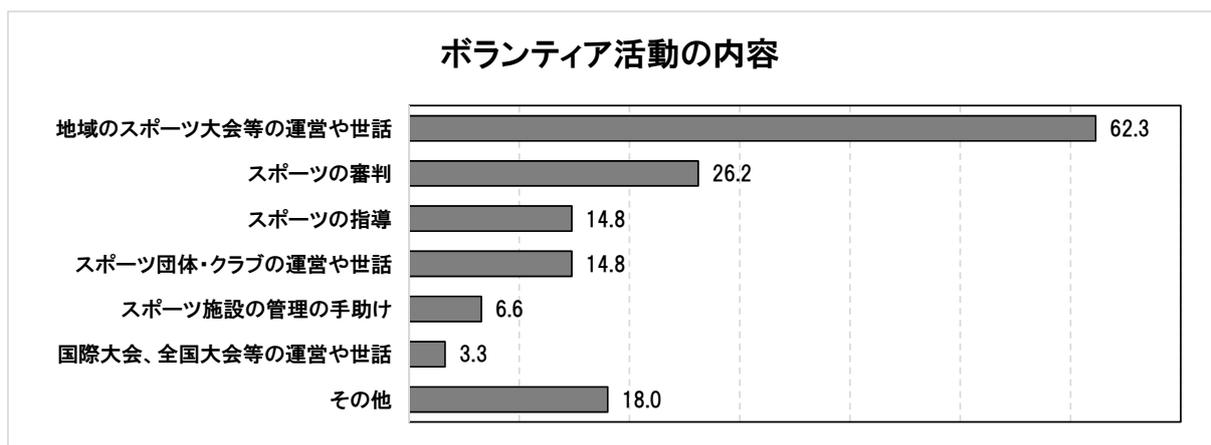
- スポーツに関するボランティア活動について聞いたところ、「行った」と答えた人の割合が17.3%となっており、「平成24年度沖縄県調査」の結果(9.9%)と比較すると、「行った」と答えた人の割合は、本市の方が約7ポイントも高くなっている。
- 「行った」と答えた人の割合を性別で見ると、男性の方が高くなっている。
- 年齢別で見ると、30歳代では「行った」と答えた人の割合が最も高く、70歳代以上は低い。
- 地域別にみると、城辺地区「行った」と答えた人の割合が高い。



		行なった	行わなかった
全体		17.3	82.7
性別	男性	24.1	75.9
	女性	10.7	89.3
年齢	20歳代	17.9	82.1
	30歳代	20.6	79.4
	40歳代	23.9	76.1
	50歳代	15.7	84.3
	60歳代	12.0	88.0
	70歳代	8.1	91.9
地区	平良地区	16.8	83.2
	城辺地区	18.8	81.3
	下地地区	15.0	85.0
	上野地区	16.9	83.1
	伊良部地区	17.1	82.9
比較	全国	11.4	88.5
	沖縄県	9.9	90.1

問 20-1 あなたが行ったボランティア活動はどのようなものですか。あてはまる内容をすべて選んでください。

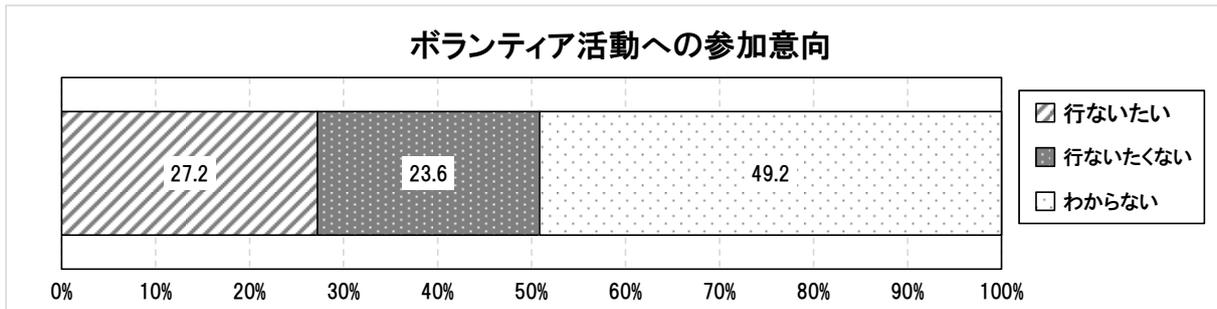
- この1年間にボランティア活動を行ったと答えた人に活動内容を聞いたところ、「地域のスポーツ大会等の運営や世話」と答えた人の割合が62.3%と最も高く、以下「スポーツの審判」(26.2%)「スポーツの指導」(14.8%)、「スポーツ団体・クラブの運営や世話」(14.8%)、の順となっており、「地域のスポーツ大会等の運営や世話」と答えた人の割合で「平成24年度沖縄県調査」の結果(57.3%)と比較すると、本市の方が約5ポイントも高くなっている。
- 性別でみると、男性は「スポーツの指導」、「スポーツの審判」、「スポーツ団体・クラブの運営や世話」、女性は「地域のスポーツ大会等の運営や世話」と答えた人の割合が高くなっている。
- 年齢別でみると、30歳代と40歳代は「スポーツの指導」、「スポーツの審判」と答えた人の割合が高い。
- 地域別でみると、上野地区は「スポーツの指導」、「スポーツの審判」と答えた人の割合が、それぞれ他の地域に比べて高くなっている。



		地域のスポーツ大会等の運営や世話	スポーツの審判	スポーツの指導	スポーツ団体・クラブの運営や世話	スポーツ施設の管理の手助け	国際大会、全国大会等の運営や世話	その他
全体		62.3	26.2	14.8	14.8	6.6	3.3	18.0
性別	男性	55.0	37.5	17.5	20.0	7.5	2.5	17.5
	女性	78.9	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	21.1
年齢	20歳代	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
	30歳代	69.2	23.1	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7
	40歳代	46.7	33.3	33.3	13.3	13.3	6.7	6.7
	50歳代	84.6	30.8	0.0	7.7	0.0	0.0	23.1
	60歳代	44.4	22.2	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
	70歳代	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
地区	平良地区	67.9	28.6	14.3	17.9	7.1	0.0	21.4
	城辺地区	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3
	下地地区	66.7	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
	上野地区	66.7	44.4	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0
	伊良部地区	66.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7
比較	全国	-	-	-	-	-	-	-
	沖縄県	57.3	26.7	30.9	26.9	4.7	6.4	5.7

問 21 あなたは今後スポーツに関するボランティア活動を行いたいと思いますか。

- ボランティア活動への参加意向について聞いたところ、「行いたい」と答えた人の割合が27.2%となっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果（18.8%）と比較すると、本市の方が約 8 ポイントも高くなっている。
- 「行いたい」と答えた人の割合を性別で見ると、男性の方が高くなっている。
- 年齢別で見ると、20 歳代から 40 歳代は「行いたい」と答えた人の割合が高くなっている。
- 地域別で見ると、伊良部地域は「行いたい」と答えた人の割合が高くなっている。

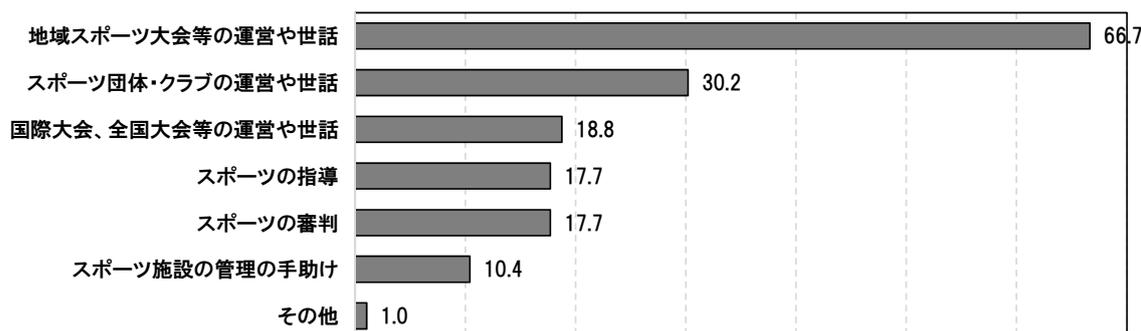


		行かない	行ないたくない	わからない
全体		27.2	23.6	49.2
性別	男性	27.9	23.3	48.8
	女性	26.7	23.9	49.4
年齢	20歳代	48.3	20.7	31.0
	30歳代	31.1	26.2	42.6
	40歳代	27.8	15.3	56.9
	50歳代	19.5	18.3	62.2
	60歳代	24.0	29.3	46.7
	70歳代	20.0	40.0	40.0
地区	平良地区	24.7	24.7	50.6
	城辺地区	31.3	18.8	50.0
	下地地区	21.7	26.7	51.7
	上野地区	27.4	24.2	48.4
	伊良部地区	39.4	21.2	39.4
比較	全国	-	-	-
	沖縄県	18.8	24.6	56.5

問 21-1 あなたが行いたいボランティア活動はどのようなものですか。あてはまる内容をすべて選んでください。

- 今後、スポーツに関するボランティア活動を行いたいと答えた人に、行いたいボランティア活動について聞いたところ、「地域のスポーツ大会等の運営や世話」と答えた人の割合が66.7%と最も高く、以下「スポーツ団体・クラブの運営や世話」(30.2%)、「国際大会、全国大会等の運営や世話」(18.8%)の順となっている。
- 性別で見ると、男性は「スポーツの指導」、「スポーツの審判」、「スポーツ団体・クラブの運営や世話」と答えた人の割合が女性に比べかなり高くなっている。
- 年齢別で見ると、50歳代は「地域スポーツ大会等の運営や世話」、30歳代は「スポーツの指導」と回答した割合が高くなっている。
- 地域別で見ると、平良地区では「スポーツの審判」、下地地区は「スポーツ団体・クラブの運営や世話」、上野地区は「スポーツの指導」、伊良部地区は「地域スポーツ大会等の運営や世話」と答えた人の割合が、他の地域に比べ高くなっている。

行いたいボランティア活動の内容



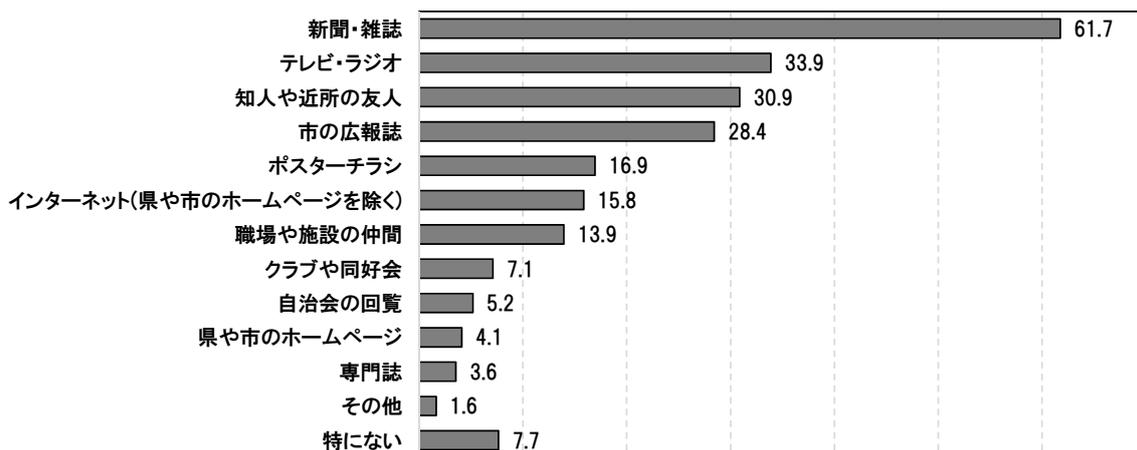
		地域スポーツ大会等の運営や世話	スポーツ団体・クラブの運営や世話	国際大会、全国大会等の運営や世話	スポーツの指導	スポーツの審判	スポーツ施設の管理の手助け	その他
全体		66.7	30.2	18.8	17.7	17.7	10.4	1.0
性別	男性	60.4	39.6	14.6	27.1	31.3	8.3	2.1
	女性	73.3	20.0	22.2	4.4	2.2	13.3	0.0
年齢	20歳代	71.4	35.7	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0
	30歳代	38.9	38.9	22.2	38.9	16.7	16.7	0.0
	40歳代	70.0	35.0	15.0	25.0	25.0	10.0	0.0
	50歳代	87.5	12.5	6.3	6.3	25.0	0.0	0.0
	60歳代	66.7	22.2	5.6	5.6	16.7	5.6	5.6
	70歳代	50.0	50.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
地区	平良地区	75.6	34.1	19.5	17.1	22.0	12.2	2.4
	城辺地区	62.5	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0
	下地地区	30.8	53.8	23.1	15.4	7.7	7.7	0.0
	上野地区	58.8	23.5	23.5	23.5	17.6	0.0	0.0
	伊良部地区	76.9	15.4	7.7	15.4	15.4	15.4	0.0
比較	全国	-	-	-	-	-	-	-
	沖縄県	62.5	27.9	19.1	21.6	18.0	28.3	3.1

運動やスポーツに関する情報の入手について

問 22 あなたは、運動やスポーツに関する情報をどこから得ていますか。主なものを3つまで選んでください。

- 運動やスポーツに関する情報収集について聞いたところ、「新聞・雑誌」と答えた人の割合が61.7%と最も高く、「テレビ・ラジオ」(33.9%)、「知人や近所の友人」(30.9%)の順となっている。
- 性別で見ると、男性では「インターネット」、女性では「市の広報誌」の割合が、異性に比べて高くなっている。
- 年齢別で見ると、20歳代は「インターネット」、30歳代は「職場や施設の仲間」、70歳代以上は「自治会の回覧」が高くなっており、年代によって情報の収集方法が異なる状況にある。
- 地域別で見ると、城辺地区は「市の広報誌」、伊良部地区は「知人や近所の友人」と答えた人の割合が、他の地域に比べ高くなっている。

運動やスポーツに関する情報の収集方法

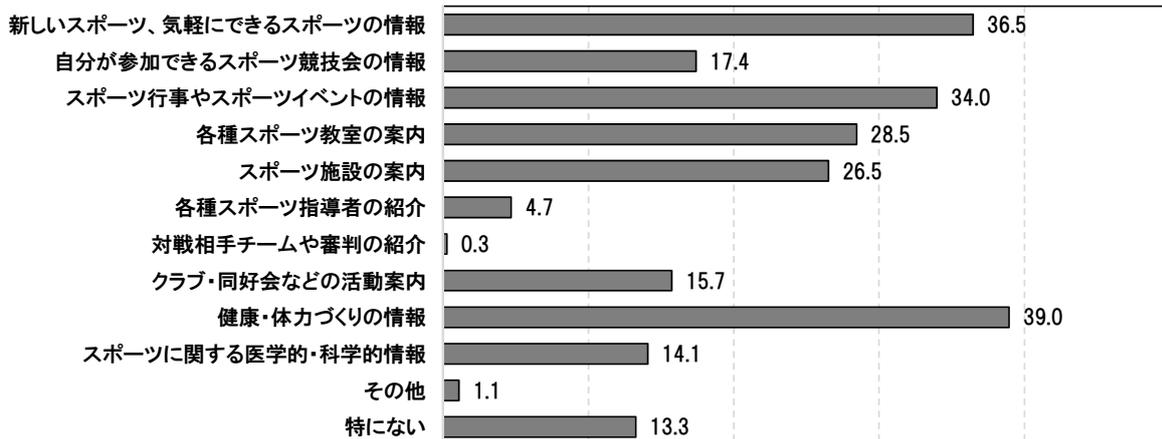


	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	知人や近所の友人	市の広報誌	ポスターチラシ	インターネット(県や市のホームページを除く)	職場や施設の仲間	クラブや同好会	自治会の回覧	県や市のホームページ	専門誌	その他	特にない	
全体	61.7	33.9	30.9	28.4	16.9	15.8	13.9	7.1	5.2	4.1	3.6	1.6	7.7	
性別	男性	64.5	37.2	30.2	20.9	16.3	19.8	13.4	7.0	7.0	5.2	7.0	1.7	5.8
	女性	60.4	30.8	32.4	37.4	18.1	11.5	13.7	6.6	3.8	3.3	0.5	1.1	8.8
年齢	20歳代	39.3	39.3	35.7	3.6	21.4	39.3	17.9	7.1	0.0	10.7	10.7	3.6	0.0
	30歳代	43.1	10.8	36.9	38.5	15.4	24.6	23.1	4.6	6.2	4.6	1.5	0.0	10.8
	40歳代	69.4	29.2	29.2	26.4	25.0	22.2	16.7	4.2	2.8	6.9	5.6	1.4	5.6
	50歳代	70.7	36.6	28.0	37.8	15.9	13.4	15.9	4.9	4.9	3.7	3.7	2.4	3.7
	60歳代	70.1	49.4	37.7	27.3	16.9	1.3	2.6	6.5	5.2	1.3	2.6	1.3	9.1
	70歳代	61.1	44.4	13.9	19.4	2.8	2.8	5.6	25.0	13.9	0.0	0.0	2.8	13.9
地区	平良地区	61.8	34.5	32.1	29.7	19.4	18.2	17.6	6.1	1.8	4.8	3.6	1.8	6.7
	城辺地区	61.8	35.3	14.7	47.1	26.5	14.7	5.9	11.8	14.7	8.8	2.9	0.0	2.9
	下地地区	68.7	35.8	28.4	28.4	13.4	10.4	7.5	9.0	7.5	1.5	3.0	1.5	7.5
	上野地区	57.6	30.5	33.9	25.4	15.3	15.3	15.3	3.4	8.5	5.1	5.1	1.7	10.2
	伊良部地区	58.8	35.3	47.1	14.7	8.8	14.7	8.8	8.8	2.9	0.0	2.9	0.0	8.8
比較	全国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	沖縄県	55.7	67.5	24.7	29.4	21.1	22.2	8.7	5.4	6.1	1.2	2.4	1.4	0.0

問 23 あなたは、運動やスポーツに関する情報のうち、市にどのような情報を提供してほしいですか。主なものを3つまで選んでください。

- 提供してほしい情報について聞いたところ、「健康・体力づくり情報」と答えた人の割合が39.0%と最も高く、以下「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報」(36.5%)、「スポーツ行政やスポーツ競技会の情報」(34.0%)の順となっている。
- 性別で見ると、男性は「スポーツ行事やスポーツイベントの情報」、女性は「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツの情報」、「健康・体力づくり情報」と答えた人の割合が、異性に比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、20歳代は「自分が参加できるスポーツ競技会の情報」、60歳代以上では「健康・体力づくりの情報」が他の年代に比べ高い割合となっている。
- 地域別で見ると、平良地区は「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報」、下地地区は「スポーツ行事やスポーツイベントの情報」と答えた人の割合が他の地域に比べ高くなっている。

市に提供してほしい情報



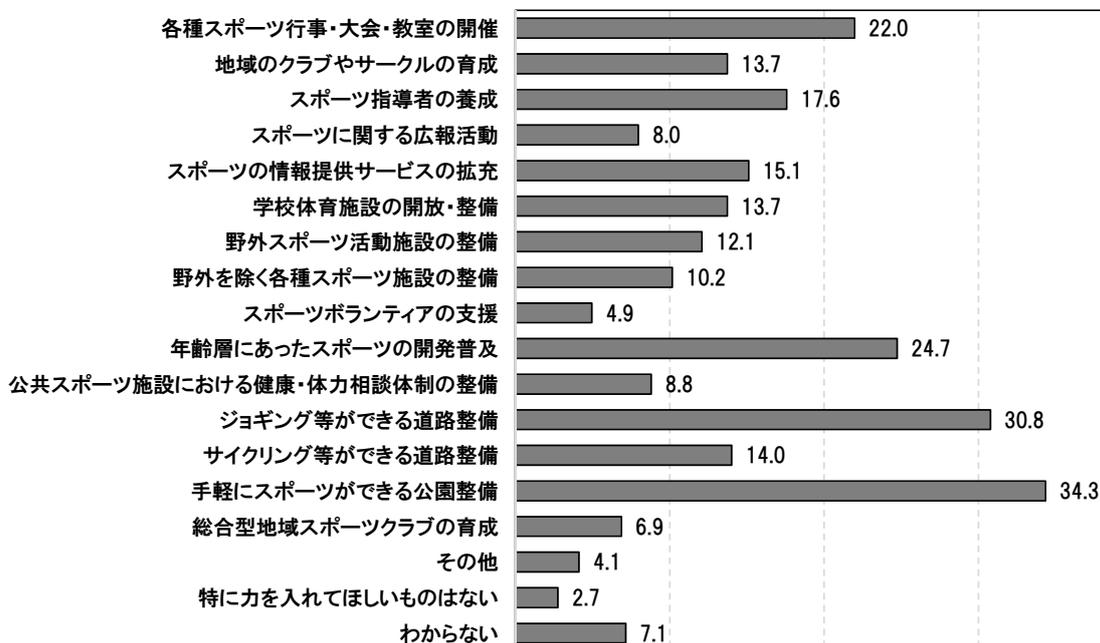
	新しいスポーツ、気軽にできるスポーツの情報	自分が参加できるスポーツ競技会の情報	スポーツ行事やスポーツイベントの情報	各種スポーツ教室の案内	スポーツ施設の案内	各種スポーツ指導者の紹介	対戦相手チームや審判の紹介	クラブ・同好会などの活動案内	健康・体力づくりの情報	スポーツに関する医学的・科学的情報	その他	特にない	
全体	36.5	17.4	34.0	28.5	26.5	4.7	0.3	15.7	39.0	14.1	1.1	13.3	
性別	男性	28.0	19.6	39.3	22.0	29.2	3.6	0.0	17.3	35.7	16.1	1.8	13.7
	女性	44.0	15.4	29.7	34.6	24.2	5.5	0.5	14.8	43.4	11.5	0.5	12.1
年齢	20歳代	32.1	39.3	50.0	25.0	35.7	3.6	0.0	21.4	21.4	14.3	0.0	0.0
	30歳代	40.0	18.5	27.7	38.5	35.4	3.1	0.0	18.5	16.9	13.8	1.5	16.9
	40歳代	31.9	18.8	34.8	36.2	24.6	5.8	0.0	11.6	37.7	15.9	1.4	7.2
	50歳代	38.1	10.7	44.0	20.2	29.8	3.6	1.2	19.0	41.7	14.3	2.4	15.5
	60歳代	40.3	16.9	24.7	29.9	23.4	5.2	0.0	10.4	59.7	11.7	0.0	14.3
	70歳代	21.2	6.1	24.2	12.1	9.1	6.1	0.0	21.2	45.5	12.1	0.0	24.2
地区	平良地区	40.7	19.8	29.0	26.5	25.9	4.3	0.0	13.6	39.5	14.8	1.9	14.2
	城辺地区	33.3	9.1	36.4	21.2	24.2	9.1	0.0	18.2	42.4	15.2	0.0	6.1
	下地地区	31.8	13.6	43.9	33.3	24.2	3.0	0.0	24.2	34.8	13.6	1.5	12.1
	上野地区	31.7	16.7	31.7	38.3	31.7	5.0	1.7	10.0	40.0	11.7	0.0	16.7
	伊良部地区	32.4	17.6	35.3	20.6	29.4	2.9	0.0	17.6	41.2	11.8	0.0	14.7
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	35.7	19.0	25.3	29.3	33.2	5.6	2.6	17.9	42.5	19.9	1.0	0.0

地域のスポーツの振興にあたっての期待や要望について

問 24 あなたは地域スポーツをもっと振興させるために、市にどのようなことに力を入れてもらいたいと思いますか。主なものを3つまで選んでください。

- 地域のスポーツを振興させるために、県や市町村に力を入れてもらいたいことについて聞いたところ、「手軽にスポーツができる公園整備」と答えた人の割合が34.3%と最も高く、以下「ジョギングなどができる道路整備」(30.8%)、「年齢層にあったスポーツの開発普及」(24.7%)の順となっている。
- 性別で見ると、男性は「野外スポーツ活動施設の整備」、女性は「年齢層にあったスポーツの開発普及」と答えた人の割合が異性に比べて高くなっている。
- 年齢別で見ると、20歳代は「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」、「スポーツボランティアの支援」、30歳代は「手軽にスポーツができる公園整備」、40歳代は「ジョギングなどができる道路整備」、60歳代は「年齢層にあったスポーツの開発普及」の割合が他の年代に比べて高くなっている。
- 地域別で見ると、平良地区は「年齢層にあったスポーツの開発普及」、城辺地区は「手軽にスポーツができる公園整備」、下地地区は「スポーツ指導者の養成」、上野地区は「学校体育施設の開放・整備」、伊良部地区は「ジョギングなどができる道路整備」の割合が高くなっている。

行政に力を入れてほしいこと



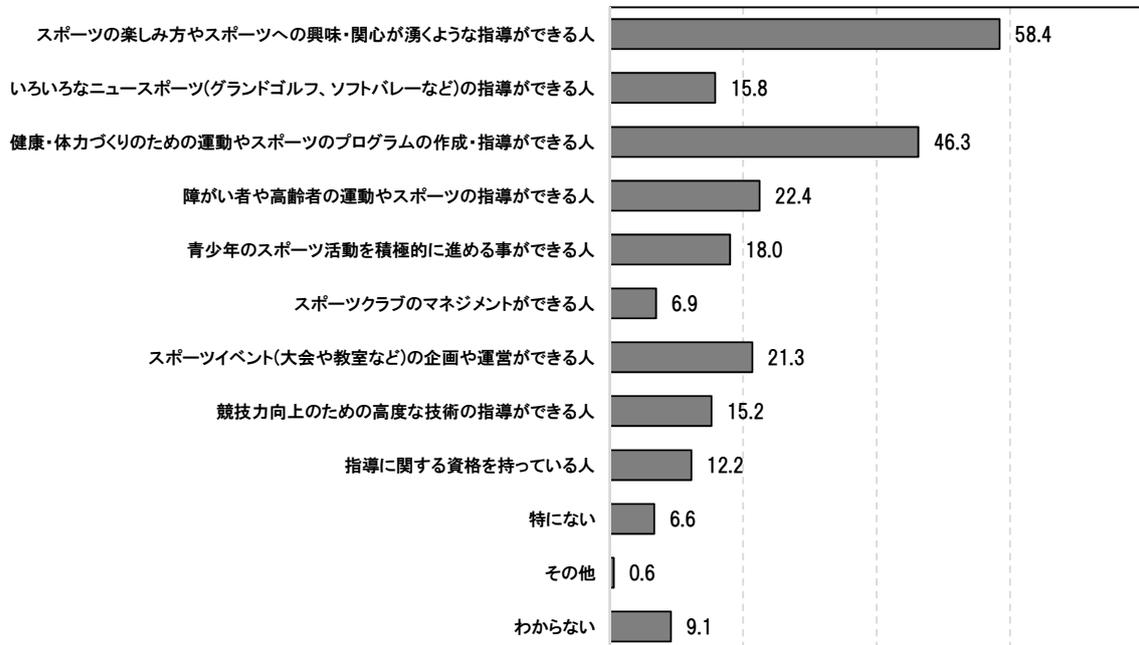
		各種スポーツ行事・大会・教室の開催	地域のクラブやサークルの育成	スポーツ指導者の養成	スポーツに関する広報活動	スポーツの情報提供サービスの拡充	学校体育施設の開放・整備	野外スポーツ活動施設の整備	野外を除く各種スポーツ施設の整備	スポーツボランティアの支援
全体		22.0	13.7	17.6	8.0	15.1	13.7	12.1	10.2	4.9
性別	男性	25.7	12.3	19.3	7.0	10.5	14.6	16.4	9.4	5.8
	女性	19.2	15.4	15.4	9.3	18.7	11.5	7.7	9.9	4.4
年齢	20歳代	32.1	21.4	21.4	3.6	17.9	21.4	7.1	14.3	14.3
	30歳代	23.8	15.9	11.1	7.9	15.9	20.6	17.5	15.9	3.2
	40歳代	19.7	8.5	15.5	9.9	22.5	12.7	11.3	12.7	5.6
	50歳代	25.3	13.3	19.3	9.6	12.0	12.0	10.8	10.8	4.8
	60歳代	15.6	14.3	20.8	7.8	15.6	10.4	11.7	2.6	3.9
	70歳代	16.7	16.7	13.9	2.8	2.8	5.6	13.9	5.6	2.8
地区	平良地区	23.6	12.1	15.2	7.9	13.9	12.1	10.9	10.3	3.6
	城辺地区	6.1	21.2	12.1	9.1	9.1	12.1	9.1	12.1	6.1
	下地地区	21.2	7.6	27.3	12.1	18.2	9.1	18.2	6.1	4.5
	上野地区	20.7	19.0	19.0	5.2	15.5	20.7	10.3	13.8	6.9
	伊良部地区	25.7	20.0	8.6	5.7	20.0	17.1	14.3	8.6	8.6
比較	全国	35.4	29.1	34.9	20.6	0.0	35.5	23.4	12.9	18.1
	沖縄県	21.7	14.6	18.7	8.9	10.3	12.4	10.9	5.5	3.5

		年齢層にあったスポーツの開発普及	公共スポーツ施設における健康・体力相談体制の整備	ジョギング等ができる道路整備	サイクリング等ができる道路整備	手軽にスポーツができる公園整備	総合型地域スポーツクラブの育成	その他	特に力を入れてほしいものはない	わからない
全体		24.7	8.8	30.8	14.0	34.3	6.9	4.1	2.7	7.1
性別	男性	16.4	9.4	32.2	16.4	32.2	7.0	5.3	2.3	8.2
	女性	33.5	8.8	29.7	12.1	35.7	7.1	2.7	3.3	6.0
年齢	20歳代	3.6	0.0	35.7	17.9	32.1	0.0	10.7	0.0	0.0
	30歳代	4.8	3.2	31.7	22.2	47.6	6.3	4.8	4.8	3.2
	40歳代	18.3	15.5	43.7	12.7	35.2	7.0	7.0	1.4	2.8
	50歳代	32.5	7.2	31.3	14.5	30.1	9.6	3.6	1.2	8.4
	60歳代	44.2	13.0	23.4	9.1	33.8	9.1	1.3	2.6	10.4
	70歳代	30.6	8.3	16.7	5.6	22.2	0.0	0.0	8.3	19.4
地区	平良地区	26.7	7.3	33.3	21.2	37.0	8.5	6.1	2.4	5.5
	城辺地区	18.2	3.0	30.3	9.1	48.5	12.1	6.1	3.0	9.1
	下地地区	30.3	12.1	22.7	4.5	30.3	1.5	0.0	4.5	7.6
	上野地区	19.0	12.1	27.6	10.3	22.4	6.9	5.2	1.7	10.3
	伊良部地区	22.9	11.4	37.1	2.9	34.3	5.7	0.0	2.9	8.6
比較	全国	33.3	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	3.7	4.1
	沖縄県	25.7	12.3	29.2	16.2	36.2	17.7	2.0	2.3	5.9

問 25 地域のスポーツをもっと振興させるために、市にどのようなスポーツ指導者を確保、養成してほしいと思いますか。主なものを3つまで選んでください。

- を確保、養成してほしい指導者について聞いたところ、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心が湧くような指導ができる人」を挙げた人の割合が 58.4%と最も高く、以下「健康・体力づくりのための運動やスポーツのプログラムの作成・指導ができる人」(46.3%)、「障がい者や高齢者の運動やスポーツの指導ができる人」(22.4%)の順となっている。
- 性別でみると、男性は「競技力向上のための高度な技術の指導ができる人」、女性は「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心が湧くような指導ができる人」が異性に比べ高くなっている。
- 年齢別でみると、20歳代は「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心が湧くような指導ができる人」、40歳代は「青少年のスポーツ活動を積極的に進めることができる人」、50歳代は「指導に関する資格を持っている人」、60歳代は「障がい者や高齢者の運動やスポーツの指導ができる人」が他の年代に比べ高くなっている。
- 地域別でみると、平良地区は「健康・体力づくりのための運動やスポーツのプログラムの作成・指導ができる人」、上野地区は「指導に関する資格を持っている人」、伊良部地区は「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心が湧くような指導ができる人」の割合が他の地域に比べ高くなっている。

県や市町村に確保、養成してほしい指導者



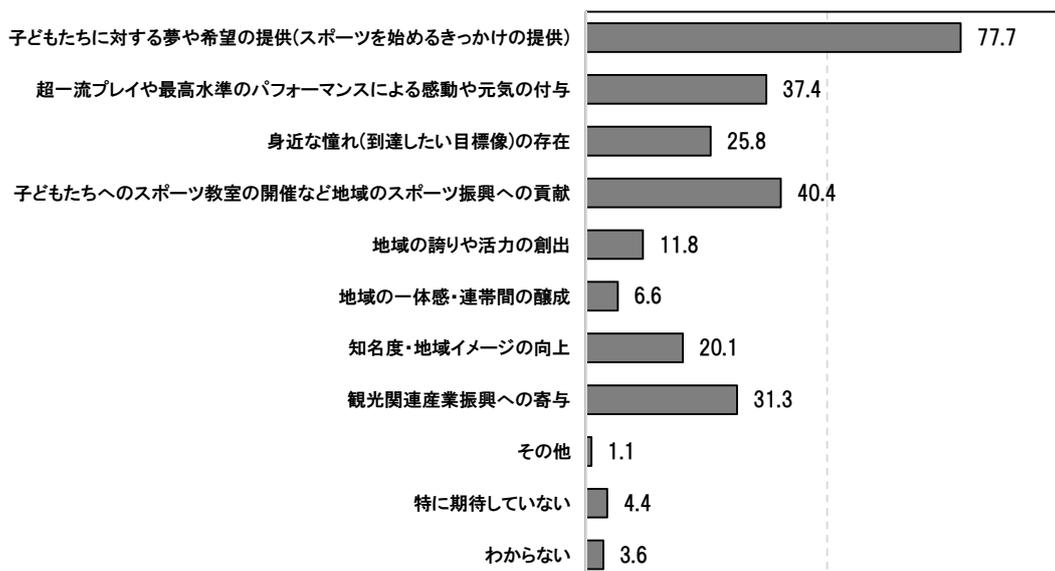
		スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心が湧くような指導ができる人	いろいろなニューススポーツ(グラウンドゴルフ、ソフトバレーなど)の指導ができる人	健康・体力づくりのための運動やスポーツのプログラムを作成・指導ができる人	障がい者や高齢者の運動やスポーツの指導ができる人	青少年のスポーツ活動を積極的に進める事ができる人	スポーツクラブのマネジメントができる人
全体		58.4	15.8	46.3	22.4	18.0	6.9
性別	男性	54.4	19.3	42.1	17.5	19.3	8.8
	女性	63.7	11.7	50.8	25.7	15.1	5.6
年齢	20歳代	71.4	14.3	39.3	21.4	17.9	10.7
	30歳代	58.5	10.8	41.5	16.9	12.3	9.2
	40歳代	70.0	12.9	52.9	21.4	30.0	7.1
	50歳代	56.1	15.9	50.0	19.5	14.6	3.7
	60歳代	57.1	18.2	49.4	33.8	15.6	9.1
	70歳代	27.3	24.2	33.3	15.2	15.2	3.0
地区	平良地区	56.0	15.1	52.4	21.1	19.3	6.0
	城辺地区	56.3	9.4	40.6	34.4	21.9	9.4
	下地地区	53.8	15.4	41.5	23.1	20.0	6.2
	上野地区	60.7	10.7	42.9	21.4	8.9	7.1
	伊良部地区	72.2	30.6	41.7	13.9	16.7	11.1
比較	全国	51.9	6.5	40.7	21.0	13.5	0.0
	沖縄県	36.6	12.1	50.4	29.4	27.2	6.8

		スポーツイベント(大会や教室など)の企画や運営ができる人	競技力向上のための高度な技術の指導ができる人	指導に関する資格を持っている人	特にな	その他	わからない
全体		21.3	15.2	12.2	6.6	0.6	9.1
性別	男性	23.4	21.1	12.9	6.4	1.2	8.8
	女性	20.7	7.8	10.6	7.3	0.0	10.1
年齢	20歳代	21.4	28.6	10.7	7.1	3.6	0.0
	30歳代	36.9	21.5	9.2	7.7	1.5	6.2
	40歳代	31.4	11.4	11.4	1.4	0.0	2.9
	50歳代	17.1	13.4	19.5	3.7	0.0	15.9
	60歳代	11.7	11.7	10.4	10.4	0.0	6.5
	70歳代	6.1	9.1	3.0	15.2	0.0	27.3
地区	平良地区	21.7	15.7	11.4	7.2	0.0	9.0
	城辺地区	18.8	9.4	6.3	3.1	0.0	12.5
	下地地区	23.1	15.4	6.2	4.6	1.5	15.4
	上野地区	25.0	12.5	21.4	10.7	1.8	5.4
	伊良部地区	16.7	16.7	16.7	5.6	0.0	2.8
比較	全国	12.2	10.5	16.4	17.5	0.8	2.0
	沖縄県	16.1	15.4	10.4	4.7	0.9	7.5

問 26 あなたは、市内においてプロ野球、プロサッカーや大学、実業団などのスポーツチームがキャンプを行うことに、どのような効果を期待していますか。主なものを3つまで選んでください。

- プロスポーツチームなどが市内においてキャンプやゲームなどを行うことによる効果について聞いたところ、「子どもたちに対する夢や希望の提供」と答えた人の割合が 77.7%と最も高く、以下「子どもたちへのスポーツ教室の開催など地域のスポーツ振興への貢献」(40.4%)、「超一流プレイや最高水準のパフォーマンスによる感動や元気の付与」(37.4%)の順となっている。
- 性別で見ると、男性は「観光関連産業振興への寄与」と答えた人の割合が異性に比べ高くなっている。
- 年齢別で見ると、20 歳代では「知名度・地域イメージの向上」、60 歳代では「子どもたちへのスポーツ教室の開催など地域のスポーツ振興への貢献」が他の年齢層に比べて高い割合となっている。
- 地域別で見ると、城辺地区は「身近な憧れ(到達したい目標像)の存在」と答えた人の割合が高くなっている。

スポーツキャンプを行う効果に対する期待



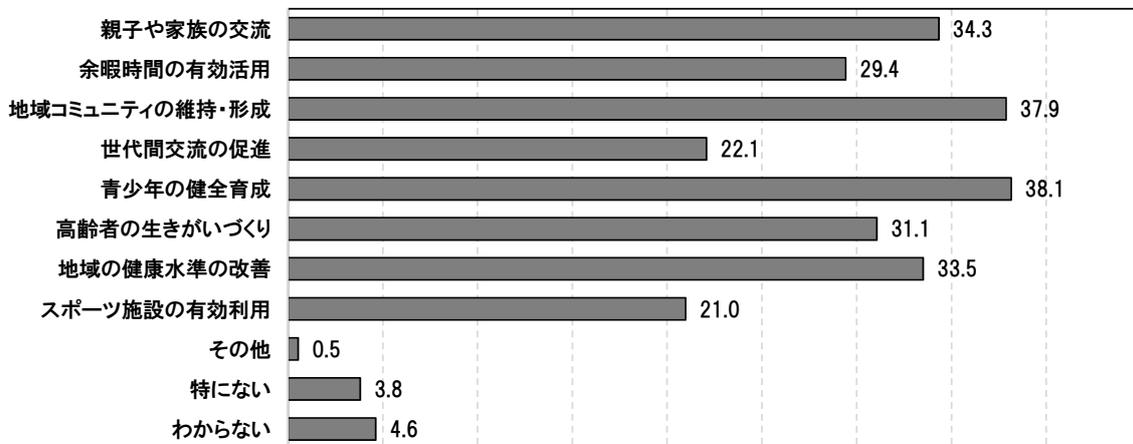
		子どもたちに対する夢や希望の提供(スポーツを始めるきっかけの提供)	超一流プレイや最高水準のパフォーマンスによる感動や元気の付与	身近な憧れ(到達したい目標像)の存在	子どもたちへのスポーツ教室の開催など地域のスポーツ振興への貢献	地域の誇りや活力の創出
全体		77.7	37.4	25.8	40.4	11.8
性別	男性	79.4	31.8	20.0	42.4	12.4
	女性	76.5	42.6	30.1	37.7	12.0
年齢	20歳代	71.4	46.4	25.0	42.9	25.0
	30歳代	72.3	43.1	35.4	41.5	4.6
	40歳代	80.3	40.8	36.6	38.0	12.7
	50歳代	74.7	37.3	20.5	32.5	12.0
	60歳代	83.3	29.5	15.4	50.0	12.8
	70歳代	84.8	30.3	18.2	42.4	9.1
地区	平良地区	77.1	39.2	27.1	41.6	9.6
	城辺地区	84.8	42.4	42.4	39.4	18.2
	下地地区	80.0	30.8	24.6	41.5	12.3
	上野地区	72.4	36.2	13.8	37.9	12.1
	伊良部地区	80.6	38.9	22.2	41.7	13.9
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	82.8	44.5	17.5	51.7	10.3

		地域の一体感・連帯間の醸成	知名度・地域イメージの向上	観光関連産業振興への寄与	その他	特に期待していない	わからない
全体		6.6	20.1	31.3	1.1	4.4	3.6
性別	男性	6.5	25.3	37.1	1.2	4.1	1.8
	女性	7.1	15.8	26.8	0.5	4.4	5.5
年齢	20歳代	3.6	32.1	46.4	0.0	0.0	0.0
	30歳代	4.6	21.5	32.3	1.5	6.2	0.0
	40歳代	7.0	16.9	19.7	0.0	5.6	2.8
	50歳代	8.4	22.9	42.2	1.2	3.6	2.4
	60歳代	10.3	20.5	28.2	1.3	3.8	6.4
	70歳代	0.0	9.1	27.3	3.0	6.1	6.1
地区	平良地区	6.6	21.7	33.1	1.2	4.2	3.0
	城辺地区	9.1	9.1	15.2	3.0	3.0	0.0
	下地地区	4.6	16.9	30.8	1.5	4.6	7.7
	上野地区	8.6	25.9	41.4	0.0	6.9	1.7
	伊良部地区	5.6	22.2	27.8	0.0	2.8	0.0
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	6.9	13.5	36.2	0.9	2.4	1.8

問 27 あなたは、地域におけるスポーツ振興に、どのような効果を期待しますか。主なものを3つまで選んでください。

- 地域におけるスポーツ振興に対する効果について聞いたところ、「青少年の健全育成」と答えた人の割合が38.1%と最も高く、以下「コミュニティの維持・形成」(37.9%)、「親子や家族の交流」(34.3%)の順となっている。
- 性別でみると、男性は「地域コミュニティの維持・形成」、「青少年の健全育成」、女性は「余暇時間の有効活用」と答えた人の割合が異性に比べ高くなっている。
- 年齢別にみると、20歳代は「余暇時間の有効活用」、40歳代は「青少年の健全育成」、60歳代、70歳代以上では「高齢者の生きがいづくり」の割合が高くなっている。

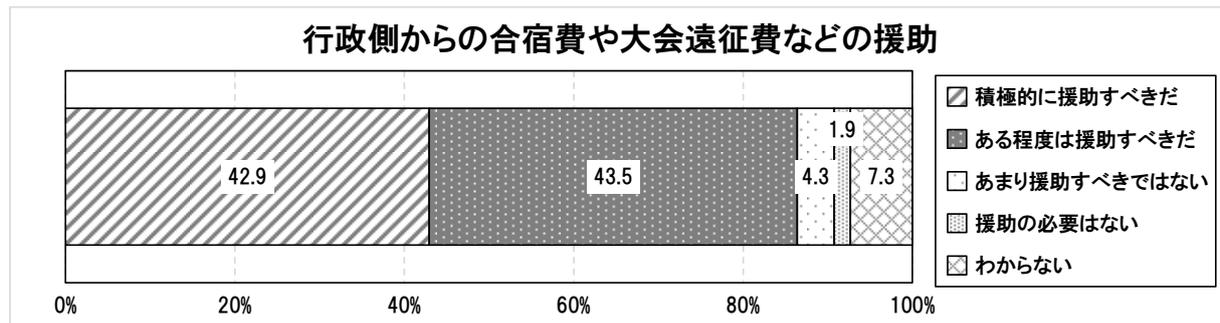
地域におけるスポーツ振興に対する期待



		親子や家族の交流	余暇時間の有効活用	地域コミュニティの維持・形成	世代間交流の促進	青少年の健全育成	高齢者の生きがいづくり	地域の健康水準の改善	スポーツ施設の有効利用	その他	特にない	わからない
全体		34.3	29.4	37.9	22.1	38.1	31.1	33.5	21.0	0.5	3.8	4.6
性別	男性	35.3	27.2	43.4	27.2	43.4	28.3	32.4	20.8	0.6	3.5	2.3
	女性	32.8	32.8	32.8	18.6	32.8	32.2	35.0	20.8	0.0	3.8	7.1
年齢	20歳代	28.6	46.4	42.9	32.1	42.9	25.0	21.4	39.3	0.0	0.0	0.0
	30歳代	38.5	30.8	36.9	20.0	35.4	10.8	29.2	26.2	1.5	4.6	4.6
	40歳代	40.8	31.0	33.8	19.7	49.3	22.5	35.2	19.7	0.0	4.2	2.8
	50歳代	28.9	31.3	41.0	24.1	34.9	32.5	41.0	21.7	0.0	2.4	3.6
	60歳代	36.7	30.4	36.7	20.3	41.8	43.0	35.4	13.9	0.0	3.8	5.1
	70歳代	25.7	8.6	37.1	25.7	17.1	57.1	28.6	14.3	2.9	8.6	8.6
地区	平良地区	29.9	34.7	35.3	22.8	40.1	34.1	33.5	22.8	0.6	3.6	4.2
	城辺地区	39.4	33.3	33.3	24.2	33.3	27.3	36.4	27.3	0.0	3.0	0.0
	下地地区	37.9	16.7	43.9	24.2	37.9	30.3	37.9	10.6	1.5	3.0	7.6
	上野地区	44.1	23.7	45.8	16.9	33.9	27.1	23.7	22.0	0.0	8.5	0.0
	伊良部地区	25.0	38.9	27.8	22.2	41.7	27.8	44.4	25.0	0.0	0.0	8.3
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	37.8	31.8	29.5	21.1	36.3	37.5	28.9	24.7	0.4	4.7	2.7

問 28 本市選手が国際大会などで活躍できるようにするため、行政側から合宿や遠征費などの援助を行うことについて、どう思いますか。

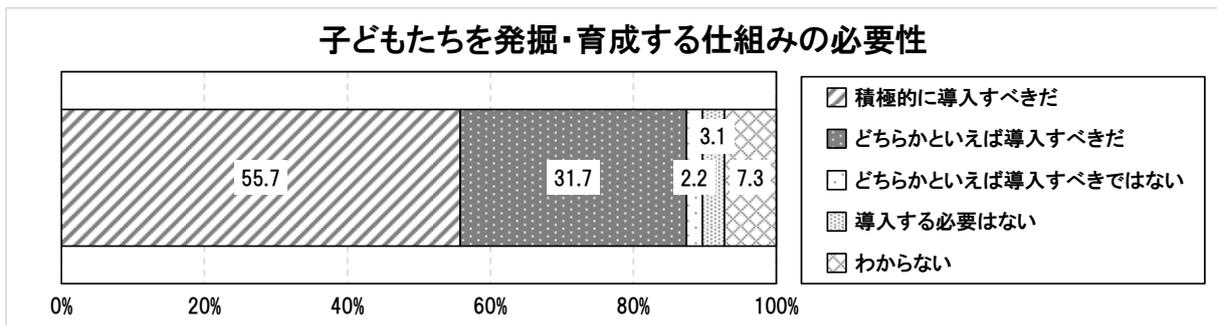
- 行政側から合宿費や大会遠征費などの援助を行うことについて聞いたところ、援助すべきと答えた人の割合が 86.4%（「積極的に援助すべきだ」42.9%+「ある程度は援助すべきだ」43.5%）となっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果（92.7%）と比較すると、支援すべきと答えた人の割合は、本市の方が低くなっている。
- 援助すべきと答えた人の割合を性別で見ると、男性の方が高くなっている。
- 援助すべきと答えた人の割合を年齢別で見ると、20 歳代の割合が高くなっている。



		積極的に援助すべきだ	ある程度は援助すべきだ	あまり援助すべきではない	援助の必要はない	わからない
全体		42.9	43.5	4.3	1.9	7.3
性別	男性	45.4	46.0	2.3	1.1	5.2
	女性	40.7	41.2	6.6	2.2	9.3
年齢	20歳代	57.1	39.3	0.0	0.0	3.6
	30歳代	32.3	50.8	6.2	4.6	6.2
	40歳代	47.1	38.6	1.4	2.9	10.0
	50歳代	39.3	48.8	6.0	0.0	6.0
	60歳代	51.3	36.3	5.0	1.3	6.3
	70歳代	37.1	40.0	5.7	2.9	14.3
地区	平良地区	44.3	41.3	4.8	2.4	7.2
	城辺地区	60.6	24.2	3.0	3.0	9.1
	下地地区	41.8	44.8	1.5	0.0	11.9
	上野地区	27.1	59.3	6.8	1.7	5.1
	伊良部地区	50.0	38.9	5.6	2.8	2.8
比較	全国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	沖縄県	53.4	39.3	1.4	1.7	4.0

問 29 将来、国際大会で活躍する子どもたちを発掘・育成する仕組みについて、どう思いますか。

- 子どもたちを発掘・育成するような仕組みについて聞いたところ、導入すべきと答えた人の割合が 87.4%（「積極的に導入すべきだ」55.7%+「どちらかといえば導入すべきだ」31.7%）となっており、「平成 24 年度沖縄県調査」の結果（86.8%）と比較すると、導入すべきと答えた人の割合は、本市の方が高くなっている。
- 導入すべきと答えた人の割合を性別で見ると、男性の方が高くなっている。
- 導入すべきと答えた人の割合を年齢別で見ると、20 歳代の割合が高くなっている。
- 導入すべきと答えた人の割合を地域別で見ると、伊良部地区の割合が高くなっている。



		積極的に導入すべきだ	どちらかといえば導入すべきだ	どちらかといえば導入すべきではない	導入する必要はない	わからない
全体		55.7	31.7	2.2	3.1	7.3
性別	男性	59.4	30.0	2.4	3.5	4.7
	女性	52.2	33.7	2.2	1.7	10.1
年齢	20歳代	72.4	20.7	3.4	0.0	3.4
	30歳代	49.2	38.5	1.5	4.6	6.2
	40歳代	58.6	24.3	2.9	4.3	10.0
	50歳代	51.8	36.1	2.4	3.6	6.0
	60歳代	61.1	29.2	2.8	0.0	6.9
	70歳代	48.5	33.3	0.0	6.1	12.1
地区	平良地区	58.7	26.9	1.8	4.2	8.4
	城辺地区	54.8	35.5	0.0	0.0	9.7
	下地地区	53.1	35.9	1.6	3.1	6.3
	上野地区	46.4	37.5	5.4	1.8	8.9
	伊良部地区	61.8	32.4	2.9	2.9	0.0
比較	全国	-	-	-	-	-
	沖縄県	51.4	35.4	2.5	3.0	7.6

5. スポーツ指導者への意向調査

<調査概要>

目的：「スポーツ指導者への意向調査」は、地域の実情に即した「宮古島市スポーツ推進計画」を策定する際の参考資料として活用するために、スポーツ指導者の皆様の運動・スポーツに関する意識と実態を把握することを目的に実施しました。

日時：平成27年1月～平成27年2月

対象：競技団体の指導者、中学校・高等学校の部活動の指導者

回収：125件

<調査結果>

指導している運動・スポーツについて

- 指導している運動・スポーツの種目は、「バスケットボール（ミニバスケ含む）」、「バレーボール」、「野球」、「サッカー」など様々な指導者の方がいる。
- 指導している対象者は、ほとんど小学生から高校生の学生である。
- 部員数の動向は、およそ半数が減少しているが、部員数を増やすための取り組みを行っているのは約4割である。

運動・スポーツの指導状況について

- 週3回以上（年151日以上）指導している人は8割以上。
- 1回の指導で1時間～2時間指導している人は約6割、2時間以上が約3割。
- 5年以上の指導経験がある人が8割以上、1年未満の指導者が約1割。
- 指導者の3人に2人が指導にあたって工夫している。

運動・スポーツの指導に関する資格及び講習会等について

- 指導者に関する資格を保有している人は約3割と少ないが、資格取得に興味がある人は約6割。
- 運動・スポーツの指導力向上のための講習会等へ参加した人は5割程度だが、講習会等に興味のある人は8割以上。

運動・スポーツの指導に関する課題や展望について

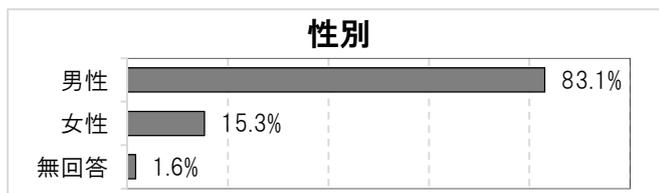
- スポーツ施設に関しては、「施設や設備の充実」、「施設（雨漏り、グラウンド状態）や芝生（状態）の改善・修理や維持管理」、「公共スポーツ施設の使用料の減免」の意見が多い。
- 運動・スポーツの問題点に関しては、「スポーツ意識の低下（先生、地域の人）」、「競技者の減少」、「運動基礎能力などが低い子どもの増加」、「指導者不足」、「指導力」、「本島や県外への試合負担（競技者、親、指導者）」、「父母との関係」などの意見が多い。
- 行政に期待することに関しては、「人材の育成（スポーツ楽しませる人材、指導者）」、「スポーツ教室や指導者講習会の開催」、「島外での試合の負担低減（助成金、システムの構築）」、「プロチームの交流（試合観戦、スポーツ教室）」、「施設の充実・整備」などの意見が多い。

<集計>

回答者の属性

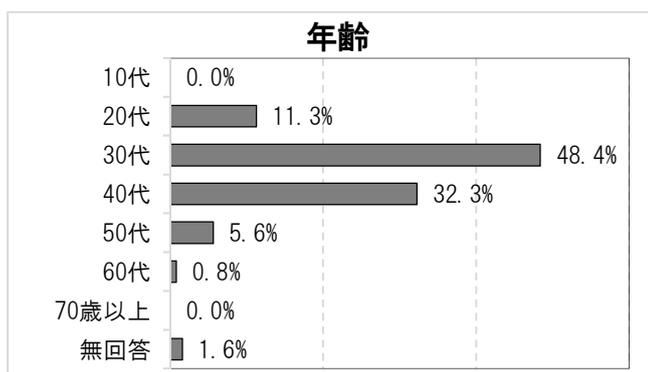
①性別

	構成比
男性	83.1%
女性	15.3%
無回答	1.6%
計	100.0%



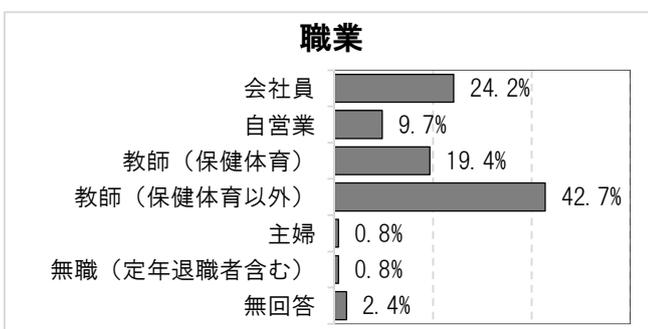
②年齢層

	構成比
10代	0.0%
20代	11.3%
30代	48.4%
40代	32.3%
50代	5.6%
60代	0.8%
70歳以上	0.0%
無回答	1.6%
計	100.0%



③職業

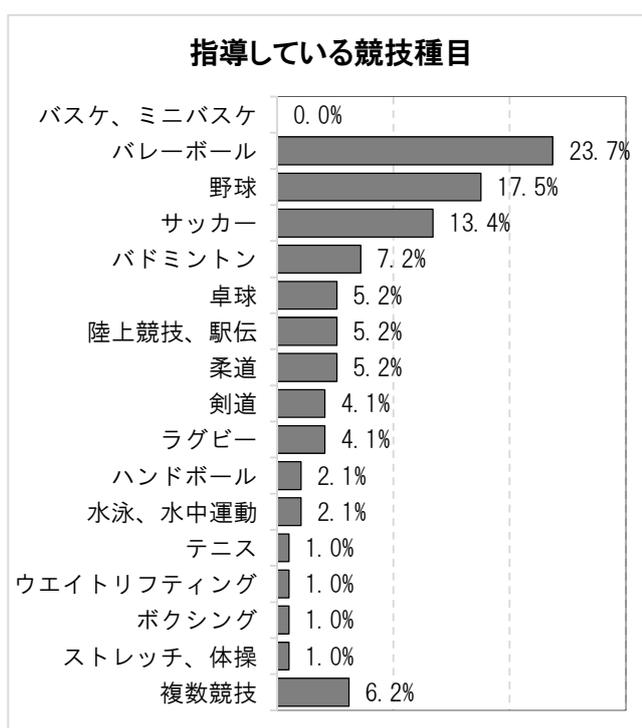
	構成比
会社員	24.2%
自営業	9.7%
教師(保健体育)	19.4%
教師(保健体育以外)	42.7%
主婦	0.8%
無職(定年退職者含む)	0.8%
無回答	2.4%
計	100.0%



指導している運動・スポーツについて

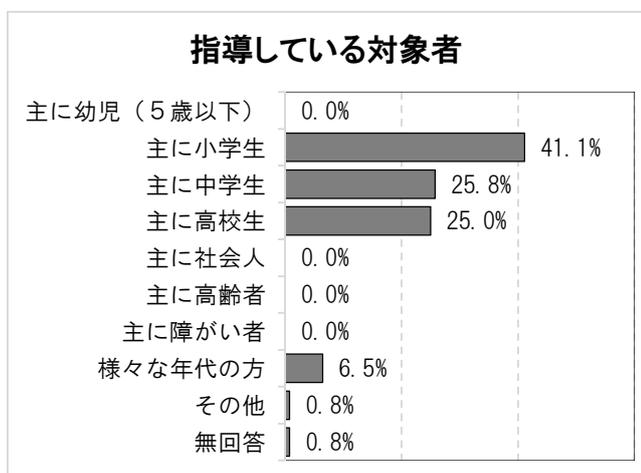
問 2-1 あなたが指導している運動・スポーツの種目は何ですか。

	構成比
バスケットボール、ミニバスケットボール	22.4%
バレーボール	18.4%
野球	13.6%
サッカー	10.4%
バドミントン	5.6%
卓球	4.0%
陸上競技、駅伝	4.0%
柔道	4.0%
剣道	3.2%
ラグビー	3.2%
ハンドボール	1.6%
水泳、水中運動	1.6%
テニス	0.8%
ウエイトリフティング	0.8%
ボクシング	0.8%
ストレッチ、体操	0.8%
複数競技	4.8%
計	100.0%



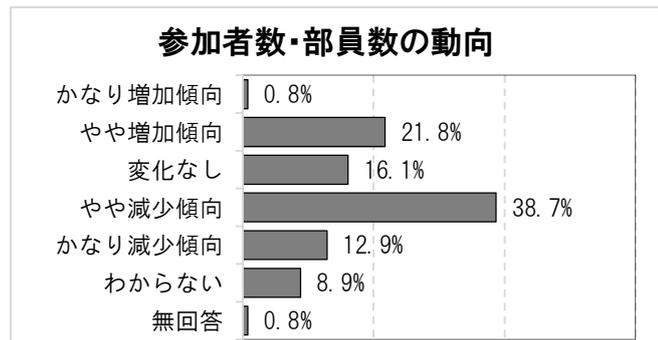
問 2-2 現在、あなたが指導している運動・スポーツの対象者を教えてください。

	構成比
主に幼児(5歳以下)	0.0%
主に小学生	41.1%
主に中学生	25.8%
主に高校生	25.0%
主に社会人	0.0%
主に高齢者	0.0%
主に障がい者	0.0%
様々な年代の方	6.5%
その他	0.8%
無回答	0.8%
計	100.0%



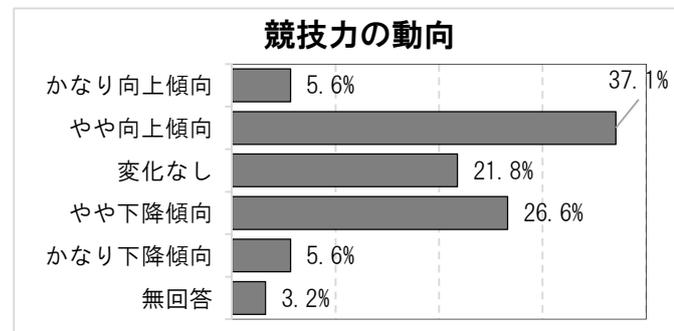
問 2-4 宮古島市において、あなたが指導している運動・スポーツの参加者数・部員数の動向を教えてください。

	構成比
かなり増加傾向	0.8%
やや増加傾向	21.8%
変化なし	16.1%
やや減少傾向	38.7%
かなり減少傾向	12.9%
わからない	8.9%
無回答	0.8%
計	100.0%



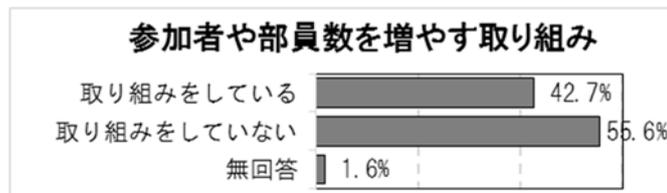
問 2-5 宮古島市において、あなたが指導している運動・スポーツの競技力の動向を教えてください。

	構成比
かなり向上傾向	5.6%
やや向上傾向	37.1%
変化なし	21.8%
やや下降傾向	26.6%
かなり下降傾向	5.6%
わからない	0.0%
無回答	3.2%
計	100.0%



問 2-6 あなたが指導している運動・スポーツの参加者や部員数を増やすために取り組んでいることはありますか。

	構成比
取り組みをしている	42.7%
取り組みをしていない	55.6%
無回答	1.6%
計	100.0%



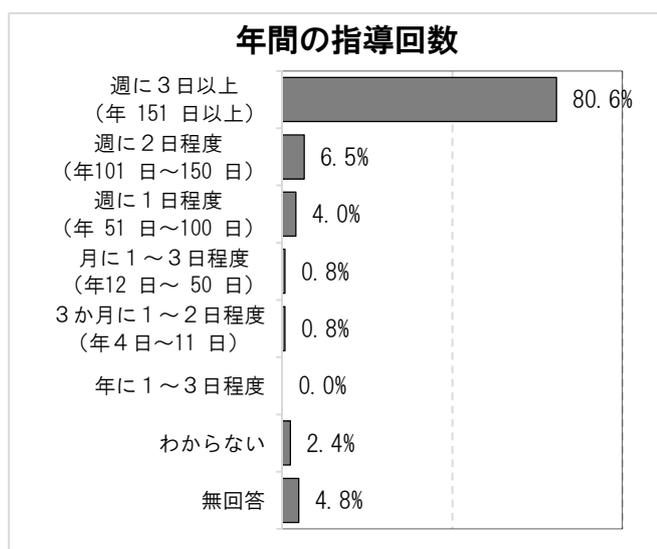
【参加者や部員数を増やすための取り組み内容（抜粋）】

- 知人を通じた声掛けなど積極的な勧誘活動。
- HP やツイッター等に搭載するなどの広報活動。
- 保護者へのスポーツ理解に努める。
- 小中高合同練習。OBや社会人を招いての合同練習。先輩、後輩の繋がり。
- 地域の小中学生や社会人も自由に参加できるようにしている。
- 外部コーチ、父兄への練習参加。
- 独自の大会を開催している。
- 計画的なトレーニングと県内チームの合宿誘致。
- 興味ある子も気軽に参加できるような内容である。
- 初心者でも気軽に体験できる場づくり。

運動・スポーツの指導状況について

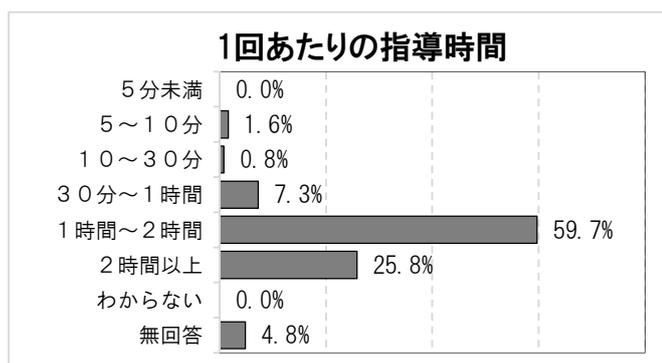
問 3-1 年間の指導回数はどのくらいですか。

	構成比
週に3日以上 (年 151 日以上)	80.6%
週に2日程度 (年101 日～150 日)	6.5%
週に1日程度 (年 51 日～100 日)	4.0%
月に1～3日程度 (年12 日～ 50 日)	0.8%
3か月に1～2日程度 (年4日～11 日)	0.8%
年に1～3日程度	0.0%
わからない	2.4%
無回答	4.8%
計	100.0%



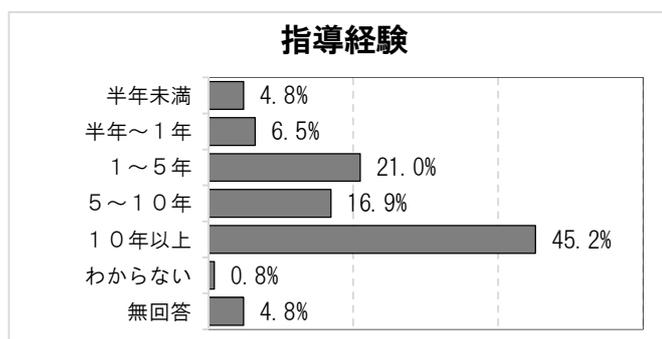
問 3-2 1 回あたりの指導時間はどのくらいですか。

	構成比
5分未満	0.0%
5～10分	1.6%
10～30分	0.8%
30分～1時間	7.3%
1時間～2時間	59.7%
2時間以上	25.8%
わからない	0.0%
無回答	4.8%
計	100.0%



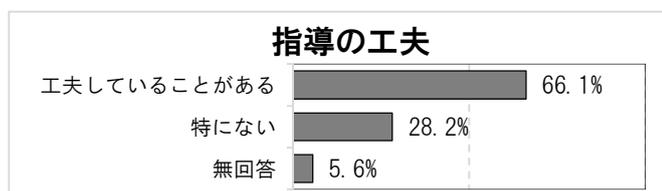
問 3-3 あなたの運動・スポーツの指導経験はどのくらいですか。

	構成比
半年未満	4.8%
半年～1年	6.5%
1～5年	21.0%
5～10年	16.9%
10年以上	45.2%
わからない	0.8%
無回答	4.8%
計	100.0%



問 3-4 運動・スポーツの指導にあたって工夫されていることはありますか。

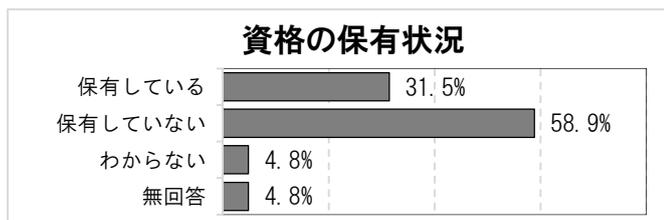
	構成比
工夫していることがある	66.1%
特にない	28.2%
無回答	5.6%
計	100.0%



運動・スポーツの指導に関する資格及び講習会等について

問 4-1 あなたは、指導者に関する資格は保有していますか。

	構成比
保有している	31.5%
保有していない	58.9%
わからない	4.8%
無回答	4.8%
計	100.0%

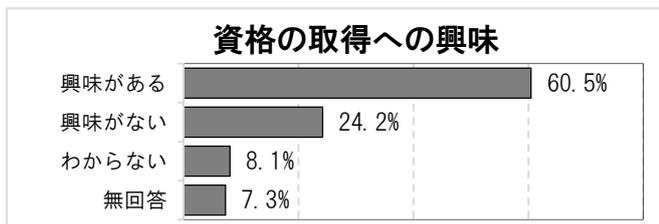


【具体的に】

全国小学生バレーボール指導者講習会／公認スポーツ指導者／日本バレーボール指導員／スポーツリーダー／スターターコーチ／スポーツ少年団 公認スポーツリーダー／J A B公認E-1 コーチライセンス／ミニバスケ指導資格E-1／日本バスケットボール協会D級指導者／保健体育教員免許状／J B C公認E-1 コーチ／J B C公認D級コーチライセンス／柔道資格とC指導員／日本サッカー協会指導者ライセンス公認C級、公認キッズリーダー／日本体育協会公認コーチ／ウェーブストレッチ、インストラクター、ストレッチポールインストラクター／日本公認審判員／D級コーチライセンス／剣道五段、空手道初段／スポーツ少年団指導員 講道館柔道A指導員／サッカーキッズインストラクター／C級ライセンス/スポーツ少年団指導員

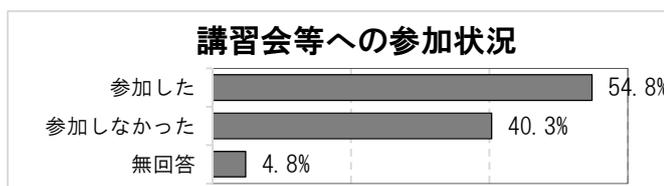
問 4-2 あなたは、指導者に関する資格の取得に興味がありますか。

	構成比
興味がある	60.5%
興味がない	24.2%
わからない	8.1%
無回答	7.3%
計	100.0%



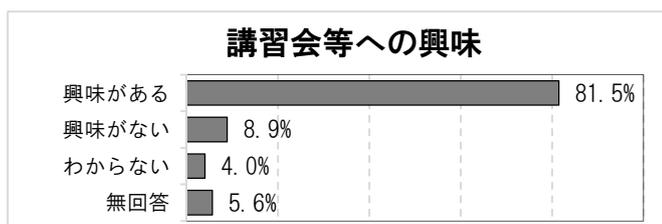
問 4-3 この1年間に、運動・スポーツの指導力の向上のための講習会等へ参加しましたか。

	構成比
参加した	54.8%
参加しなかった	40.3%
無回答	4.8%
計	100.0%



問 4-4 あなたは、運動・スポーツの指導力の向上のための講習会等に興味がありますか。

	構成比
興味がある	81.5%
興味がない	8.9%
わからない	4.0%
無回答	5.6%
計	100.0%



6. スポーツ関連団体等への意向調査

<調査概要>

目的：地域の実情に即した宮古島市スポーツ推進計画を策定する際の参考資料として活用するために、宮古島市のスポーツに関する動向と関連団体等の活動実態を把握することを目的に実施しました。

日時：平成27年1月21日（水）～23日（金）

対象：①宮古島市体育協会、②宮古地区小学校体育連盟、③宮古地区中学校体育連盟、④宮古地区高等学校体育連盟、⑤宮古島市社会福祉協議会、⑥総合型ひららスポーツクラブ、⑦上野スポーツクラブ、⑧城辺スポーツクラブ、⑨下地総合スポーツクラブ

<調査結果>

スポーツ機会と施設環境について

<スポーツ機会>

- 競技スポーツや軽スポーツなどのスポーツの種類が増えたことにより、サークルやクラブも増え、スポーツを行える機会はやや増えている。
- しかし、高校では生徒数の減少、チーム数の減少に伴い、スポーツ機会はやや減少している。
- 障がい者スポーツの競技人口が少ないため、試合をするために島外に行く必要がある。

<スポーツ施設環境>

- 公共スポーツ施設に関しては、施設の老朽化や機能、開館時間、料金などに関して、改善を求める意見が多くあった。
- 学校体育施設に関しては、施設の修繕の予算が確保できないため、各学校・各顧問は最低限の整備を行い、安全面に留意し、施設環境を確保している。
- 公共スポーツ施設は、バリアフリー化が進んでいない。宮古島市総合体育館以外は障がい者用トイレが不十分である。
- トップレベルの障がい者スポーツの競技者は、練習できる施設や指導者がいないため、沖縄本島を拠点にトレーニングを行っている。

<関連団体等の取り組み>

- 体育施設利用の調整、予算の確保、財政的な支援、合同練習や練習試合の実施、大会の実施等を行い、競技の底辺の拡大に努めている。
- 学校の芝生の管理は、各学校の教諭が行っている。

<今後、必要な取り組みや支援>

- 公共スポーツ施設の充実と使いやすさ（時間、料金）の改善。
- 高校生も宮古島市民であるので、高校生への施設使用料の減免。
- 公共スポーツ施設の積極的な開放（条例の見直し等）。
- 公共スポーツ施設のバリアフリー化。
- 障がい者スポーツの普及促進。
- 市総合体育館は、球技以外のスポーツもできる環境の整備。

競技力について

<競技力が向上した競技・低下した競技>

- 競技力が向上した競技では、「バレーボール」、「陸上競技」、「ウエイトリフティング」、「サッカー」などが挙げられた。
- 競技力が向上した理由として、指導者が増えた、指導者の質が向上した、小学校から競技を行っている、地域の人と一緒に競技をしている（陸上クラブやミニクラブなど）が挙げられた。
- 競技力が低下している競技では、「ソフトテニス・テニス」、「バドミントン」、「ボウリング」、「柔道」、「剣道」、「ゴルフ」などが挙げられた。
- 競技力が低下した理由として、競技者の高齢化、競技人口が少ない、指導者が少ない、施設が限られているなどが挙げられた。

<関連団体の取り組み>

- 競技団体と連携して、指導者講習会やスポーツ教室を開催している。
- 専門部を中心にして、強化練習を実施している。
- 競技団体が個々でスポーツ教室等を開催している。

<今後、必要な取り組みや支援>

- 指導者や審判員の資格取得の支援や育成。
- スポーツ教室や講習会の開催。
- プロなどのトップアスリートの競技を観られる機会の増加。
- 専門施設の充実（武道館、ウエイトリフティング、弓道、相撲など）。
- 障がい者スポーツやニュースポーツの認知度を高める広報・啓発活動。
- トライアスロン、エコマラソンなどの大規模な障がい者スポーツの大会の開催・誘致。

島外からの競技団体の受け入れについて

<現状>

- 指導者のネットワークを活用して、島外からの競技団体等を受け入れている。
- レベルの高いチームが宮古島を選んで合宿することは、とてもよい刺激となり、対象者のモチベーションアップや目標づくりにつながる。
- 長期休日（ゴールデンウィークや3連休など）に条例の関係で施設が解放されていないため、せっかく来たのに、施設が利用できないことが以前にあった。
- 障がい者競技（車いすバスケ）チームを招集したいが、予算や環境がないため難しい。

<今後、必要な取り組みや支援>

- 公共スポーツ施設の充実と使いやすさ（時間、料金）の改善。
- 島一体となって歓迎をし、臨機応変に対応できる体制。
- トップアスリートの受け入れ体制の整備。
- キャンプ誘致のための専門部署の設置。

総合型地域スポーツクラブの運営について

<現状>

- 市内に総合型クラブは4つあるが、活動している総合型クラブは2つ、活動を休止している総合型クラブは1つ、設立準備をしている総合型クラブは1つ。
- 活動しているクラブのうち1つが toto の助成金を活用し、もう1つは、会費等により自立し

た運営をしている。

○クラブマネージャーを設置しているクラブは1つで、法人化しているクラブはない。

<今後、必要な取り組みや支援>

○スポーツ教室などの委託を受けて収益を得たい。

○施設の維持管理のための道具を提供してほしい。

スポーツボランティアについて

○大会等の運営では、各競技団体に所属している役員や学生をボランティアとして活用している。特に、中学生や高校生に運営の支援をお願いしている団体が多い。

○障がい者スポーツでは、「手話ボランティア」、「ガイドヘルパー」などを中学生や高校生に依頼している。これらのボランティアは、夏休み等を利用して、ボランティア体験を行い、人材を確保している。

○イベントごとにスポーツボランティアを募集しているところはない。

その他意見

○優れた競技者は、県大会や全国大会などで1年間に何回も島外に行くことがあり、それがかなりの負担となっており、市内のスポーツイベント参加費から100円程度徴収して、これらの交通費等の資金にあてたい。

○スポーツアイランドを推進するための組織の設立。

○公共スポーツ施設のみでなく、街灯の整備等により、スポーツに親しめるまちづくりを推進してほしい。

○安心・安全に大会等が運営するためのスポーツ医科学の導入。

○福祉などの既存の組織を活用することが重要である。

宮古島市スポーツ推進計画

平成 27 年 7 月発行

編集・発行 宮古島市

宮古島市教育委員会

生涯学習部 市民スポーツ課

〒906-0007

沖縄県宮古島市平良字東仲宗根 676 番地 1

TEL 0980-73-4469

FAX 0980-73-5832

受託者 昭和株式会社



MIYAKOJIMA